

$$d = 0.75 \sqrt{\frac{D^3}{Nd_1}}$$

- d ハ螺釘ノ徑(耗ニテ)
- N ハ螺釘ノ數
- d₁ ハ螺釘心圈ノ徑(耗ニテ)
- D ハ發動機ノ種類ニ應ジ第四百三十三條乃至第四百四十六條又ハ第四百四十九條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑(耗ニテ)

前項ノ螺釘ガ中間軸ノ回轉數ト異ル回轉數ノ「クランク」軸ニ用ウルモノナルトキハ前項ノ算式中ノDハ第四百四十三條乃至第四百四十七條ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)ニ〇・九五ヲ乘ジタルモノトス
 螺釘心圈ニ於ケル軸鏝ノ厚サハ第一項又ハ前項ノ規定ニ依リ算定シタル螺釘ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ
 螺旋軸ノ螺釘心圈ニ於ケル軸鏝ノ厚サハ前項ノ規定ニ依ルノ外發動機ノ種類ニ應ジ第四百四十三條乃至第四百四十六條又ハ第四百四十九條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ〇・二五倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ
 軸鏝根元ニハ當該軸ノ徑ノ〇・一二五倍ヨリ小ナラザル半徑ノ丸味ヲ附スベシ

軸鏝ガ組成型ナルトキハ軸竝ニ軸鏝ヲ後退力ニ堪フル様適當ナル構造ト爲スベシ

第百五十七條 船尾管後端ノ軸受部ノ長サハ第四百四十三條乃至第四百四十六條、第百五十一條又ハ第百五十五條ノ規定ニ依リ算定シタル螺旋軸ノ徑ノ四倍未滿ト爲スコトヲ得ズ
 螺旋軸ハ成ルベク其ノ軸身ニ海水ノ接觸セザル様之ヲ適當ニ包被スベシ

螺旋軸ノ被金ノ厚サハ船尾管又ハ軸支肘ノ「ブツシユ」ニ當ル部分ニ付テハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$T = 0.08ds + 7.5$$

T ハ被金ノ厚サ(耗ニテ)

ds ハ發動機ノ種類ニ應ジ第四百四十三條乃至第四百四十六條又ハ第百五十一條ノ規定ニ依リ算定シタル螺旋軸ノ徑(耗ニテ)

前項以外ノ部分ノ被金ノ厚サハ前項ニ依リ算定シタルモノノ四分ノ三ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第百五十八條 發動機ノ電氣點火裝置ノ導線ハ完全ニ絶緣シタルモノニシテ損傷ヲ受クル虞ナク且油管、油槽又ハ

油ト接觸セザル様之ヲ敷設スベシ

整流子ハ之ヲ蔽圍スベシ

點火裝置ノ「コイル」ハ爆發性瓦斯ニ暴露スル虞アル場所ニ之ヲ備フルコトヲ得ズ

燃料油ノ點火又ハ氣化ノ爲燈ヲ使用スルトキハ之ヲ適當ナル臺ニ取附ケ且其ノ火焰ヲ蔽圍スベシ

第百五十九條 發動機ノ氣化器ハ發動機ノ停止シタル場合自働的ニ燃料ノ供給ヲ遮斷スル裝置ト爲スベシ

氣化器ガ油ノ溢出スル虞アルモノナルトキハ金網蓋ヲ有スル油受ヲ設ケ之ニ排油裝置ヲ備フベシ

氣筒ト氣化器トノ間又ハ氣化器ノ空氣吸入口ニハ成ルベク金網ノ隔膜ヲ備フベシ

第百六十條 第四百二十二條及前二條ノ規定ハ補機動作用ノ發動機ニ之ヲ準用ス

第二節 油槽、油管、潤滑油裝置等

第百六十一條 油槽、油管及此等ニ附屬スル弁竝ニ「コック」ニ付テハ本節ニ於テ特ニ規定シタルモノノ外第三章第十節ノ規定ヲ準用ス

第百六十二條 發動機ニハ其ノ停止中ニ於テモ手動「ポンプ」其ノ他ノ適當ナル方法ニ依リ氣筒ノ噴油弁ニ燃料油

ヲ供給シ得ル裝置ヲ設ケベシ

長サ三〇米以上ノ船舶ノディーゼル式發動機ノ燃料油管ニハ燃料油濾器二組ヲ備ヘ發動機ノ運轉中ト雖モ其ノ一組ヲ解放掃除シ得ル裝置ト爲スベシ

第百六十三條 重油管ニ非ザル燃料油ノ油管ニハ適當ニ熱處理ヲ爲シタル引拔銅管ヲ用キ其ノ配置ハ伸縮ノ自由ヲ妨ゲザルモノト爲シ其ノ連結ハ金屬製ノ圓錐形又ハ球面形接合ト爲スベシ

第百六十四條 燃料重油管ニハ成ルベク引拔銅管ヲ用キ其ノ配置ハ伸縮ノ自由ヲ妨ゲザルモノト爲スベシ
 噴油「ポンプ」ト氣筒トヲ連絡スル燃料重油管ノ連結ハ成ルベク金屬製ノ圓錐形又ハ球面形接合ト爲スベシ

第百六十五條 燃料油管ハ容易ニ檢査スルコトヲ得且外部ヨリ損傷ヲ受クル虞ナキ様敷設スベシ

第百六十六條 燃料油槽ハ之ヲ汽罐、汽管、廢汽管、消音器其ノ他ノ高熱物ヨリ適當ニ隔離シ其ノ弁又ハ「コック」等ハ外部ヨリ損傷ヲ受クル虞ナキ安全ナル場所ニ取附ケベシ

第百六十七條 燃料油槽ノ注油管ハ專用ノモノトシ成ルベク甲板上ニ達セシメ其ノ開口部ハ堅牢ナル蓋ヲ以テ密閉

シ得ルモノト爲スベシ
揮發油槽及壓力ヲ受クル油槽ニハ適當ナル逃出弁ヲ備ヘ
之ニ排氣管ヲ設ケ其ノ他ノ燃料油槽ニハ適當ナル空氣管
ヲ設クベシ

前項ノ排氣管及空氣管ハ其ノ端ヲ暴露甲板上排氣ニ因ル
危険ナキ場所ニ導キ且排氣ノ流通ヲ阻害シ又ハ波浪ノ侵
入スル虞ナキモノト爲スベシ

第六十八條 油槽ノ開口部ニハ容易ニ取外シ得ル堅牢ナ
ル金網膜ヲ裝置スベシ

第六十九條 船體ノ一部ヲ成サザル燃料油槽ニハ排油裝
置ヲ設ケ且内部ノ検査及掃除ヲ爲スニ適當ナル構造ト爲
スベシ

前項ノ油槽ニハ金屬製油受ヲ備ヘ之ニ排油受ヲ備ヘ之ニ
排油裝置ヲ設クベシ

第七十條 前三條ノ規定ハ小形油槽ニ付テハ管海官廳ニ
於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ適當ニ斟酌スルコ
トヲ得

第七十一條 強壓ヲ受クル燃料油槽ノ強力ハ氣槽ノ強力
ニ準ジ之ヲ算定スベシ

第七十二條 相當ノ壓力ヲ以テ潤滑油ヲ循環セシムルコ

トヲ要スル發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ常用動力潤滑
油「ポンプ」ノ外該「ポンプ」中最大能力ノモノト同等
ノ能力ヲ有シ且遲滯ナク使用シ得ル配置ト爲シタル豫備
動力潤滑油「ポンプ」ヲ備ヘ且油冷却器ヲ備フルトキハ
二様ノ冷却水送水裝置ヲ備フベシ

前項ノ豫備潤滑油「ポンプ」ハ管海官廳ニ於テ差支ナシ
ト認ムルトキハ之ヲ手動「ポンプ」ト爲シ又ハ之ヲ備ヘ
ザルコトヲ得

「クランク」室ヲ潤滑油溜トシテ使用スル「クランク」室
密閉式發動機ニハ「クランク」室内ノ油ヲ隨時排出シ得
ル裝置ヲ備ヘ木船ニ在リテハ此ノ排油ガ木製部分ヲ浸潤
セザル様裝置スベシ

前項ノ發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ潤滑油ノ清淨機又
ハ濾器ヲ備フベシ

潤滑油管系ニハ適當ノ位置ニ潤滑油ノ流動狀況ヲ見易キ
様適當ノ裝置ヲ備フルカ又ハ壓力計ヲ備フベシ

第七十三條 機關室及燃料油槽ヲ設置シタル區畫室ハ通
風良好ナルモノト爲スベシ

第三節 廢氣裝置及空氣壓縮機

第七十四條 廢氣管及消音器ハ循環水ニ依リ之ヲ冷却ス

ルカ又ハ之ニ適當ナル防熱裝置ヲ施スベシ
消音器ハ容易ニ掃除シ得ルモノト爲スベシ
二箇以上ノ發動機ノ廢氣ヲ一箇ノ消音器ニ導クトキハ停
止セル發動機ノ氣筒内ニ廢氣ノ侵入セザル様裝置スベシ
廢氣管ノ端ヲ船外ノ水線附近ニ開放スルトキハ氣筒ニ水
ノ侵入セザル様裝置スベシ
前四項ノ規定ハ補機動作用發動機ニ之ヲ準用ス

第七十五條 長サ三〇米以上ノ船舶ニシテ單働掃除空氣
「ポンプ」、獨立掃除送風機又ハ獨立複働掃除空氣「ポン
プ」一箇ノミヲ備フルモノニ在リテハ其ノ二分ノ一以上
ノ能力ヲ有シ且隨時使用シ得ル副掃除裝置ヲ備フベシ但
シ獨立掃除送風機又ハ獨立複働掃除空氣「ポンプ」ヲ備
フル場合ニ於テ該送風機又ハ「ポンプ」ガ其ノ動源ノ二
分ノ一以上ノ能力ヲ有シ且隨時使用シ得ル他ノ動源ニ依
リ容易ニ動作セラルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十六條 空氣噴油式發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ
其ノ全力運轉ニ必要ナル壓縮空氣ヲ供給シ得ル噴油用空
氣壓縮機ノ外該壓縮機中最大能力ノモノノ二分ノ一以上
ノ能力ヲ有シ且隨時使用シ得ル噴油用副空氣壓縮機ヲ備
フベシ

始動ニ壓縮空氣ヲ要スル發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ
始動用氣槽ニ壓縮空氣ヲ充填スル正副二様ノ裝置ヲ備ヘ
少クトモ其ノ一ハ主機ト獨立ノ動力ニ依リ動作セラルル
モノト爲スベシ但シ副裝置ハ發動機ガ壓縮空氣ニ依ラズ
シテ推進器ヲ反轉セシメ得ルモノナルカ又ハ小形ノモノ
ナルトキハ管海官廳差支ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ手
動空氣壓縮機ト爲シ又ハ之ヲ備ヘザルコトヲ得

前項ノ獨立動力空氣壓縮機ノ原動機ガ其ノ始動ニ壓縮空
氣ヲ要スルモノナルトキハ應急用空氣壓縮機ヲ備フベシ
應急用空氣壓縮機ガ動力ニ依リ動作セラルルモノナルト
キハ其ノ原動機ハ他ノ機關ノ停止中ト雖モ始動シ得ルモ
ノナルコトヲ要ス

應急用空氣壓縮機ガ動力ニ依リ動作セラレ其ノ原動機ノ
始動ニ壓縮空氣ヲ要スルモノナルトキハ該原動機ノ始動
ニ用フル小形氣槽及之ニ充氣スル適當ナル手動空氣壓縮
機ヲ備フベシ

手動空氣壓縮機ハ構造堅牢且容量充分ナルモノトシ使用
上便宜ナル適當ノ場所ニ之ヲ備フベシ

第七十七條 空氣壓縮機ノ壓縮筒ニハ安全弁又ハ逃出弁
ヲ備ヘ各壓縮筒内ノ最大壓力ノ一・一倍以下ノ壓力ニ於

テ逃氣スル様之ヲ調整スベシ
壓縮空氣ノ冷却器ハ容易ニ解放シテ検査及掃除ヲ爲シ得
ル構造ト爲スベシ

第四節 氣 槽

第七十八條 發動機ノ始動用氣槽ノ容量ハ左ノ算式ニ依
リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$V = C \frac{nd^3 S}{P-p}$$

V ハ始動用氣槽ノ容量(立方米ニテ)

n ハ始動ノ際必要ナル始動弁ヲ備フル氣筒ノ數

D ハ氣筒ノ徑(米ニテ)

S ハ行長(米ニテ)

P ハ始動用氣槽内ノ壓縮瓦斯ノ最大使用壓力(毎平
方糎ニテ)

p ハ定數ニシテ「デイーゼル」式發動機ニ對シテハ

一〇、燒球式發動機ニ對シテハ四

C ハ定數ニシテ「デイーゼル」式發動機ニ對シテハ

六〇、燒球式發動機ニ對シテハ一・二、但シ壓縮空氣

ニ依ラズシテ推進器ヲ反轉セシメ得ル發動機ニ付テ

ハ之ヲ夫々其ノ二分ノ一ト爲スコトヲ得

氣槽ノ制限壓力ガ之ニ連絡スル空氣壓縮機ノ最大壓力ヨ
リ小ナルトキハ氣槽ニ適當ナル安全弁又ハ逃出弁ヲ備ヘ
制限壓力ノ一・一倍以下ノ壓力ニ於テ逃氣スル様之ヲ調
整スベシ

氣槽ニハ取扱者ノ見易キ位置ニ壓力計ヲ備フベシ

氣槽ニハ其ノ下部ニ排水弁又ハ排水「コック」ヲ備ヘ且

成ルベク之ヲ二重ニ設クベシ

氣槽ニ接続スル管ニハ槽ニ接続スル部分ニ於テ弁又ハ

「コック」ヲ備フベシ

第八十四條

氣槽ハ別ニ定ムル所ニ依ルノ外其ノ各部ヲ
瓦斯熔接又ハ電氣熔接ニ依リ接合スルコトヲ得ズ但シ制
限壓力毎平方糎一〇糎以下ニシテ鋼板ノ厚サ六糎以上ノ
モノニ付管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依リ熔接スル場合
ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ニ依リ氣槽ノ縱接合ヲ熔接シタルトキハ
鏡板取附前検査ヲ受クベシ

無接合氣槽又ハ鍛合若ハ瓦斯熔接シタル氣槽ハ附屬具取
附ノ爲ノ機械工事ヲ行フ前之ニ適當ナル熱處理ヲ爲スコ
トヲ要ス電氣熔接シタル氣槽ニ付管海官廳ニ於テ必要ト
認メタル場合亦同ジ

發動機二箇以上ヲ備フル船舶ノ發動機ノ始動用氣槽ノ容
量ハ前項ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ一・五倍ヨリ小
ナルコトヲ得ズ

第七十九條

空氣噴油式發動機ヲ備フル船舶ニ在リテハ
噴油用氣槽ハ二箇以上トシ其ノ一箇ヲ使用セザルモ發動
機ノ運轉ニ支障ナキ裝置ト爲スベシ但シ始動用氣槽ノ強
力ガ噴油用空氣壓力ニ對シ充分ナルモノナルトキハ始動
用氣槽ヲ以テ噴油用氣槽ノ全部又ハ一部ト爲スコトヲ得
第八十條 氣槽ノ構造ニ關シテハ別段ノ規定アル場合ヲ
除クノ外第三章第二節ノ規定ヲ準用ス

第八十一條

氣槽ノ制限壓力ハ前條ノ規定並ニ第八十
五條乃至第八十八條ノ規定ニ依リ算定シタル氣槽各部
ノ強力ニ對スル制限壓力中最小ノモノトス

第八十二條

無接合筒形氣槽ノ胴板ノ第一號試驗片ニ依
ル抗張試驗ニ於ケル標點間伸長百分率ハ第十六條第一號
ノ表中其ノ他ノ鋼板ニ對スルモノヨリ二ヲ減ジタルモノ
ト爲スコトヲ得

第八十三條

氣槽ハ内部ノ検査及掃除ヲ爲スニ適當ナル
構造ト爲スベシ
氣槽ニハ制限壓力及水壓試驗壓力ヲ適當ニ表示スベシ

第八十五條

無接合筒形氣槽又ハ鍛合若ハ熔接シタル筒
形氣槽ノ胴ノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算
定シタルモノトス

$$P = \frac{C \times S \times (T - 1.5)}{D}$$

P ハ制限壓力(毎平方糎ニテ)

S ハ胴板ノ抗張力(毎平方糎ニテ)

D ハ胴ノ内徑(糎ニテ)

T ハ胴板ノ厚サ(糎ニテ)

C ハ無接合氣槽ニ在リテハ五二、鍛合又ハ熔接シタ
ル氣槽ニ在リテハ三六

第八十六條

筒形氣槽ノ支柱ヲ有セザル扁平鏡板ノ強力
ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{2.67 S (T - 1.5)^2}{D^2}$$

P ハ制限壓力(毎平方糎ニテ)

D ハ鏡又ハ螺釘ヲ以テ鏡板ヲ胴ニ固著シタル場合ニ

ハ鏡又螺釘心圈ノ徑(糎ニテ)、平板ヲ胴ニ熔接シ
タル場合ニハ胴ノ内徑(糎ニテ)

T ハ鏡板ノ厚サ(糎ニテ)但シ鏡板ニ人孔ヲ設ケタ

ルトキハ其ノ厚サヨリ三耗ヲ減ジタルモノ
S ハ鏡板ノ抗張力(毎平方糎ニテ)

第百八十七條 筒形氣槽ノ支柱ヲ有セザル皿形鏡板ノ強力
ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{233 S (L - 1.0)^2}{D^2}$$

P ハ制限壓力(毎平方糎ニテ)

S ハ鏡板ノ抗張力(毎平方糎ニテ)

T ハ鏡板ノ厚サ(耗ニテ)但シ鏡板ニ人孔ヲ設ケタルトキハ其ノ厚サヨリ三耗ヲ減ジタルモノ

d ハ鏡板ノ曲線ノ彎曲起點ヲ連ヌル圓ノ徑但シ曲線ノ彎曲ノ内半徑ガ鏡板ノ曲線部ノ厚サノ二・五倍ヨリ大ナルトキハ胴ノ内徑ヨリ鏡板ノ曲線部ノ厚サノ七倍ヲ控除シタルモノ(耗ニテ)

第百八十八條 筒形氣槽ノ内徑ヨリ大ナラザル内半徑ヲ有スル球面狀ノ鏡板ニシテ支柱ヲ備ヘザルモノノ強力ニ對スル制限壓力ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{C \times S \times (L - 1.5)}{R}$$

P ハ制限壓力(毎平方糎ニテ)

「ポンプ」ニ依リ遲滯ナク充分冷却水又ハ冷却油ヲ供給セシメ得ル様裝置スベシ

氣筒二箇以上ヲ備フル發動機ニ在リテハ各氣筒ニ供給スル冷却水又ハ冷却油ノ量ヲ加減シ得ル裝置ヲ設クベシ

氣筒ノ水包室及冷却水管ノ最低部ニハ排水裝置ヲ備フベシ

前五項ノ規定ハ小形船ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

冷却水又ハ冷却油ハ冷却スベキ部分ノ成ルベク高キ箇所ヨリ之ヲ排出セシムベシ

第百九十一條 脚荷水「ポンプ」ハ機關室ノ淫水ヲ直接吸引シ得ル様裝置スベシ

第六節 水壓試驗

第百九十二條

「ディーゼル」式發動機ノ氣筒、内氣、氣筒蓋、鑄造「ピストン」、氣筒高壓部ニ附屬スル諸弁匣又ハ鑄造噴油「ポンプ」ハ之ヲ製造シ削上ヲ爲シタルトキ左表ニ依リ水壓試驗ヲ執行スベシ但シ管海官廳ノ見込ニ依リ内面ヲ仕上ゲ且外面ヲ適當ニ旋削シテ十分ニ検査ヲ爲シ重大ナル缺點ナキモノト認メタル内筒ノ水壓試驗及内外兩面ヲ適當ニ削仕上ゲタル「ピストン」ノ高温高壓

S ハ鏡板ノ抗張力(毎平方糎ニテ)
T ハ鏡板ノ厚サ(耗ニテ)但シ鏡板ニ人孔ヲ設ケタルトキハ其ノ厚サヨリ三耗ヲ減ジタルモノ
R ハ鏡板球面ノ内半徑(耗ニテ)
C ハ鏡板ガ氣筒ノ外方ニ突出スルモノナルトキハ二・五ノ前項ノ鏡板ト胴トヲ接合スル爲曲線シタル部分ノ彎曲内半徑ハ鏡板ノ厚サノ四倍未滿ナルコトヲ得ズ
第五節 排水、吸水及冷却水
ニ關スル裝置

第百八十九條

排水、吸水及冷却水ニ關スル裝置ニ付テハ第百條第百四條及第八條ノ規定並ニ本節ニ於テ特ニ規定スル場合ヲ除クノ外第三章第七節及第三百三十八條ノ規定ヲ準用ス

第百九十條

發動機ノ冷却水ヲ船外ヨリ吸引スル管ニハ適當ナル弁除ヲ備ヘ且之ヲ解放又ハ掃除ヲ爲ス場合ニ於テモ當該發動機ヲ停止スルコトヲ要セザル裝置ト爲スベシ冷却水又ハ冷却油ノ排出管ニハ溫度計ヲ備ヘ且成ルベク管内ノ流動狀況ヲ見得ル裝置ヲ設クベシ
冷却「ポンプ」ニ故障ヲ生ジタル場合ニ於テモ他ノ動力

ノ氣體ニ接觸スル部分ノ水壓試驗ハ之ヲ省略シ又内筒ヲ有セザル氣筒若ハ氣筒蓋等ノ高温高壓ノ氣體ニ接觸スル部分ノ水壓試驗ハ其ノ冷却部ヲ毎平方糎一〇糎以上ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

水壓試驗執行部分	試驗壓力
氣筒又ハ内筒ノ高温高壓部ニシテ行長ノ三分ノ一ニ相當スル間	氣筒内ノ最大壓力ノ一・五倍ノ壓力
氣筒蓋ノ高温高壓ノ氣體ニ接觸スル部分	同右
「ピストン」ノ高温高壓ノ氣體ニ接スル部分	同右
氣筒高壓部附屬諸弁匣	同右
「ピストン」ノ冷却部	毎平方糎四糎
氣筒水包室、氣筒蓋ノ冷却部	毎平方糎四糎
噴油「ポンプ」	「最大壓力ノ」・五倍ノ壓力ヲ常用最大壓力ガ毎平方糎四〇糎未滿ナルトキハ其ノ一・五倍ノ壓力、毎平方糎四〇糎以上ナルトキハ常用最大壓力ニ毎平方糎二〇糎加ヘタルモノ

前項ノ規定ハ船舶ノ推進ニ關係ヲ有スル發電機又ハ空氣壓縮機ヲ動作スル「デイーゼル」式發動機ニ之ヲ準用ス但シ小形「デイーゼル」式發動機ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第九十三條 「デイーゼル」式發動機ノ噴油用又ハ始動用ノ空氣壓縮機ノ壓縮筒、壓縮筒蓋若ハ壓縮空氣弁匣ハ之ヲ製造シ制仕上ヲ爲シタルトキ空氣部ハ最大壓力ノ一・五倍、水部ハ每平方糎二疋ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

壓縮空氣冷却器ハ之ヲ製造シタルトキ空氣部ハ該部ニ於ケル空氣ノ最大壓力ノ一・五倍、水部ハ該部ニ於ケル冷却水ノ常用最大壓力ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第九十四條 潤滑油「ポンプ」、燃料油「ポンプ」又ハ冷却「ポンプ」ノ油筒、水筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ制仕上ヲ爲シタルトキ常用最大壓力ノ二倍ノ壓力ヲ以テ試験スベシ

油冷却器又ハ清水冷却器ハ之ハ製造シタルトキ附屬具ヲ取附ケタル儘常用最大壓力ノ二倍ノ壓力ヲ以テ試験スベシ

之ヲ省略スルコトヲ得

第九十八條 燃料油加熱用蒸氣管ハ船内取附後常用最大汽壓ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第九十九條 第二百一十一條及第二百二十二條ノ規定ハ發動機ヲ備フル船舶ニ付之ヲ適用ス但シ小型船ノ發動機ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第七節 補汽罐

第二百條 補汽罐ノ構造、附屬品、給水装置其ノ他ニ付テハ蒸氣機關ヲ備フル船舶ノ補汽罐ニ關スル規定ヲ適用ス但シ發動機ノ廢氣ニ依リ加熱スル補汽罐ノ安全弁ノ面積ノ算定ニ當リテハ第七十八條第一項ノ算式中定數五ハ三、三ト爲スベシ

第五章 特殊施設

第二百一條 寒冷ノ地域ニ碇泊スルコトアルベキ船舶ノ發動機ハ碇泊中其冷却水ヲ排出スル装置及出火ノ虞ナキ適當ナル始動促進装置ヲ備ヘ且潤滑油ノ凝固ヲ防止スル様之ヲ適當ニ裝置スベシ

結氷セル水域又ハ浮氷多キ水域ヲ主トシテ航行スル船舶ノ螺旋軸ノ徑ハ成ルベク第三十五條、第四百十三條乃至

前二項ノ規定ハ小形發動機ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第九十五條 氣槽ハ左ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

- 一 銲接合又ハ無接合ナルモノナルトキ 制限壓力ノ一・五倍ノ壓力
- 二 鍛合又ハ熔接ノモノナルトキ 制限壓力ノ二・〇倍ノ壓力

氣槽ニ附屬スル弁若ハ「コック」、氣槽ニ連絡スル空氣管又ハ之ニ附屬スル弁若ハ「コック」ハ之ヲ製造シ制仕上ゲタルトキ制限壓力ノ一・五倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ但シ空氣管ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第九十六條 燃料油槽ハ之ヲ製造シタルトキ附屬具ヲ取附ケタル儘頂板上二・五米以上ノ水高壓力又ハ之ニ相當スル壓力ヲ以テ試験スベシ但シ強壓油槽ノ試験壓力ハ油槽ノ常用壓力ノ二倍トス

第九十七條 機關室内ニ在ル燃料油管系ハ噴油管系ヲ除ク外船内取附後每平方糎二疋ノ壓力ヲ以テ試験スベシ但シ短小ナル燃料油管系ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ

第四百十六條、第五百一十一條、第五百十三條又ハ第五百十五條ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ一・〇五ヲ乘ジタルモノト爲スベシ

前項ノ船舶ノ螺旋推進器ノ翼ノ材料ハ成ルベク通常ノ鑄鐵ニ非ザル他ノ強靱ナルモノト爲スベシ
第一項ノ船舶ノ外板ニ取附クル弁、「コック」又ハ脚筒等ハ氷又ハ寒氣ノ爲損傷セザル様之ヲ適當ニ裝置スベシ
第一項ノ船舶ノ外板ニ於ケル循環水又ハ冷却水ノ吸入口ハ氷ノ爲閉塞セラルルコトヲ防止スル様之ヲ適當ニ裝置スベシ

第二百二條 汽機、發動機若ハ他ノ機械ノ回轉部若ハ往復動部、機關ノ高熱部又ハ強電氣ノ帶電部ハ之ヲ監視シ若ハ操作セル者又ハ之ニ近接スル者適當ナル注意ヲ怠リタル場合ノ外傷害ヲ受ケザル様適當ニ施設スベシ

第二百三條 機關室其ノ他通風良好ナラザル場所ハ油瓦斯、「アンモニア」瓦斯其ノ他取扱者ノ健康ニ障害ヲ及ボシ易キ瓦斯ノ漏洩停帶ヲ防止スル様適當ニ施設スベシ

第二百四條 蒸氣溜其ノ他ノ高温ノ受壓容器ノ材料、構造、強力及試験ニ付テハ第三章第二節乃至第五節ノ規定ヲ準

第六條 遠洋漁船ニ搭載スル厩船物ガ移動シ易キ物質ナルトキハ隔板其ノ他ノ防移裝置ヲ爲スヘシ

第七條 第一級漁船以外ノモノニシテ長、幅、深ヲ相乗シタル數百十三未滿ノモノニ在リテハ甲板上下ヨリ舵ヲ引揚ケ得ル構造ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ舵架ノ構造ヲ特ニ堅牢ト爲スヘシ

第八條 機關ヲ有スル船舶ニシテ船舶ノ大サニ對シ帆面積ノ小ナル帆裝ヲ有スルモノ及長、幅、深ヲ相乗シタル數百十三未滿ノ船舶並打瀬網漁業ニ使用スル船舶ニ在リテハ適當ノ構造ヲ爲スコトキハ起倒シ得ヘキ櫓ヲ用ウルコトヲ得

第九條 操舵裝置ハ船ヲ最速力ニ於テ航走セシメ舵ヲ最大角度ニ取りテ之ヲ試驗シ故障ナキモノナルコトヲ要ス

第十條 長、幅、深ヲ相乗シタル數百四十未滿ノ遠洋漁船ニ在リテハ海錨一箇以上ヲ備ヘ且「ケツチ」、「ヨール」及「スクーナ」以外ノモノナルトキハ船尾ニ隨時ニ小櫓ヲ立テ三角帆ヲ使用シ得ルノ裝置ヲ爲スヘシ

第十一條 遠洋漁船ノ舷側ニ柵ヲ設クルモノニ在リテハ充分ニ排水シ得ルノ構造ト爲スヘシ

第十二條 遠洋漁船ノ甲板ハ肋骨ヲ建テタル後之ヲ張ルヘ

第十二條ノ七 活魚船ヲ有スル鋼製遠洋漁船ニシテ其ノ部ニ縦通隔壁ヲ有スルモノニ在リテハ其ノ部ノ肋骨ノ寸法

及甲板ノ厚ヲ増ストキハ肋骨ヲ省略スルコトヲ得

第十二條ノ八 木製遠洋漁船ノ上甲板室ハ其ノ周圍四箇所以上ニ於テ甲板室上部ニ通スル鐵釘ヲ以テ甲板梁ニ固著スヘシ

第十二條ノ九 燃油槽ヲ甲板上ニ設クルトキハ特ニ堅固ニ之ヲ取附クヘシ

第十三條 漁獲物處理運搬船ニハ處理設備若ハ活魚設備又ハ保藏設備ヲ爲スヘシ

第十四條 船體又ハ機關ノ構造寸法カ本規程ニ該當セサル場合ニ於テモ主務大臣ニ於テ本規程ノ定ムル所ト同一ノ效力ヲ有スト認メタルモノハ本規程ニ適合スルモノト看做ス

第十四條ノ二 船ノ長、幅、深ハメートルヲ單位トシメートル以下ハ木船ニ在リテハ一位、鋼船ニ在リテハ二位ニ止メ其ノ以下ハ四捨五入スルモノトス

第二章 長、幅、深ヲ相乗シタル數百

十三未滿ノ木製帆船ノ船體

第十五條 本章ニ於テ第一數ト稱スルハ船ノ深ト幅ノ二分

遠洋漁船検査規程

シ但シ主トシテ蒸曲肋骨ヲ使用スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條ノ二 機關ヲ有スル遠洋漁船ニ在リテハ隨時ニ後進ヲ爲シ得ルノ裝置ヲ爲スヘシ

第十二條ノ三 機關ヲ有スル遠洋漁船ニ在リテハ機力ニ依ル唧筒ヲ設ケ機關室及魚船ニ其ノ吸水管ヲ導入スヘシ

第十二條ノ四 鋼製遠洋漁船ノ船首材、船尾材、龍骨、外板、甲板、肋骨、梁、舵及舵柄ハ材料試驗ニ合格シタルモノ又ハ検査官吏ノ適當ト認メタル證明書アルモノナルコトヲ要ス

前項ノ試驗ハ造船規程第一編第二章ノ規定ニ依ル但シ鑄鋼製ノモノニ在リテハ抗張試驗及屈曲試驗ハ検査官吏必要ナシト認メタルトキ之ヲ省略スルコトヲ得

第十二條ノ五 鋼製遠洋漁船ハ船首材ノ前面ヲ距ルコト船ノ長ノ二十分ノ一ヨリ少カラサル箇所及小クモ機關室ノ前後各一箇所ニ支水隔壁ヲ設クヘシ但シ長、幅、深ヲ相乗シタル數百七十未滿ノ船舶ニシテ機關室ヲ船尾ニ設クルモノノ機關室後部ノ支水隔壁ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條ノ六 鋼製遠洋漁船ノ彎曲部角型ナルモノニ在リテ部ハ肘板ヲ以テ其ノ部ノ肋骨ヲ接續セシムヘシ

ノ一トヲ加ヘタル數ヲ謂フ

第二數ト稱スルハ船ノ長、幅、深ヲ相乗シタル數ヲ謂フ

第十六條 前條ニ於テ船ノ長ト稱スルハ甲板梁上ニ於テ龍首材ノ後面ヨリ單螺推進器ヲ有スル船舶ナルトキハ舵柱ノ前面迄、其ノ他ノ船舶ナルトキハ船尾材ノ前面迄、舵柱又ハ船尾材ヲ有セサルモノニ在リテハ船尾板ノ前面迄ノ水平距離ヲ謂フ但シ上部彎曲ノ船首材ヲ備フル船舶ニ在リテハ該材下部ノ後面ニ沿ヒテ眞直ニ延長シタル線ト甲板梁ノ上面線トノ交叉點ヨリ之ヲ測ルモノトス

幅ト稱スルハ船體ノ最高部ニ於ケル肋骨ノ外面ヨリ外面迄ノ距離ヲ謂フ

第十七條 本章ニ於テ規定シタル寸法及員數ハ最小ノ限度ヲ示シ距離ハ最大ノ限度ヲ示シタルモノトス

第十八條 石油發動機ヲ備フル漁船ノ機關室ハ鐵板若ハ亜鉛板ヲ張り又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ燃燒豫防ノ裝置ヲ爲スヘシ

第十九條 吸入瓦斯發動機ヲ据附クルモノニ在リテハ機關室ニ徑二十センチメートル以上ノ通風器ヲ一個以上設ク

ヘシ但シ検査員ニ於テ之レト同等以上ノ效力アリト認ムル設備ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十条

甲板ニ設クル機関室口、艙口、載炭口、出入口及其ノ他ノ諸口ノ縁材ハ其ノ高甲板七面ヨリ十五センチメートル以上ト爲シ敲釘ヲ以テ梁及縦梁ニ固著スヘシ但シ直接波浪ヲ受ケサル場所ニ於ケルモノ若ハ特殊ノ水密装置ヲ備フルモノ又ハ第二數五十七以下ノ漁船ニ在リテハ縁材ノ高ヲ減シ又ハ甲板上面ト平直ト爲スコトヲ得

第二十一条

甲板ニ設クル機関室口ニハ甲板上面ヨリ四十六センチメートル以上ノ高ヲ有スル圍壁ヲ取附クベシ

第二十二条

艙口ニハ堅牢ナル蓋板ヲ備ヘ且之ヲ堅固ニ密閉シ得ヘキ様覆布及適當ノ締具ヲ備フヘシ但シ検査員カ覆布ト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノヲ備フルトキハ覆布ハ之ヲ備ヘサルコトヲ得

甲板上ノ機関室口、載炭口、出入口及其ノ他ノ諸口ニハ蓋蓋又ハ蓋板及覆布並適當ノ締具ヲ備フルカ其ノ他水密トナルヘキ装置ヲ爲スヘシ但シ検査員ニ於テ水密ト爲ス必要ナシト認ムル甲板口ハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ諸口ニシテ被蓋ヲ備フルモノニ在リテハ各側ノ縁材ニ徑一センチメートル以上ノ金屬製環一箇以上ヲ敲

著又ハ螺著シ綱ニテ締附クル装置ヲ爲スヘシ

第二十三条

曲材ハ總テ木目ノ貫通シタルモノナルコトヲ要ス

第二十四条

船體ヲ構成スル木材ハ有害ナル節瘤其ノ他ノ缺點ヲ有セス且充分乾燥シタルモノナルコトヲ要ス

第二十五条

遠洋漁船ニハ船ノ全長ヲ通シテ水密構造ノ甲板ヲ設クヘシ但シ漁業上差支アルトキハ機關室以外ノ部分ニ於テ船ノ全長ノ三分ノ一未滿ハ甲板ヲ設ケサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ支水隔壁ヲ設クヘシ

第二十六条

肋骨ノ截面及心距ハ第一號表ニ依ルヘシ但シ甲板ノ厚ヲ増ストキハ其ノ割合ニ應シ截面ヲ減シ又ハ心距ヲ増スコトヲ得

第二十七条

前條但書ノ場合ニ於テ肋骨ノ心距ハ機關室ニ於テハ四十三センチメートル、其ノ他ノ箇所ニ於テハ五十一センチメートルヲ超ユルコトヲ得但シ機關室以外ノ場所ニ於ケル距離百五十二センチメートル以内ノ隔壁間ニ設クル肋骨ニ在リテハ尙其ノ心距ヲ適當ニ増加スルコトヲ得

第二十八条

單材肋骨ノ嵌接又ハ果接ノ長ハ用材ノ深ノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

單材肋骨ノ衝接ニハ肋材ト同截面ヲ有スル添材ヲ附シ衝接ノ兩側ニ二箇以上ノ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

第二十九条

肋骨ハ龍骨及内龍骨ヲ貫通シ敲釘ヲ以テ緊著スヘシ但シ數ヲ用ウルモノニ在リテハ十五センチメートル以内ノ心距ニ於テ敲釘ト打込釘ト交互ニ用キ肋骨ト敷トヲ緊著スヘシ

第三十条

肋骨ハ蒸曲材ヲ用ウルトキハ適當ニ截面ヲ減スルコトヲ得

第三十一条

活魚艙ニ縦通隔壁ヲ設クルトキハ其ノ部分ノ肋骨ノ數ヲ減スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ活魚艙兩端ノ肋骨ノ截面ヲ増加シ縦通隔壁下部ニ縦通材ヲ取附ケ且其ノ部分ノ外板ノ厚ヲ増スカ其ノ他適當ナル補強構造ヲ爲スヘシ

活魚艙内ノ肋骨ハ縦通隔壁ニテ止ムルコトヲ得但シ肋骨ヲ止メタル所ニ於テ百二十九平方センチメートル以上ノ截面ヲ有スル縦通材ヲ附シ艙ノ前後ニ肋骨以上延長セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テハ隔壁部ニ於ケル肋骨ハ之ヲ左右ニ通セシムヘシ

第三十二条

梁ノ截面ハ第一號表ニ依ルヘシ

第三十三条

梁ノ心距ハ四呎ヲ超エサル範圍ニ於テ第一號表ニ依ル肋骨心距ノ三倍以内ト爲スコトヲ得但シ心距百二十二センチメートル以内ニ梁ヲ設クルコト能ハサルトキハ肋骨ノ截面又ハ外板ノ厚ヲ増スカ其ノ他適當ナル補強構造ヲ爲スヘシ

第三十四条

梁ハ成ルヘク肋骨ノ上ニ設ケ梁曲材ヲ以テ肋骨ニ緊著スヘシ但シ梁受材ヲ設クルトキハ適當ニ梁曲材ノ數ヲ減スルコトヲ得

前項ノ梁受材ノ截面ハ七十七平方センチメートル以上ト爲スヘシ

第三十五条

甲板ノ厚ハ第二號表ニ依ルヘシ

第三十六条

甲板ノ幅ハ二十五センチメートルヲ超ユヘカラス但シ適當ナル補強構造ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

第三十七条

甲板ハ幅十五センチメートル以下ナルトキハ一箇、六吋ヲ超ユルトキハ二箇以上ノ打込釘ヲ以テ梁毎ニ固著スヘシ

第三十八条

甲板ノ側縁ニハ梁壓材ヲ設クヘシ但シ其ノ厚ハ甲板ノ厚ヨリ一・三センチメートル以上大ナルコトヲ要ス

第三十九条

梁壓材ハ敲釘ヲ以テ舷柱毎ニ緊著シ打込釘

ヲ以テ梁及梁受材ニ固著シ且肋骨ノ間ニ於テ外板ニ固著スヘシ

第四十條 梁壓材ノ嵌接ノ長ハ用材ノ幅ノ二倍以上ト爲シ三箇以上ノ釘ヲ以テ固著スヘシ

第四十一條 外板ノ厚ハ第二號表ニ依ルヘシ但シ肋骨ノ心距ヲ減スルトキハ適當ニ其ノ厚ヲ減スルコトヲ得

第四十二條 外板ノ厚ハ第二號表ニ依ル厚ヨリ百分ノ五十以上増加スルコトヲ得ス

第四十三條 外板ノ幅ハ三十センチメートルヲ超ユルコトヲ得ス

第四十四條 外板ハ其ノ幅二十二センチメートル未満ナルトキハ肋骨毎ニ二箇、幅二十二センチメートル以上二十センチメートル未満ナルトキハ肋骨毎ニ三箇、幅二十センチメートル以上ナルトキハ肋骨毎ニ四箇ノ釘ヲ以テ之ヲ固著スヘシ但シ外板ノ幅二十七センチメートル以上ナル場合ニ於テモ單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルモノ又ハ肋骨毎ニ木釘ヲ用ウルモノニ在リテハ肋骨毎ニ三箇ヲ用ウルコトヲ得

外板ノ縦線ニ縫釘ヲ使用スルトキハ前項ノ釘ノ數ヲ肋骨

毎ニ一箇宛減スルコトヲ得

前二項ノ固著釘ハ肋骨二本置ニ一箇以上ノ敲釘又ハ木釘ヲ用ウルコトヲ要ス

第四十五條 厚三・二センチメートルヲ超エサル外板ハ其ノ縦線ヲ果接ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

第四十六條 彎曲部ノ角形ナルモノニ在リテハ船ノ首尾ヲ通シテ其ノ部ニ外部彎曲部縦通材ヲ設ケ其ノ截面ヲ六十五平方センチメートル以上ト爲スヘシ但シ首尾兩端ニ於テハ適當ニ其ノ截面ヲ減スルコトヲ得

第四十七條 外部彎曲部縦通材ハ肋骨毎ニ敲釘ヲ以テ肋骨ニ緊著スヘシ

第四十八條 外部彎曲部縦通材ノ嵌接ノ長ハ用材ノ嵌ノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著スヘシ

第四十九條 「スクリーナー」、「ケツチ」、「ヨール」、「カッター」、「スループ」又ハ「ラツガー」ノ楕ノ徑ハ長一メートルニ付二・一センチメートルト爲スヘシ

第四十九條ノ二 總噸數二十噸未満ノ帆船ニハ左ノ屬具ヲ備フヘシ

漁業燈	一揃
信號旗	二旗
羅針盤	一箇
海水寒暖計	一箇
兩色燈	一箇
霧中號角又ハ喇叭	一箇
救命具	一箇(總噸數十噸未満ノ漁船ハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ)
時計	一箇(同上)
手用測程具	一組(同上)
測深具	一組(同上)
晴雨計	一箇(同上)

第三章 發動機

第五十條 發動機ノ純馬力ノ測定ニ付テハ發動機ヲ船舶ニ据附クル前検査員ノ適當ト認メタル純馬力測定器ヲ用キ計畫回轉數又ハ之ニ近キ回轉數及適當ナル荷重ニ付二回以上毎回三十分間以上繼續シテ運轉シ毎回一分間ノ平均回轉數ヲ測定スヘシ

前項ニ依リ測定シタル毎回ノ平均回轉數ノ平均數ヲ以テ其ノ發動機ノ純馬力ヲ算出スヘシ

遠洋漁船検査規程

第五十一條 發動機ハ前條ニ依リ純馬力ヲ測定シタルトキノ回轉數ニ一割ヲ増加セル回轉數及前條ト同一ノ荷重ニ付三十分間以上之ヲ運轉シ支障ナキモノナルコトヲ要ス

第五十二條 農林大臣已ムコトヲ得サル事由ニ因リ第五十條ニ依ル純馬力測定ヲ爲スコト能ハサルモノト認メタルトキハ發動機ヲ船舶ニ据附ケタル後検査員ノ適當ト認ムル状態ニ於テ三十分間以上船舶ヲ航走セシメ二回以上各汽笛ヨリ取りタル示壓圖ニ依リ算出シタル實馬力ノ平均數ニ適當ナル係數ヲ乘シタルモノヲ以テ發動機ノ純馬力トス

發動機ハ前項ノ検査終リタル後前項ニ依リ純馬力ヲ測定シタルトキノ回轉數ニ一割ヲ増加セル回轉數ニ於テ三十分間以上船舶ヲ航走セシメ支障ナキモノナルコトヲ要ス

第五十二條ノ二 前三條ノ規定ニ依リ發動機ノ純馬力ノ測定ヲ爲シタル後検査員ノ適當ト認メタル状態ニ於テ三十分間以上最高速度ヲ以テ船舶ヲ航走セシメ其ノ發動機ノ回轉數ヲ測定スヘシ

前項ノ回轉數ハ計畫回轉數ヨリ一割ヲ下ラサルコトヲ要ス

第五十三條 曲拐軸ハ鍛合シタルモノヲ用ウルコトヲ得ス

- 第五十四條 諸軸及諸鐸ハ検査官吏ノ適當ト認ムル強力ヲ有スルモノヲ用ウヘシ
- 第五十四條ノ二 氣筒、吸鐸及架構其ノ他ノモノノ重要ナル部分ニハ鑄集ノ類ト雖存セサルコトヲ要ス
- 第五十四條ノ三 發動機カ一氣筒ナルトキハ氣筒ノ直徑ハ三百七ミリメートルヲ超ユルコトヲ得ス
- 第五十四條ノ四 螺旋軸及中間軸ノ接手ニハ鐸接手ヲ用ウヘシ
- 第五十五條 進力受臺ニハ球軸受ヲ用ウルコトヲ得ス
- 第五十六條 發動機ノ屬具ハ第三號表ニ據リ之ヲ備フヘシ
- 第四章 遠洋漁業獎勵法施行細則第一條ノ二各號ニ掲ケル設備及漁獵具其ノ他ノ特種業務設備
- 第五十七條 遠洋漁業獎勵法施行細則第一條ノ二各號ニ掲ケル設備及漁獵具其ノ他ノ特種業務設備ニシテ本規程ニ特別ノ規定ナキモノニ付テハ農林大臣ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要シ且船舶ニ之ヲ施設シタル後検査員ノ適當ト認ムル方法ニ依リ之ヲ試験シ成績良好ナルモノナルコトヲ要ス

附則 (昭和八年三月農林省令) 第四號 附則

第一號表

材	肋單		肋骨心距	梁
	骨材	頂材		
以上	未滿 2.4	平方 26	平方 19	平方 52
2.4—2.7	39	19	8	33
2.7—3.0	52	26	8	33
3.0—3.4	65	32	8	36
3.4—3.7	97	45	8	38
3.7—4.0	129	65	10	41
4.0—	168	84	10	43

昭和七年法律第十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前遠洋漁業獎勵金下付ノ指令ヲ受ケタル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第二號表

外板ノ厚	甲板ノ厚	外板ノ敲釘
耗 19	耗 25	耗 8
22	32	8
25	38	8
32	44	8
38	51	10
44	51	10

第三號表 發動機屬具表

材	第二數	名	稱	員	數	摘	要
吸鐸彈環	氣筒二箇又ハ其ノ未滿每ニ一組	吸氣壓搾機ノ壓搾筒	壓搾筒一箇每ニ一組	「ヂーゼル」發動機ナルトキ			
螺釘及母螺	一組	螺釘及母螺	一組				
接續鐸上下ノ黃銅	氣筒二箇又ハ其ノ未滿每ニ一組	接續鐸螺釘及母螺	一組				
噴油	氣筒二箇又ハ其ノ未滿每ニ一箇	吸氣瓣及發條	氣筒二箇又ハ其ノ未滿每ニ一箇				
排出瓣及發條	氣筒一箇每ニ一箇	起動用	氣筒二箇又ハ其ノ未滿每ニ一箇				
掃除唧筒	一組	掃除唧筒	一組				

遠洋漁船検査規程

給油唧筒	冷油唧筒	空氣壓搾機ノ空氣瓣	塗水唧筒	點火器	發電池	起動用燈	同火口	電線	油管	空氣管	各種發條	螺釘及母螺	機關室用小道具
給油唧筒一箇每ニ一組	一組	一組	一組	氣筒二箇又ハ其ノ未滿每ニ一箇	常用電池一箇每ニ一箇	常用ノ外一箇	常用ノ外燈一箇每ニ一箇	常用ノ外若干	常用ノ外若干	常用ノ外若干	常用ノ外若干	常用ノ外若干	一揃

備考

- 一 本表ニ掲ケタル屬員中發動機ノ構造上使用ノ途ナキモノハ之ヲ備フルコトヲ要セス
- 二 發動機二臺以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ發動機一臺分ノ外之ヲ備ヘサルコトヲ得

漁船特殊規則

(昭和九年二月 逕信、農林省令)

第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル漁船ハ無線電信ヲ施設セザルコトヲ得

- 一 總噸數二百噸未満ノ捕鯨船
- 二 專ラ漁場ヨリ漁獵物又ハ其ノ化製品ヲ運搬スル總噸數二百噸未満ノ漁船

三 總噸數千六百噸未満ノ推進機關ヲ有セザル漁船

第二條 漁船ノ從業制限ハ第一種第二種及第三種ノ三種トス

第三條 第四條各號ニ掲グル業務ヲ除クノ外左ニ掲グル業務ニ從事スル漁船ノ從業制限ハ之ヲ第一種トス

- 一 一本釣漁業
- 二 延繩漁業

- 三 流網漁業
- 四 刺網漁業
- 五 旋網漁業
- 六 棒受網漁業
- 七 投鉞漁業
- 八 曳繩漁業
- 九 機船底曳網漁業及其ノ他底曳網漁業(汽船「トロー」ル)漁業ヲ除ク)
- 十 前各號ニ掲グルモノノ外主務大臣ニ於テ前各號ノ業務ニ準ズルモノト認メタル業務

第四條 左ニ掲グル業務ニ從事スル漁船ノ從業制限ハ之ヲ第二種トス

- 一 鯉竿釣漁業
- 二 鮪竿釣漁業
- 三 鱈一本釣漁業
- 四 鮪延繩漁業
- 五 旗魚延繩漁業
- 六 鮫延繩漁業
- 七 鱈延繩漁業
- 八 大鱈延繩漁業

九 機船底曳網漁業(手線網又ハ打瀬網ヲ使用スルモノ)

十 前各號ニ掲グルモノノ外主務大臣ニ於テ前各號ノ業務ニ準ズルモノト認メタル業務

第五條 母船式漁業ニ從事スル母船及左ニ掲グル業務ニ從事スル漁船ノ從業制限ハ之ヲ第三種トス

- 一 汽船「トロー」漁業
- 二 汽船捕鯨業
- 三 專ラ漁獵場ヨリ漁獵物又ハ其ノ化製品ヲ運搬スル業務
- 四 漁業ニ關スル試験、調査、指導練習又ハ取締業務

第六條 第二種ノ從業制限ヲ有スル漁船ハ第三條各號ニ掲グル業務ニ從事スルコトヲ得

第七條 管海官廳漁船ノ從業制限ヲ定ムルニ當リ必要アリト認ムルトキハ漁船ノ種類、大小、構造又ハ設備ニ應ジ業務ノ種類ヲ限定スルコトヲ得

第八條 漁船検査證書ノ有効期間内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ船舶所有者又ハ船長ハ事由ヲ具シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ
一 已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ臨時ニ漁船ヲ其ノ從業制限以外ノ從業制限ニ該當スル業務ニ從事セシムルト

漁船特殊規則

キ(第六條ニ該當スル場合ヲ除ク)

二 第一種ノ從業制限ヲ有スル漁船又ハ第二種若ハ第三種ノ從業制限ヲ有スル長サ二十五メートル未満ノ漁船ヲ漁業ニ使用セズシテ船舶安全法施行地朝鮮又ハ樺太ト其ノ他ノ地トノ間ノ航行ヲ爲サシムルトキ

第九條 漁船検査證書ノ有効期間内ニ於テ漁船ノ從業制限ヲ變更セントスルトキハ申請書ニ新舊從業制限ヲ列記シ船舶検査手帖ヲ添ヘ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ

第十條 漁船ニ在リテハ船舶安全法施行規則第四十七條ノ規定ニ拘ラズ長サ七十メートル以上ノモノニ限り專ラ漁獲物ノ保藏若ハ製造ニ從事スル者ノ室ト其ノ他ノ者ノ室トハ常ニ區別シ置クベシ

第十一條 汽罐ヲ有セザル長サ二十五メートル未満ノ漁船ニ付テハ漁船検査證書ノ有効期間ハ三年以内トス
前項ノ漁船ハ中間検査ヲ受クルコトヲ要セズ

第十二條 長サ七十メートル以上ノ漁船ニシテ漁獲物ノ保藏又ハ製造設備ヲ有スル母船(特殊漁船)ガ母船式漁業ニ從事スル爲其ノ仕立港ヲ發航セントスルトキハ特殊船検査ヲ行フ但シ特殊船検査證書ノ有効期間内ニ於テハ此

ノ限ニ在ラス

附 則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

漁船特殊規程 (昭和九年二月 逓信、農林省令)

目次

- 第一章 總則
- 第二章 船體
- 第一節 通則
- 第二節 木製漁船
- 第三節 鋼製漁船
- 第三章 設備
- 第四章 機關
- 附 則

第一章 總 則

第一條 本令ニ於テ動力漁船トハ推進機關ヲ有スル漁船ヲ謂ヒ第一種漁船、第二種漁船又ハ第三種漁船トハ各從業制限第一種、第二種又ハ第三種ヲ從業制限トスル漁船ヲ謂ヒ運搬漁船トハ漁船特殊規則第五條第三號ニ掲グル業

務ニ從事スル漁船ヲ謂フ

第二條 本令ニ該當セザル漁船ノ構造、材料及其ノ寸法並ニ設備ト雖モ管海官廳ニ於テ本令ニ定ムルモノト同一效力ヲ有スト認ムル場合ニ於テハ之ヲ合格ト爲スベシ

第三條 漁船ノ構造、材料及其ノ寸法並ニ設備ニ付テハ管海官廳當該漁船ノ種類、大小、從業ノ期間等ヲ考慮シ適當ニ斟酌シテ之ヲ合格ト成スコトヲ得

第四條 發動機ニ依リ推進スル長サ二メートル以上ノ漁船ニシテ鯉若ハ鮪ノ竿釣漁業又ハ鮪、旗魚、鯨若ハ大鰾ノ延繩漁業ニ從事スルモノニハ左ノ算式ニ依リ算定シタル分量ノ主機關用燃油ヲ容ルルニ足ル燃油庫ヲ設備スベシ

DNC ヲツトル

D ハ發動機ノ氣筒ノ徑 (厘ニテ)

N ハ發動機ノ氣筒ノ數

O ハ常數ニシテ左表ニ依ル

船舶ノ長サ(米)	「デイーゼル」式單 働發動機ナルトキ	「デイーゼル」式以外 ノ單働二衝 程式發動機 ナルトキ
	二衝程式	四衝程式

第八條 動力漁船ニ非ザル漁船ニハ起倒スベキ橋ヲ用ウルコトヲ得ズ

第九條 舷牆ノ高サハ一一〇センチメートルヲ超ユルコトヲ得ズ但シ各舷牆柱又ハ防撓材ノ間ニ於テ舷牆上部ニ十分ナル面積ノ無蓋開口ヲ設クルトキハ適當ニ舷牆ノ高サヲ増加スルコトヲ得

第十條 漁船ノ舷側ニ設クル釣臺又ハ張出甲板ハ十分ニ排水シ得ル構造ト爲スベシ

第十一條 石油發動機ヲ備フル漁船ノ機關室ニ於ケル隔壁其ノ他船體ノ部分木製ナルトキハ之ニ金屬板ヲ張り又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ燃焼ノ豫防ヲ爲スベシ

第十二條 暴露セル上甲板又ハ船樓甲板ニ設クル艙口、機關室口、載炭口、出入口、天窗、通風器等ノ諸口及甲板口ヲ蔽圍スル甲板室ニ付テハ緣材ノ甲板上ノ高サヲ左表ニ掲グルモノ以上ト爲スベシ但シ直接波浪ヲ受ケザル場所ニ於ケルモノ又ハ特殊ノ水密裝置ヲ備フルモノハ緣材ノ高サヲ減ジ又ハ甲板上面ト平直ト爲スコトヲ得

漁 船 ノ 種 別	緣材ノ甲板上ノ高サ(厘)
-----------	----------------

漁船特殊規程

第二章 船 體

第一節 通 則

第五條 主機關用燃油槽ヲ上甲板以上ノ場所ニ設クルトキハ其ノ容量ハ全燃油庫ノ容量ノ百分ノ十五ヲ超ユルコトヲ得ズ

第六條 甲板上ニ設クル燃油槽又ハ活魚槽ハ甲板ニ特ニ堅固ニ取附クベシ

第七條 運搬漁船及特殊漁船ヲ除クノ外漁船ノ舷側ニハ載貨門ヲ設クルコトヲ得ズ

二以上	二三未満	七・五三	五・二六	四・九九
二三〃	二五〃	九・四〇	六・五八	六・二四
二五〃	三〇〃	一〇・八一	七・五七	七・一八
三〇〃	三三〃	一一・七五	八・二三	七・八〇
三三〃	三六〃	一二・六九	八・八八	八・四三
三六〃	四〇〃	一四・一〇	九・八七	九・三六
四〇〃	四五〃	一六・四五	一一・五三	一〇・九二
四五〃	五〇〃	一八・八〇	一三・一六	一二・四八
五〇〃	五五〃	二一・一五	一四・八一	一四・〇四
五五〃		二三・五〇	一六・四五	一五・六〇

第一種漁船又ハ捕鯨船	一五
第二種漁船又ハ第三種漁船(捕鯨船ヲ除ク)	二三
長サ二五米以上ノモノ	三〇

第十三條 船口ニハ堅牢ナル蓋板又ハ覆蓋ヲ備ヘ且之ヲ堅固ニ密閉シ得ベキ様覆布及適當ノ締具ヲ備フベシ但シ管海官廳ニ於テ覆布ト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノヲ備フルトキハ覆布ハ之ニ備ヘザルモ妨ナシ

第十四條 暴露セル上甲板又ハ船樓甲板ニ設クル機關室口ニ付テハ圍壁ノ甲板上面ヨリノ高サヲ左表ニ掲グルモノ以上ト爲スベシ

漁船ノ種別	圍壁ノ甲板上面ノ高サ(櫃)
第一種漁船又ハ捕鯨船	四五
第二種漁船又ハ第三種漁船(捕鯨船ヲ除ク)	六〇
長サ二五米以上ノモノ	九〇

第十五條 暴露甲板ノ機關室口圍壁天窓、載炭口、出入口其ノ他ノ諸口ニハ覆蓋又ハ蓋板及覆布並ニ適當ノ締具ヲ

第二十一條 二材合セ肋骨ノ肋材銜接ノ避距ハ船ノ幅ノ九分ノ一迄減ズルコトヲ得

第二十二條 船ノ中央部ニ於ケル單材肋骨ノ肋根材ノ長サハ船ノ幅ノ二分ノ一迄、其ノ他ノ肋材ノ長サハ船ノ幅ノ四分ノ一迄減ズルコトヲ得但シ銜接又ハ嵌接ノ數ハ五箇以上ト爲スコトヲ得ズ

相隣接スル單材肋骨ノ銜接又ハ嵌接ノ避距ハ船ノ幅ノ九分ノ一迄減ズルコトヲ得

第二十三條 船底ノ形狀銳尖ナル漁船ニ在リテ肋根材ヲ中心線ノ兩側ニ止ムル場合ニ於テハ適當ナル副龍骨ヲ龍骨ノ上面ニ取附ケ其ノ上面ニ鐵製又ハ木製ノ根曲材ヲ附シ兩舷ノ肋骨材ヲ連結スベシ此ノ場合ニ於テハ内龍骨及側内厚板ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第二十四條 活漁船ニ縱通隔壁ヲ設ケ該隔壁ノ下部ニ縱通材ヲ取附ケ之ヲ活漁船ノ前後ニ二肋骨間延長シ活漁船兩端ノ肋骨ノ寸法ヲ増シ且該部外板ノ厚サヲ増ストキハ其ノ部分ニ於テ肋骨ノ心距及外板ノ幅ヲ増加シ梁ノ寸法ヲ輕減シ且内龍骨、側内厚板及内張板ヲ省略スルコトヲ得

第二十五條 彎曲部縱通材ノ船ノ各側ニ於ケル總幅ハ船ノ幅ノ九分ノ一迄減ズルコトヲ得

漁船特殊規程

備フルカ其ノ他ノ水密トナルベキ裝置ヲ爲スベシ但シ管海官廳ニ於テ水密ト爲スベキ必要ナシト認ムルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 前四條ノ規定ハ特殊漁船及總噸數百五十噸以上ノ運搬漁船ニハ之ヲ適用セズ

前項ニ掲グル漁船ノ甲板口及甲板口ヲ蔽圍スル甲板室ノ縁材ノ高サ並ニ機關室口圍壁ノ高サニ付テハ當該船舶ヲ第二級船ト看做シ木船構造規程又ハ造船規程及船舶滿載吃水線規程ノ規定ヲ適用ス

第二節 木製漁船

第十七條 第一種漁船又ハ長サ二五メートル未滿ノ漁船ニ在リテハ内龍骨ノ寸法ハ龍骨ノ規定ノ寸法ト等シク爲スコトヲ得

第十八條 龍骨ノ截面積ガ船ノ首尾兩端ニ於ケルモノヲ除クノ外龍骨及内龍骨ノ規定ノ截面積ノ合計以上ナルトキハ内龍骨ヲ省略スルコトヲ得

第十九條 船首材ト龍骨トノ嵌接ノ長サハ用材ノ深サノ三倍迄減ズルコトヲ得

第二十條 舵心材頂部ノ舵柄取附部ヲ角形ト爲ス場合ニ於テモ其ノ截面積ハ特ニ之ヲ増加セザルモ妨ナシ

第二十六條 彎曲部角形ナル漁船ニ在リテハ其ノ部ニ外部彎曲部縱通材ヲ設ケ其ノ截面積ヲ六五平方センチメートル以上ト爲スベシ

第二十七條 梁壓材ノ截面積ハ木船構造規程ニ定ムルモノノ五分ノ四迄減ズルコトヲ得

第二十八條 甲板梁ノ心距ガ規定ノ心距ヨリ小ナルトキハ其ノ割合ニ應シ梁ノ寸法ヲ減ズルコトヲ得

梁柱ノ數ヲ増ストキハ適當ニ梁ノ寸法ヲ減ズルコトヲ得縱通隔壁アル場合ニ於テハ梁柱ハ其ノ取附ヲ適當ニ省略スルコトヲ得

第二十九條 幅五メートル未滿ノ漁船ニ於テハ甲板口ノ兩側ニ設クル半梁ハ木船構造規程第七十八條ノ規定ニ拘ラズ半梁一本置ニ梁曲材ノ取附ヲ省略シ其ノ他ノ半梁ハ堅梁曲材ヲ以テ船側ニ固著シ其ノ他端ハ橫梁曲材ヲ以テ縱梁ニ固著セシムルコトヲ得

第三十條 幅五メートル未滿ノ漁船ニ於テ梁下縱通材ヲ設クルトキハ梁柱ハ甲板梁二本置ニ設クルニ止ムルコトヲ得但シ甲板室、斜橋、揚船機、揚貨機其ノ他ノ重量物ヲ支フル梁ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條 第二數七〇〇未滿ノ漁船ニ於テハ外部腰板ヲ

七八七

設クルコトヲ要セズ

第三十二條 第二數二五〇未満ノ漁船ニ於テハ外板ノ厚サヲ増シ且彎曲部縱通材ノ幅ヲ増ストキハ内張板ヲ設クルコトヲ要セズ

第三十三條 木船構造規程第百十三條第一項ノ規定ハ長サ四メートル未満ノ機關室口ニハ之ヲ適用セズ

第三十四條 第二數三〇〇未満ノ漁船ノ側内厚板ハ木船構造規程第百二十八條ノ規定ニ拘ラズ肋骨一本置ニ敲釘及打込釘ヲ以テ、其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘二箇ヲ以テ固著セシムルコトヲ得

第三十五條 彎曲部縱通材ノ各材ノ幅一三センチメートル未満ナルトキハ木船構造規程第百三十條ノ規定ニ拘ラズ肋骨一本置ニ敲釘ヲ以テ其ノ他ノ肋骨ニハ打込釘ヲ以テ固著セシムルコトヲ得

第三十六條 梁曲材ノ兩腕ニ於ケル固著釘ノ總數ハ之ヲ五箇迄減ズルコトヲ得

第三十七條 第二數三五〇未満ノ漁船ニ於テハ柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成スル場合ト雖モ梁曲材ノ側腕ニ用ウル敲釘ハ之ヲ外板迄貫通セシムルコトヲ要セズ

第三十八條 外板ノ固著釘ノ數ハ外板ノ幅二二センチメートル

トル未満ナルトキハ肋骨毎ニ二箇迄ニ、幅二七センチメートル未満ナルトキハ肋骨毎ニ三箇迄ニ減ズルコトヲ得

第三十九條 外部彎曲部縱通材ハ肋骨毎ニ一箇以上ノ敲釘ヲ以テ固著セシムベシ

第四十條 動力漁船ニ在リテハ「ジブアーム」、「フライイングジブアーム」及「ブーム」ノ徑ハ長サ一メートルニ付一八ミリメートル迄ニ、「スクーター」ノ「ガフ」ノ徑ハ長サ一メートルニ付一六ミリメートル迄ニ減ズルコトヲ得

第三節 鋼製漁船

第四十一條 鋼製漁船ノ構造及材料ノ寸法ハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外造船規程中重構船ノ規定ニ依ル

第四十二條 第一種漁船及長サ二五メートル未満ノ漁船ニ在リテハ管海官廳ニ於テ特ニ必要ト認ムルモノヲ除クノ外材料試験ヲ省略スルコトヲ得

第四十三條 第一種漁船、捕鯨船又ハ長サ二五メートル未満ノ漁船ノ構造及材料ノ寸法ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ左ノ各號ノ限度迄之ヲ輕減スルコトヲ得

一 正肋材ノ横邊、副肋材ノ兩邊及肋骨ノ深サヲ規定ノ寸法ヨリ一三ミリメートル減少スルコト

二 船底ノ傾斜急ナル漁船ニ在リテハ肋骨ノ高サヲ増加スルトキハ造船規程表ニ掲グル翼内龍骨用山形材二箇ヲ以テ中心線内龍骨ヲ構成シ且副肋材ヲ彎曲部ニ達セシムルニ止ムルコト又船側縱通材ニ斷切板ヲ附スルカ

又ハ船側縱通材ヲ二重山形材ト爲ストキハ翼内龍骨ニ斷切板ヲ附セザルコト

三 梁ヲ肋骨毎ニ取附クルトキハ其ノ寸法ハ正肋材ノ寸法ト等シクシ梁ヲ肋骨一本置ニ取附クルトキハ其ノ寸法ハ右ニ準ジ相當ニ輕減スルコト又ハ梁ノ肘肋ノ幅及深サハ梁ノ深サノ三倍トシ厚サハ梁ノ厚サニ等シクスルコト

四 梁上側板、梁上帶板及翼内龍骨用山形材ノ截面積ヲ各四分ノ一減少スルコト

五 外板ノ厚サヲ造船規程別表ニ掲グルモノヨリ〇・五ミリメートル減少スルコト

第四十四條 第二種漁船又ハ第三種漁船ノ活漁艙ハ其ノ周壁ヲ鋼製ト爲スコトヲ要シ其ノ構造及材料ノ寸法ニ付テハ造船規程第一編第百四十二條乃至第百四十四條第百四十九條及第百六十一條ヲ準用ス

第四十五條 第一種漁船ヲ除クノ外長サ二五メートル以上

ノ漁船ノ活漁艙、冷藏艙及氷艙ノ頂部ノ甲板ハ水密構造ノ鋼甲板ト爲スベシ

第四十六條 第一種漁船、捕鯨船及運搬漁船ヲ除クノ外長サ二五メートル以上ノ漁船ニ付テハ造船規程第一編第百二十九條但書ノ規定ヲ適用セズ

第三章 設 備

第四十七條 特殊漁船ニハ最大搭載人員ヲ收容スルニ要スル端艇及ビ之ニ對スル端艇鈎ヲ備フベシ但シ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ他ノ揚卸裝置ヲ以テ端艇鈎ニ代フルコトヲ得

第四十八條 前條ノ漁船ヲ除クノ外長サ二〇メートル以上二五メートル未満ノ漁船ニハ容積二立方メートル以上ノ端艇ヲ、長サ二五メートル以上ノ漁船ニハ容積二・八三立方メートル以上ノ端艇ヲ備フベシ但シ端艇ノ容積ハ船舶ノ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル程度ニ止ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ備フベキ容積二・八三立方メートル以上ノ端艇ニ付テハ適當ノ揚卸裝置ヲ備フルコトヲ要ス長サ二五メートル未満ノ漁船ニ在リテハ救命筏、救命浮器又ハ救命浮環ヲ以テ端艇ニ代用スルコトヲ得

長サ二五メートル以上三〇メートル未満ノ漁船ニ在リテハ端艇ノ容積ノ一部ヲ救命筏、救命浮器又ハ救命浮環ヲ以テ代用スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ救命筏又ハ救命浮器ハ其ノ定員一人ヲ以テ、救命浮環ハ一箇ヲ以テ端艇ノ容積〇、二八三立方メートルニ相當スルモノトス

第四十九條 第二種漁船又ハ第三種漁船ニハ最大搭載人員ト同數ノ救命胴衣ヲ備フベシ但シ管海官廳ノ見込ニ依リ鰹竿釣又ハ鯖竿釣漁船ニ在リテハ最大搭載人員ノ四分ノ一迄、第五十五條第二項ニ掲グル漁船ニ在リテハ最大搭載人員ノ二分ノ一迄救命胴衣ノ數ヲ減ズルコトヲ得

第五十條 漁船ニハ左表ニ依リ救命浮環及救命焰ヲ備フベシ

漁船ノ種類	救命浮環	救命焰
第一種漁船	二	一
第二種及第三種漁船	四	二

第五十一條 第一種漁船ヲ除クノ外長サ二五メートル以上ノ漁船ノ普通艇ノ附屬具ニ付テハ船舶設備規程第三十三條ノ規定ヲ準用ス

第二種漁船	鰹竿釣又ハ鯖竿釣漁船	前欄ニ掲グルモノ以外ノ漁船
	〇・三〇	〇・六〇
第三種漁船	〇・八五	一・五五

長サ二五メートル未満ノ漁船又ハ長サ五〇メートル未満ノ母船ニ付テハ管海官廳ニ於テ己ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ前項ノ單位面積又ハ單位容積ヲ適當ニ輕減スルコトヲ得

漁業ニ關スル試験、調査、指導又ハ練習ニ從事スル漁船ノ鰹竿釣又ハ鯖竿釣ヲ行フ場合ニ於ケル最大搭載人員ノ算定ニ付テハ第二項ノ表中鰹竿釣又ハ鯖竿釣漁船ノ率ニ依ルコトヲ得

第五十六條 特殊漁船ニハ上甲板以上ノ場所又ハ上甲板直下ノ甲板間ノ場所ニ於テ成ルベク船員室ヨリ隔離シタル箇所ニ適當ナル病室ヲ設クベシ

第五十七條 特殊船ニハ第一號表ニ定ムル醫藥其ノ他ノ衛生用品ヲ備フベシ

第五十八條 特殊漁船ニハ其ノ搭載セル人員ニ對シ出漁期間ニ應ジ第二號表ニ定ムル食料及飲用水ヲ備フベシ仲積船ニ操業ノ場所ニ於テ食料又ハ飲用水ノ補給ヲ受クルコトヲ得ル船舶ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ其ノ備フ

漁船特殊規程

前項以外ノ漁船ノ普通艇ニハ船舶設備規程第三十七條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五十二條 「アムモニア」式冷却機ノ設備アル漁船ニハ「アムモニア」防毒「マスク」二箇以上ヲ備フベシ

第五十三條 漁船ノ居室ニハ船舶設備規程第八十條乃至第八十五條及第八十七條第二項ハ之ヲ準用セズ

第五十四條 居室ノ高サ一・六メートル以上アル場合ヲ除クノ外居席ヲ二層ト爲スコトヲ得ズ

第五十五條 漁船ノ最大搭載人員ハ各居室ノ定員ノ和トス各居室ノ定員ハ左ノ各號ノ計算法ニ依リ算出シタル員數ノ中小ナルノモノトス

一 居室ノ容積ヲ左表ニ掲グル單位容積ニテ除シタル員數

二 寢臺ヲ備フル室ニ付テハ寢臺ノ數ト寢臺外ノ場所ノ面積ヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數トノ和

三 寢臺ヲ備ヘザル室ニ付テハ居室ノ面積ヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數

漁船ノ種類	單位面積 (平方米)	單位容積 (平方米)
第一種漁船	〇・四五	一

ベキ食料又ハ飲用水ノ量ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第五十九條 機裝數ノ算定ニ付テハ鋼製動力漁船ハ之ヲ鋼製汽船ト看做ス

第六十條 漁船ニハ其ノ機裝數ニ應ジ動力漁船ハ船舶設備規程第四號表ニ、動力漁船ニ非ザル漁船ハ同規程第五號表ニ定ムル錨、錨鎖及索ヲ備フベシ

第六十一條 第一種漁船ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ大錨三箇ヲ備フベキ場合ト雖モ其ノ數ヲ二箇ト爲スコトヲ得但シ中一箇ノ大錨ノ錨量ハ表ニ掲グル單量以上、他ノ一箇ハ該單量ノ百分ノ八十五以上ト爲スベシ

第六十二條 長サ二五メートル未満ノ漁船ハ大錨ノ總錨量ガ規定ニ依ル量ヲ下ラザルトキハ其ノ錨數ヲ増シ單量ヲ減ズルコトヲ得但シ一箇ノ錨量ハ表ニ掲グル大錨ノ單量ノ二分ノ一ヲ下ルベカラズ

第六十三條 第一種漁船ヲ除クノ外長サ二五メートル以上ノ漁船ニ備フル錨(錨錘ヲ含ミタル重量七・二キログラム以下ノモノヲ除ク)、錨鎖及鋼索ハ船舶設備規程第二百十八條ニ依リ試驗規程ニ適合シタルモノナルコトヲ要ス

第六十四條 長サ二五メートル未満ノ漁船ニハ日本形錨ヲ

代用スルモ妨ナシ

前項ノ規定ニ依リ代用シタル日本形錨ニ對シテハ相當ノ錨索ヲ以テ錨鎖ニ代用スルモ妨ナシ

日本形錨ノミヲ備フル漁船ニ在リテハ錨量ハ船舶設備規程第六號表ニ定ムルモノノ十分ノ九以上ト爲シ錨索ハ同表ニ定ムルモノヲ備フベシ

大錨ヲ除キ其ノ他ノ日本形錨ニ對スル錨索ノ長サハ船舶設備規程第六號表ニ定ムル大錨索ノ長サニ等シクシ其ノ徑ハ錨量ニ應ジ船舶設備規程第七號表ニ定ムル所ニ依ルベシ

第六十五條 長サ六〇メートルヲ超ユル動力漁船ニハ動力

ニ依ル操舵裝置ヲ備フベシ

第六十六條 漁船ニ備フベキ航海用具其ノ他ノ屬具ハ第三號表ニ定ムル所ニ依ル

電氣船燈ヲ常用スル漁船ニ在リテハ第三號表ニ定ムル所ニ依リ豫備燈ヲ要セザル場合ト雖モ各電氣船燈ニ對シテ豫備ノ油船燈ヲ備フベシ

第六十七條 油船燈ヲ備フル漁船ニ於テハ船燈一種ニ付第

一種漁船又ハ長サ二一メートル未満ノ漁船ニ在リテハ三箇以上其ノ他ノ漁船ニ在リテハ五箇以上ノ豫備燈筒ヲ備

フベシ

第一種漁船ヲ除クノ外長サ二一メートル以上ノ漁船ニ在リテハ綠及紅ノ挿入硝子ヲ使用スル舷燈ヲ備フルトキハ綠、紅各二箇ノ豫備挿入硝子ヲ備フベシ

第六十八條 第二種漁船又ハ第三種漁船ニハ其ノ從業場所ノ海圖ヲ備フベシ

海圖ハ水路部ノ最近刊行ニ係ルモノ又ハ管海官廳ニ於テ適當ト認メタルモノヲ使用スベシ

第六十九條 帆檣ヲ有スル漁船ニハ檣ニ相當スル帆一楯及左ノ豫備帆ヲ備フベシ

豫備帆ノ種類	數	備考
「フオール、ステイスル」	一	「カッター」、「ケッチ」又ハ「スルーブ」ノ帆裝ヲ有スルモノハ「フオール、ステイスル」一枚ノミ又「ラッガー」ノ帆裝ヲ有スルモノハ「フオール、ステイスル」一枚ノミト爲スコトヲ得
「フオー スル」	一	

第四章 機 關

第七十條 船舶機關規程ニ定ムル乙種機關ハ左ノ各號ニ掲グル漁船ノ推進機關トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

一 「トロール」汽船

二 捕鯨船

三 母船ニシテ動力ニ依ル漁獲物ノ保藏又ハ製造設備ヲ有スルモノ

四 長サ三〇メートル以上ノ母船ニシテ動力ニ依ル漁獲物ノ保藏又ハ製造設備ヲ有セザルモノ

五 長サ三〇メートル以上ノ第二種漁船

六 長サ三〇メートル以上ノ運搬漁船

七 漁船特殊規則第五條第四號ニ掲グル業務ニ従事スル漁船ニシテ長サ三〇メートル以上ノモノ

第七十一條 船舶機關規程ニ定ムル丙種機關ハ長サ三〇メ

ートル未満ノ第一種漁船ノ推進機關トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第七十二條 發動機ヲ備フル木製漁船ノ推力軸、中間軸又

ハ螺旋軸ノ徑ハ船舶機關規程ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ同規程第四百三條乃至第四百六條ノ發動機ニ付テハ一・〇七ヲ、「ディーゼル」式發動機ニ付テハ一・〇五ヲ乘ジタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

第七十三條 備品ハ機關ノ種類ニ應ジ第四號表又ハ第五號

表ニ定ムル所ニ依リ之ヲ機關室又ハ船内適當ノ場所ニ備フベシ

漁船特殊規程

附 則

第七十四條 本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十五條 本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ノ船體又ハ機關ニ付テハ本令ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ漁船ノ大小、業務ノ種類等ヲ考慮シ差支ナシト認ムルトキハ特ニ之ヲ合格ト爲スコトヲ得但シ本令施行ノ日ヨリ三年以後ニ於テ漁船ニ新ニ備附クル機關ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七十六條 本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ニ付テハ第四條、第五條、第七條、第九條、第十二條、第十四條、第四十四條乃至第四十六條及第五十六條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第七十七條 本令施行前製造シタル漁船ニシテ引續キ從前ノ業務ニ従事スルモノニ付管海官廳本令ニ依リ救命設備ノ航海用具其ノ他ノ屬具又ハ機關備品ヲ備フルコト困難ナリト認メタルトキハ本令施行後二年以内ニ於テ行フ最後ノ中間検査又ハ定期検査ノ時期迄其ノ設備ニ付仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

第七十八條 本令施行ノ際現ニ存スル居室ニ付テハ第五十四條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第七十九條 本令施行ノ際現ニ漁船ニ備フル錨、錨鎖又ハ

漏液	斗	二〇〇立方	小
膏點	瓶	二〇〇〃	二
藥膏	筆	五〇〃	一
用藥	水牛角製各	一〃	〃
量	金屬製各	一〃	〃
	水牛角製各	一〃	〃

備考

一 管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ本表ニ掲
 グル錠劑ハ同一效力ノ粉末劑又ハ液體劑ヲ以テ之ニ
 代用セシムルコトヲ得

二 最大搭載人員四百人未滿又ハ出漁期間百五十日未
 滿ノ場合ニ於テハ本表ニ掲グル藥品ノ量ハ管海官廳
 ノ見込ニ依リ適當ニ之ヲ輕減セシムルコトヲ得

第二號表 特殊漁船ニ對スル食料及飲用水表

品名	量	額
七分搗米	八〇〇グラム	
骨附肉	一六〇〃	
骨附魚	一六〇〃	
野魚	五〇〇〃	

備考

一 本表ノ量額ハ一人一日ニ對シ支給スベキ最小額ト
 ス

二 七分搗米ハ半搗米又ハ白米ヲ以テ之ニ代用スルコ
 トヲ得但シ白米ヲ用ウルトキハ必ズ適量ノ大麥ヲ混
 用スベシ

三 骨附獸肉ノ可食分ハ六六%骨附魚肉ノ可食分ハ五
 四%トス

獸肉ニ代ウルニ魚肉ノミヲ以テスルトキハ其ノ用量
 ヲ倍額トスベシ

四 肉類ハ同量ノ鹽乾肉又ハ燻肉ヲ以テ之ニ代用スル
 コトヲ得

五 生野菜ハ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル
 場合ニ限リ本表ノ量額ノ半量ヲ超エザル範圍内ニ於

漬物	梅干類	一・二〃
調味料	味糖	一・二〃
油	油類	二・五〃
醬油、鹽、酢ノ類	水	三・六リットル
適宜		

第三號表 屬具表

屬具名稱	漁船ノ種類				摘	要
	第三種漁船	第二種漁船	第一種漁船	動力漁船		
號鐘	一	一	一	一		
時計	一	一	一	一		
雙眼鏡	一	一	一	一		
晴雨計	一	一	一	一		
海水用寒暖計	一	一	一	一		
手用測程具	一	一	一	一		
砂漏計	一	一	一	一		
測程機械	一	一	一	一		
手用測鉛	一	一	一	一		

テ乾野菜ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得此ノ場合ニ於
 テハ乾野菜二五グラムハ生野菜一〇〇グラムニ相當
 スルモノトス

六 北洋方面以外ニ出漁スル母船ニ付テハ管海官廳ニ
 於テ調味料ノ量額ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

動力ヲ有セザル漁船及總噸數百噸未滿ノ運
 搬漁船ニハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ
 測鉛ノ重量ハ手用測鉛ニ在リテハ三・二
 以上、深海測鉛ニ在リテハ一・七以上ナ
 ルコトヲ要ス
 測鉛ニ附スル線ノ長サハ手用測鉛ニ在リテ

安全弁發條	給水制限弁	逃弁發條	潤滑油「ポンプ」弁及發條	塗水「ポンプ」弁	給水「ポンプ」弁	循環水「ポンプ」弁	循環水「ポンプ」桿	抽氣「ポンプ」弁	抽氣「ポンプ」桿	復水器管填筒	復水器管	單環式推力軸推力受	接軸鈔螺釘及母螺	汽密環及發條	「ロ」タ「軸」	
各罐ニ付	一組	各種一管	一組	一組	一組	一組	一管	一組	一管	總數ノ四十分ノ一 但シ最少十本	總數ノ四十分ノ一 但シ最少十本	片面分	各種一組	各填座毎ニ	半組	
一管	同上		同上	同上	同上	同上		同上								
汽罐四箇分以上ナルトキハ更ニ一組増備スベシ	同形ニシテ相轉用シ得ルモノナルトキハ三管ニ止ムルコトヲ得						扇車「ポンプ」ナルトキハ桿ノ代リニ扇車軸ヲ備フベシ		扇車「ポンプ」ナルトキハ桿ノ代リニ扇車軸ヲ備フベシ				同右	同右		

鋼板	据附萬力	金敷	輔器	鑽孔器具	螺旋切道網	滑車及網	管塞器	管擴器	示面計硝子管	微粉炭燃燒裝置用碎炭具	微粉炭燃燒裝置用噴炭器	燃油裝置用噴油器	火床棧
各種若干	一管	一管	一管	一組	一組	一組	各罐ニ付 但シ最少 四管	一管	各罐ニ付 但シ最少 六管	一組	一管	各罐ニ付 一管	總數ノ五分ノ一 但シ最少 四分ノ一
同上							四管	同上	六管		同上	同上	汽罐四箇分ニ止ムルコトヲ得
							中半數ハ汽罐前面ニ於テ直ニ使用シ得ルモノナ ルコトヲ要シ水管汽罐ニハ管塞栓ヲ上記ノ倍數 備フベシ汽罐四箇分ニ止ムルコトヲ得						

鋼	各種若干	同上	同上	同上
螺釘及母螺	各種若干	同上	同上	同上
機關室小道具	一揃	同上	同上	同上
鹽器	二箇	一箇	一箇	一箇
溫度計	二箇	一箇	一箇	一箇

備考

汽機又ハ「ポンプ」ニテ同形ノモノ二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ「ピストン」環乃至逃出生發條ハ之ヲ汽機又ハ「ポンプ」一箇分ニ止ムルコトヲ得

第五號表

名	漁船ノ種別	第二種漁船「トロール」汽機又ハ漁船特殊規則第五條第四號ニ掲グル業務ニ従事スル漁船	其ノ他ノ漁船	摘要
氣筒蓋	弁座ノ他附屬品ノ完備セルモノ	各形 一組	三〇米以上 三〇米未満	長サ五〇メートル以上ノ船舶ニ備フル「デイーゼル」式發動機ニ限ル
「ピストン」完備セルモノ	一	一	一	同右

「ピストン」環	一	組同	上同	上同	上
噴油弁	弁座、弁匣、發條其ノ他附屬品ノ完備セルモノ	氣筒二箇又ハ其ノ端數每ニ一組同	上	氣筒四箇又ハ其ノ端數每ニ一組同	同上
吸氣弁	弁座、弁匣、發條其ノ他附屬品ノ完備セルモノ	氣筒二箇又ハ其ノ端數每ニ一組同	上	氣筒四箇又ハ其ノ端數每ニ一組同	同上
廢氣弁	弁座、弁匣、發條其ノ他附屬品ノ完備セルモノ	氣筒一箇每ニ一組同	上	氣筒二箇又ハ其ノ端數每ニ一組同	同上
噴油管及接合金具	「ピストン」冷却用伸縮嵌合管又ハ搖動管	一	上	一	無空氣噴油「デイーゼル」式發動機ニ限ル
主軸受螺釘及母螺	一	氣筒分同	上	一	一
連接桿上下ノ栓受金	二	桿分同	上	桿分同	一
連接桿上下螺釘及母螺	一	桿分同	上	一	一
接軸鈔螺釘及母螺	各種	一組同	上	一	一
始動弁及發條	一	組同	上	一	一
正副空氣壓縮機ノ壓縮筒ノ「ピストン」環	各形	一組同	上	一	一
正副空氣壓縮機ノ吸入弁及排出弁並ニ發條	各形	半組同	上	一	一

漁船特殊規程

滑車及網	始動用燈	電線	電池	點火栓	燒球	塗水「ポンプ」弁	移油「ポンプ」弁及發條	潤滑油「ポンプ」弁及發條	氣筒、氣筒蓋、「ピストン」等 ノ冷却「ポンプ」ノ扇車軸 氣筒、氣筒蓋、「ピストン」等 ノ冷却「ポンプ」弁及發條	噴油「ポンプ」ノ弁、弁座及發條	燒球式發動機ノ掃除空氣弁	掃除空氣「ポンプ」弁及發條
一	常用ノ外二箇同	若	常用ト同數同	氣筒一箇毎ニ一箇同	氣筒一箇毎ニ一箇同	二	一	一	一	氣筒二箇又ハ其ノ端數毎ニ一氣筒ノ端數毎ニ一氣筒分	二	一
組同	二箇同	干同	同	同	同	組同	組同	組同	組同	同	分同	組
上同	上同	上同	上常用ノ半數同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同
上	上常用ノ外一箇	上	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同

螺	鑽	輔	金	据	鋼	鋼	螺釘及母	機關室小道具	溫度計	回轉計
螺	鑽	輔	金	据	鋼	鋼	螺釘及母	機關室小道具	溫度計	回轉計
旋切道具	孔器	敷	敷	力	板	棒	各種若干同	各種若干同	計	計
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
組	組	箇	箇	箇	箇	干	干	干	箇	箇
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上

備考

發動機又ハ「ポンプ」ニシテ同形ノモノ二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ氣筒蓋乃至點火栓ハ之ヲ發動機又ハ「ポンプ」一箇分ニ止ムルコトヲ得

危險物船舶運送及貯藏

規則 (昭和九年二月) (逕信省令第十四號)

- 第一條** 船舶ニ依ル危險物ノ運送又ハ船舶ノ常用危險物ノ貯藏ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル但シ船舶ノ全部ヲ以テ軍事輸送ノ用ニ供スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 船舶ノ常用危險物ノ範圍ニ付テハ開港港則施行規則第十八條ノ規定ヲ準用ス
- 第二條** 本令ニ於テ危險物トハ別表第一號表ニ定ムルモノヲ謂ヒ火藥類トハ同表第一號乃至第八號ニ掲グルモノヲ謂フ
- 第三條** 火藥類ヲ貨車積ノ儘鐵道連絡ノ爲船舶ニ積ミ運送ヲ爲ス場合ニハ第二十一條及之ニ基ク第二十七條ノ罰則ノ規定ヲ除クノ外本令ヲ適用セズ火藥類鐵道運送規程ニ依ル
- 第四條** 危險物ノ荷送人ハ危險物ノ容器及包裝ニ關シテハ別表第二號表ニ定ムル所ニ依ル但シ陸海軍ノ託送ニ係ルモノハ其ノ定ムル所ニ依ルコトヲ得
- 船長ハ危險物ノ積付ノ方法及場所ニ關シテハ別表第二號

表ニ定ムル所ニ依ルベシ

- 第五條** 危險物ノ荷送人ハ危險物ノ容器又ハ包裝ノ外部見易キ所ニ品名(火藥類ニ在リテハ火藥、爆藥、火工品及普通火工品ノ別)ヲ朱記シ又ハ朱記シタル標札ヲ附シ且取扱上ノ注意事項ヲ表示スベシ
- 第六條** 火藥類ハ其ノ容器、包裝及内容ノ表示ニ關シ前二條ノ規定ニ依リタルモノニ非ザレバ之ヲ船積スルコトヲ得ズ火藥類ノ荷送人ガ銃砲火藥類取締法施行細則ノ規定ニ依リ當該官廳ノ運搬許可證ヲ受クベキ場合ニ於テハ船長ガ其ノ許可證ヲ檢閲シタル後ニ非ザレバ之ヲ船積スルコトヲ得ズ
- 第七條** 危險物ヲ外國ニ於テ船積シ又ハ外國ニ於テ船積シタル危險物ヲ日本ニ於テ積換フルトキハ其ノ客器包裝及内容ノ表示ニ關シ第四條及第五條ノ規定ヲ適用セズ
- 第八條** 火藥類(普通火工品ヲ除ク)ハ管海官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ逕信大臣ノ認定シタル積荷ノ檢定ヲ行フ公益法人ノ檢定ヲ經タルトキニ限り之ヲ火藥庫以外ノ場所ニ積藏スルコトヲ得
- 前項ノ許可ヲ受ケントスル者ハ附錄書式ノ申請書二通ヲ船積地ニ在ル管海官廳ニ提出シ當該官廳ノ指定スル所ニ

從ヒ手数料ヲ納付スベシ但シ官廳又ハ公共團體ノ申請ニ係ルモノニ付テハ手数料ヲ徵收セズ

手数料ハ當該官吏ノ臨檢一回毎ニ三十圓トス
手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ手数料納付書ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ
手数料ハ申請者ノ都合ニ依リ其ノ申請ヲ取下ゲタルトキト雖モ當該官吏ガ船舶ニ臨檢シタル後ナルトキハ之ヲ徵收ス

第九條 管海官廳ハ前條ノ申請アリタルトキハ當該官吏ヲシテ船舶ニ臨檢セシメ申請ヲ適當ト認ムルトキハ申請書ノ一通ニ許可ノ與書ヲ爲シ許可ヲ爲シタル年月日及官廳名ヲ記載シ官廳印ヲ捺捺シ之ヲ申請者ニ還付ス

第十條 積荷ノ檢定ヲ行フ公益法人第八條第一項ノ認定ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ之ヲ逕信大臣ニ提出スベシ

- 一 積荷ノ檢定ニ關スル規則
- 二 手数料及旅費ニ關スル規則
- 三 積荷檢定員ノ氏名及履歷

逕信大臣ノ認定ヲ受ケタル積荷ノ檢定ヲ行フ公益法人積荷檢定員ヲ選任セントスルトキ又ハ前項第一號若ハ第二

危險物船舶運送及貯藏規則

號ニ掲グル規定ヲ變更セントスルトキハ逕信大臣ノ認可ヲ受クベシ

逕信大臣ハ第八條第一項ノ認定ヲ爲シタルトキ又ハ其ノ認定ヲ取消シタルトキハ之ヲ告示ス

第十一條 甲板ヲ有セザル船舶旅客ヲ搭載スルトキハ火藥類ヲ船積スルコトヲ得ズ
甲板ヲ有スル船舶ト雖モ旅客ヲ搭載スルトキハ雷酸鹽(雷汞ノ類)其ノ他ノ起爆劑及爆藥ヲ裝填シタル火工品ヲ船積スルコトヲ得ズ但シ陸海軍ノ託送ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 湖川港内ニ於テ火藥類ノ船積若ハ陸揚ヲ爲ス船舶又ハ火藥類ヲ積藏シ湖川港内ニ於テ航行、碇泊若ハ繫留セントスル船舶ハ船積地、陸揚地、發航地、碇泊地又ハ繫留地ヲ管轄スル警察官署ニ其ノ品名及數量並ニ其ノ日時及場所ヲ届出ヅベシ

前項ノ規定ハ船舶ノ常用火藥類ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十三條 石油類ヲ積藏スル船舶ハ他ノ船艙、機關室、石炭庫、軸路、旅客室、船員室又ハ料理室等ニ其ノ發生ガスヲ漏洩セシメザル水密隔壁其ノ他ノ設備ヲ有ジ且該船艙ノ換氣管ハ二重細目金網製覆ヲ施シタルモノナルコト

ヲ要ス

石油類ヲ積藏シタル船舶内ノ電線ニハ電流ヲ通ズルコトヲ得ズ但シ船舶設備規定第二百六條ノ規定ニ依ル電氣設備ヲ有スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 危險物ノ積藏、船積又ハ陸揚中ノ船舶ニ於テハ危險ヲ及ボス惧アル修繕工事ヲ爲スコトヲ得ズ

第十五條 火藥類ハ旅客ノ乗船又ハ下船ト同時ニ船積又ハ陸揚ヲ爲スコトヲ得ズ

第十六條 火藥類ヲ船積、陸揚又ハ荷繰スルトキハ之ヲ投下シ又ハ激突セシムベカラズ

第十七條 銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號ニ掲グル以外ノ火藥類ハ所轄警察官署ノ許可ヲ得タル場合ヲ除クノ外日没ヨリ日出迄ノ間ニ於テ之ヲ船積、陸揚又ハ荷繰スルコトヲ得ズ

第十八條 危險物ノ船積若ハ陸揚ヲ爲ス場所又ハ之ヲ積藏シタル場所ニ於テハ裸火若ハ燐寸其ノ他發火シ易キ物品ヲ携帯シ、鐵釘ヲ附シタル靴類ヲ穿チ又ハ喫煙スルコトヲ得ズ

第十九條 火藥類及石油類其ノ他可燃ガスマヲ發スル危險物ヲ積藏シタル船舶ニ於テハ安全燈ヲ除クノ外懷中電燈其

ノ他燈火ヲ使用スルコトヲ得ズ又當該船舶ノ閉閉ニ當リ金槌等ヲ使用スル場合ハ火花ヲ發セザル様適當ナル措置ヲ講ズベシ

第二十條 危險物ノ船積又ハ陸揚作業ヲ中止又ハ完了シタルトキハ直ニ火藥庫又ハ船舶ヲ閉鎖スベシ

第二十一條 銃砲火藥類取締法施行規則第二十八條ノ規定ニ依リ倉庫ニ貯藏スルコトヲ得ベキ數量ヲ超過スル火藥類ヲ積藏スル船舶湖川港内ニ於テ航行、碇泊又ハ繫留スルトキハ晝間ハ赤旗ヲ夜間ハ紅燈一箇ヲ檣頭其ノ他見易キ場所ニ掲グベシ但シ船舶ノ常用火藥類及第二十四條ニ掲グル火藥類ノミヲ積藏スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 船舶ニハ其ノ常用外ノ火藥類ヲ貯藏スルコトヲ得ズ但シ業務用トシテ貯藏スル場合又ハ銃砲火藥類取締法施行規則ノ規定ニ依リ繫留船若ハ倉庫船ニ貯藏スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 旅客ハ火藥類ヲ携帯シテ乗船スルコトヲ得ズ但シ船長ノ許可ヲ得テ少量ノ銃用火藥類及玩具用普通火工品ヲ携帯スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條 銃用火包、銃用空包、銃用雷管、爆管、信管、門管、緩燃導火線、濕藥（箱内ノ火藥又ハ爆藥ヲ爆發ノ

第三十條 地方長官ハ逓信大臣ノ認可ヲ受ケ船舶ニ依ル危險物ノ運送及貯藏ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附 則

第三十一條 本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條 明治四十四年四月逓信省令第九號火藥類船舶運送及貯藏規則ハ之ヲ廢止ス

第三十三條 第三十條ニ掲グル規定ニシテ本令施行ノ際現ニ存スルモノハ同條ニ依ル逓信大臣ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

附 錄 書 式

火藥類火藥庫外積藏許可申請書

- 一 船種、船名
 - 二 國籍、船籍港
 - 三 船舶所有者名
 - 四 船積港、發航日時及陸揚港
 - 五 積藏火藥類ノ品目及數量
 - 六 積藏場所及其ノ設備
 - 七 積藏火藥類ノ品目及數量
- 右火藥庫外積藏許可相成度危險物船舶運送及貯藏規則第八條ニ依リ及申請候也

危險物船舶運送及貯藏規則

- 危險ナキニ至ル迄十分濕潤ノ上箱ヲ密閉シ該箱ノ上ニ濕藥ト明記シタルモノ、芳香系列ノ硝化物又ハ之ヲ主トスル混和物ニシテ起爆劑ヲ附セザルモノ、硝酸アンモニアヲ主トスル爆藥中ニトログリセリン又ハ硝化纖維素ヲ含有セザルモノニシテ起爆劑ヲ附セザルモノ、煙火及玩具用普通火工品ニハ第十一條及第十五條ノ規定ヲ適用セズ
- 第二十五條** 船長ハ船舶ニ積藏シタル貨物が本令ニ違反シタル惧アリト認ムルトキハ何時ト雖モ證人立會ノ上之ヲ開封シテ検査スルコトヲ得
- 第二十六條** 管海官廳又ハ警察官署ハ危險物ノ運送及貯藏ニ關シ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ船舶ニ臨檢セシメ且危險豫防ノ爲必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第二十七條** 船舶所有者又ハ船長第六條、第十一條乃至第十五條、第十七條、第二十一條又ハ第二十二條ノ規定ニ違反シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十八條** 第十八條又ハ第十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十九條** 第四條、第五條又ハ第二十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

年 月 日

申請人 船舶所有者又ハ船長

住 所(所在地)

氏

名(名稱)

管海官廳宛

別 表

第一號表

一 雷酸鹽類其ノ他ノ起爆劑

(雷汞、雷銀、雷酸カドミニウム、窒鉛化、硫化窒素、ヂアゾ、パークロレート等白色、灰色又ハ黃色様物質ニシテ爆藥ノ起爆劑ニ應用セラレ爆發力強大ナルモノ)

二 爆藥類ヲ裝填シタル火工品

(爆藥ヲ裝填シ又ハ加工シタル彈丸又ハ信管類ニシテ摩擦動搖又ハ衝擊ニ對シ危險度大ナルモノ)

三 硝酸鹽混合火藥類

(硝石ヲ主劑トセル粉狀、粒狀、扁平、圓柱六稜等ノ緩性火藥類ニシテ摩擦、動搖又ハ衝擊ニ對シ危險ナルモノ)

四 硝基化合火藥類

(硝酸エステル、ニトロ化合火藥類ヲ指稱シニトログリセリン及之ヲ主トスル爆發藥及綿藥、芳香系列ノ硝化物及之ヲ主トスル混和物等ニシテ各種ダイナマイト類、トリニトロトルオール、トリニトロフェノール、テトリール等之ニ屬ス)

五 鹽素酸鹽爆藥

(スプレッセル氏火藥鹽斗藥等ニシテ自然發火ノ惧アルヲ以テ溫度及通風ニ注意ヲ要スベキモノ)

六 過鹽素酸鹽爆藥

(カリソナイト、カーリット等)

七 火 工 品

(爆藥ヲ裝填又ハ加工シタル火工品中比較的安全ナルモノニシテ雷管、爆管、門管、銃用實包、銃用空包等)

八 普通火工品

(緩燃導火線、發雷信號、信號焰管、星火ヲ發スル榴彈、火箭等ノ煙火類似品、打上煙火、ベンガリ、煙火、線香花火等ノ玩具用普通火工品)

九 鹽素酸鹽類

(鹽素酸カリ、鹽素酸ソーダ、鹽素酸バリウム等ニシテ無色結晶體ヲ成シ酸化力極メテ強ク分解スルトキハ酸素ガスマ量ニ放出シ衝擊又ハ摩擦ニ因リ發火シ他ノ可燃體ト混ズルトキハ其ノ程度特ニ著シキモノ)

十 過鹽素酸鹽類

(過鹽素酸アンモン、過鹽素酸カリ、過鹽素酸ソーダ等ニシテ白色結晶體ヲ成シ其ノ性質鹽素酸鹽類ニ同ジ)

十一 ニトロ染料類

(ピクリン酸ノ如ク爆發性ヲ有スルモノ)

十二 黃 磷 類

(帶黃白色蠟狀物質ニシテ空氣ニ接スル時ハ黃綠色ノ焰ヲ發スル有毒物)

危險物船舶運送及貯藏規則

十三 金屬ナトリウム

(銀白色ノ軟金屬ナリ水ニ接スルトキハ反應強烈ニシテ燃燒シ苛性ソーダヲ生ズルモノ)

十四 金屬カリウム

(銀白色ノ軟金屬ナリ水ニ接スルトキハ反應強烈ニシテ燃燒シ苛性カリヲ生ズルモノ)

十五 磷化カルシウム

(黃磷、石灰、木炭ヲ原料トシテ製造シタル褐色固體ニシテ水ニ接スルトキハ磷化水素ヲ生ジ自然發火スルモノ)

十六 硫 化 磷

(白色又ハ黃色結晶様物質ニシテ硫黃ヲ含有スルヲ以テ自然發火スルモノ)

十七 過酸化ソーダ

(帶黃色ノ粉末ニシテ空氣中ノ濕氣ヲ吸收發熱シ有機質ノ混在ニ因リ發火スルモノ)

十八 過酸化バリウム

(白色ノ粉末ニシテ空氣中ノ濕氣ヲ吸收發

十九 カーバイド
熱シ有機質ノ混在ニ因リ發火スルモノ

(白色又ハ灰色ノ塊狀ヲ爲シ濕氣ニ接スルトキハ非常ニ燃燒シ易キアセチレンガストラ發生スルモノ)

二十 晒粉

(鹽素ガストラ硝石灰中ニ吸收セシメタル白色粉末ニシテ團塊ヲ成スコトアリ鹽素類ニ類似セル強烈ナル刺激性ノ臭氣トガストラ發散スルモノ)

二十一 マグネシウム粉末

(銀色粉末ニシテ空氣中ノ濕氣ヲ吸收シテ發熱シ自然發火スルモノ)

二十二 ニトロセルローズ及其ノ製劑

(ニトロセルローズハセルロイド、コロデオ等ノ原料ニシテ植物纖維素ヲ濃厚硝酸、硫酸混液ニ因リ硝化セルモノヲ謂ヒ燃燒極メテ早ク摩擦又ハ日光等ニ依リ發火ス) (其ノ製劑コロデオンハニトロセルローズヲアルコール、エーテルノ混和液又ハアセ

二十三 セルロイド
トンニ溶解セル無色透明粘稠ノ液ニシテ容易ニ引火シ燃燒スルモノ)

(無色透明ナルモノ之ニ顏料ヲ混ジタルモノアリ樟腦ノ香氣ヲ有シ彈力アル固體ニシテ燃燒シ易キモノ)

二十四 硝石類

(硝石、智利硝石等ニシテ白色結晶體ヲ成シ酸化力強ク容易ニ酸素ヲ放出シ發火スルモノ)

二十五 油紙油布類

(亞麻仁油等ノ乾燥性油ニ不乾燥性油及動物油ヲ混ジ塗布シタル防水紙又ハ防水布ニシテ油類ノ自己酸化ニ因リ發火スルモノ)

二十六 酸類

發煙硫酸 (硫酸中ニ無水亞硫酸ヲ吸收セシメタルモノニシテ硫酸ニ比シ危險度高キモノ)

強硫酸 (油狀ノ液ニシテ酸化力強ク有

機質、無機質ヲ酸化シ高熱ヲ生ジ自然發火スルモノ)

發煙硝酸

(硝酸中ニ次硝酸ヲ吸收セシメタルモノニシテ硝酸ニ比シ危險度高キモノ)

強硝酸

(無色又ハ黃褐色ノ液ニシテ強キ酸性ヲ有シ有機質ヲ酸化シ自然發火スルモノ)

二十七 二硫化炭素

(無色又ハ帶黃色ノ液體ニシテ揮發シ易ク不快臭アリ空氣ト混ズルトキハ爆發性ヲ有シ攝氏零下二十度ニ於テ引火スルモノ)

二十八 石油類

第一種石油、第二種石油(未製石油及其ノ蒸溜產物又ハ變成石油ニシテアペール又ハベンスキー閉塞發煙試驗器ヲ用ヒ七百六十ミリメートルノ氣壓ニ於テ攝氏二十一度未滿ノ溫度ニテ發煙スルモノ)第一種石油トシテ二十一度以上七十度未滿ノ溫度ニテ發煙スルモノヲ第二種石油トス)

二十九 可燃性液體類

(エーテル、メタノール、ベンゾール、トルオール、ソルベントナフサ、アルコール、

三十 壓縮ガス及液化ガス類

アセトン、キシロール、テレピン油、アミールアルコール、ブチールアルコール、芳香系列ノ炭化水素等)

アセチレンガス (カーバイドニ水ヲ作用セシメテ生ズル無色ガスニシテ爆發シ易キモノ)

油ガス (石油類ヲ分解シテ得ラルル下級炭化水素ヲ含有スルモノニシテ燈用ガスナリ)

水素ガス (無色無臭ノ輕キガスニシテ酸素ト混合スルトキハ爆發スルモノ)

硫化水素ガス (硫化物ニ酸ヲ使用セシメテ得ラルルモノニシテ空氣又ハ酸素ト混合シタル場合火氣ヲ近ヅケルトキハ容易ニ爆發スルモノ)

一酸化炭素ガス (炭素ノ不完全燃燒ニ因リ生ズルモノニシテ酸素又ハ空氣ト混合シ火花ニ依リ爆發スルモノ)

石炭ガス (石炭ヲ乾溜シテ得ラルルガスニシテ空氣中百分

八二五

天然ガス
 (石油地帯等ニ天然ニ噴出スルガスニシテ空気ト混ズルトキハ爆發スルモノ)

亞硫酸ガス
 (無色ニシテ稍臭アリ熱シタル金屬類ヲガス中ニ投ズルトキハ發火スルモノ)

アンモニアガス
 (特有ノ刺戟臭アルモノニシテ鹽素ガス)

鹽素ガス
 又ハ沃度ト混ズルトキハ爆發スルモノ
 (刺戟臭ヲ有スル重キ黃色ガスニシテ腐蝕性大ナルモノ)

酸素ガス
 (無色ニシテ化合力強キモノ)

窒素ガス
 (無色ニシテ化合力弱キモノ)

炭酸ガス
 (無色ニシテ僅カニ刺戟性アリ消火力大ナルモノ)

亞酸化窒素ガス
 (無色無臭可燃性ニシテ水素ニ混ズルトキハ引火爆發スルモノ)

第二號表

番號	類名	品名	容器	施設	封法	包装	積付ノ方法及場所
一	雷酸鹽類 其ノ他ノ起爆劑	雷汞 窒化鉛	雷酸鹽類ハ清水ヲ滿タセルゴム蓋附硝子器ニ收納ス 其ノ他ノ起爆劑ハ亞鉛、銅、アルミニウム等ノ罐、厚紙箱、布袋、紙袋、木箱、フアイバー器等ニ收シ内容物ノ動搖ヲ豫防シ密封ス	木製容器ニ收容シ摩擦、動搖又ハ衝撃ヲ豫防シ得ル様適當ノ方法ヲ講ズ 木箱ハ板ハ乾キタル杉、松、エゾ松又ハ之ト同等以上ノ強度ヲ有スルモノヲ用ヒ板ノ厚サハ各部共ニ三厘以上トシ釘ハ長サ三・〇厘ニシテ適當ノ間隔ヲ以テ打込ミ蓋ハ長サ三・〇厘以上ノ釘又ハ沈頭木螺ニテ適當ノ間隔ヲ以テ釘附ス 尙必要アル場合ハ箱ノ兩稜側ニハ厚サ一・五厘以上幅三・〇厘以上ノ附シ又ハ〇・九厘以上ノ提繩ヲ附シ外部ニ鐵類ヲ露出セザルコトトス	右ニ同ジ	右ニ同ジ	火藥庫ニ積載スルコト
二	爆藥類ヲ裝填シタル火工品	彈丸、信管	第一號ニ掲ゲル其ノ他ノ起爆劑ニ同ジ但シ形狀ノ巨大ナルモノニ在リテハ摩擦動搖又ハ衝撃ヲ豫防シ得ル様方法ヲ講ズ	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ
三	硝酸鹽類 褐色有煙火藥	亞鉛、銅、アルミニウム、ブリキ製等ノ罐、厚紙箱、布袋、紙袋、木箱、フアイバー器等ニ收シ内容物ノ動搖ヲ豫防シ密封ス	木箱又ハ之ト同等以上ノ強度ヲ有スル金屬罐、フアイバー製箱ニ收シ内容物ノ動搖ヲ豫防シ得ル様適當ノ處置ヲ施ス	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ
四	硝基化合物 無煙火藥	ダイナマイト 類 ビクリン酸其ノ他芳香系列ノ硝化物	紙包ト爲シ内箱ニ納ム但シ硝酸アモン等ヲ以テ密容シ防濕ノ上内箱ニ收ス	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ
五	鹽素酸鹽	スプレングル 氏火藥ノ類	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ
六	過燐素酸鹽	カトリット	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ
七	火工品	雷管、爆管、門管	内容物ノ動搖ヲ豫防シ得ル様適當ノ處置ヲ施シ内箱ニ納ム	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ

危險物船舶運送及貯藏規則

番號	類名	品名	容器	施設	封法	包装	積付ノ方法及場所
一	雷酸鹽類 其ノ他ノ起爆劑	雷汞 窒化鉛	雷酸鹽類ハ清水ヲ滿タセルゴム蓋附硝子器ニ收納ス 其ノ他ノ起爆劑ハ亞鉛、銅、アルミニウム等ノ罐、厚紙箱、布袋、紙袋、木箱、フアイバー器等ニ收シ内容物ノ動搖ヲ豫防シ密封ス	木製容器ニ收容シ摩擦、動搖又ハ衝撃ヲ豫防シ得ル様適當ノ方法ヲ講ズ 木箱ハ板ハ乾キタル杉、松、エゾ松又ハ之ト同等以上ノ強度ヲ有スルモノヲ用ヒ板ノ厚サハ各部共ニ三厘以上トシ釘ハ長サ三・〇厘ニシテ適當ノ間隔ヲ以テ打込ミ蓋ハ長サ三・〇厘以上ノ釘又ハ沈頭木螺ニテ適當ノ間隔ヲ以テ釘附ス 尙必要アル場合ハ箱ノ兩稜側ニハ厚サ一・五厘以上幅三・〇厘以上ノ附シ又ハ〇・九厘以上ノ提繩ヲ附シ外部ニ鐵類ヲ露出セザルコトトス	右ニ同ジ	右ニ同ジ	火藥庫ニ積載スルコト
二	爆藥類ヲ裝填シタル火工品	彈丸、信管	第一號ニ掲ゲル其ノ他ノ起爆劑ニ同ジ但シ形狀ノ巨大ナルモノニ在リテハ摩擦動搖又ハ衝撃ヲ豫防シ得ル様方法ヲ講ズ	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ
三	硝酸鹽類 褐色有煙火藥	亞鉛、銅、アルミニウム、ブリキ製等ノ罐、厚紙箱、布袋、紙袋、木箱、フアイバー器等ニ收シ内容物ノ動搖ヲ豫防シ密封ス	木箱又ハ之ト同等以上ノ強度ヲ有スル金屬罐、フアイバー製箱ニ收シ内容物ノ動搖ヲ豫防シ得ル様適當ノ處置ヲ施ス	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ
四	硝基化合物 無煙火藥	ダイナマイト 類 ビクリン酸其ノ他芳香系列ノ硝化物	紙包ト爲シ内箱ニ納ム但シ硝酸アモン等ヲ以テ密容シ防濕ノ上内箱ニ收ス	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ
五	鹽素酸鹽	スプレングル 氏火藥ノ類	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ
六	過燐素酸鹽	カトリット	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ
七	火工品	雷管、爆管、門管	内容物ノ動搖ヲ豫防シ得ル様適當ノ處置ヲ施シ内箱ニ納ム	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ

八普通火工品	緩燃導火線、煙火、煙火類、似品及玩具用普通火工品	内容物ノ動搖ヲ豫防シ得ル様適當ノ處置ヲ施シ木箱ニ納ム	
九鹽素酸鹽類	鹽素酸カリ、鹽素酸ソーダ、鹽素酸バリウ	完全ナル罐詰ト爲ス但シ鹽素酸カリハ罐詰ト爲サザルコトヲ得	木樽又ハ木箱入トス
十過鹽素酸鹽類	過鹽素酸カリ、過鹽素酸ソーダ、過鹽素酸アンモン	完全ナル罐詰ト爲ス但シ過鹽素酸カリハ罐詰ト爲サザルコトヲ得	右ニ同ジ
十一ニトロ染料類	ニトロロナフ、ダリン	陶器、磁器、純錫器、純アルミニウム器、硝子器、木器等ニ收容シ完全ナル罐詰ト爲ス	右ニ同ジ
十二黃磷類	黃磷	正味五百瓦未滿ノ場合ハ水ヲ充タセル硝子壘ニ入レ石膏、封蠟ノ類ニテ嚴封ス 正味五百瓦以上ノ場合ハ水ヲ充タセル罐ニ入レ嚴封ス但シ一罐ノ正味二十五瓦ヲ超ユルコトヲ得ズ	木箱ニ入レ壘ノ周圍ニ鋸屑、鉋屑、細砂、藁ノ類ヲ填充ス 完全ナル木箱入トス
十三金屬ナトリウム	金屬ナトリウム	石油類ヲ入レタル硝子壘又ハブリキ罐ニ入レ密封シ更ニ完全ナル罐ニ嚴封ス	右ニ同ジ
十四金屬カリウム	金屬カリウム	右ニ同ジ	右ニ同ジ

十五	磷化カルシウム	共口硝子壘ニ入レ石膏、封蠟ノ類ニテ密封シ更ニ之ヲブリキ罐ニ納メ其ノ間隙ニハ鋼屑、鉋屑、藁ノ類ヲ填充シ蓋ノ合目ハ目張ヲ施ス	木箱ニ入レ鋸屑、鉋屑、藁ノ類ニテ填充ス	中甲板其ノ他容易ニ取出シ得ベキ通風良好ナル場所ヲ選ビ且水又ハ濕氣トノ接觸ヲ防止スルコトヲサザルコト
十六硫化燐	三硫化燐、五硫化燐	完全ナル罐詰ト爲ス	木樽又ハ木箱入トス	上甲板積ト爲スコト
十七	過酸化ジニダ	正味五百瓦未滿ノ場合ハ共口硝子壘ニ入レ石膏、封蠟ノ類ニテ密封シ又ハ完全ナルブリキ罐詰トス 正味五百瓦以上ノ場合ハ完全ナルブリキ罐詰トス	木箱ニ入レ壘ノ周圍ニ不燃性物質（白墨粉、滑石粉、石炭殻篩粉、粘土、土砂、灰ノ類）ヲ填充シ又ハ罐ト密着セルブリキ張木箱トス	成ルベク汽機、汽罐室等熱氣アル場所ニ接近セシメザルコト
十八	過酸化バリウム	右ニ同ジ	右ニ同ジ	右ニ同ジ
十九	カーバイド	ブリキ製又ハ鐵製ノ罐ニ入レ嚴封シ繩掛ト爲ス	右ニ同ジ	右ニ同ジ
二十	晒粉		遠距離ノ熱帯航海ニ於テハ鉛板ヲ以テ内張セル木箱又ハ陶製容器トス	日光ヲ遮蔽シタル場所ニシテ濕氣ナキ場所ヲ選ビ良好ナル場所ヲ選ビ船室ニ接近シテ積藏セザルコト

二十一	マグネシウム 粉末	正味五百瓦未満の場合ハ硝子壺ニ入レ密封ス 正味五百瓦以上ノ場合ハブリキ罎ニ入レ密封ス	木箱ニ入レ壺ノ周圍ニ藁ノ類ヲ充填ス 罎ト密著セル木箱入トス	汽機、汽罐室等熱氣メタル所ニ接近セシメ防止スルコト
二十二	ニトロセルロ ーズ及其ノ製 劑	樽又ハ桶ニ入レ完全ニ水漬ケシ嚴封ス又ハ適當ニ水分ヲ含マシメ之ヲパライン紙ニテ包裝シ木箱ニ納メ板ノ繼日ハブリキ板ニテ目張ヲ施ス 堅牢ナル木製容器入トス	成ルベク中甲板積ト爲スコト	他ノ貨物ノ下積ト爲サザルコト
二十三	セルロイド (素地及フイ ルムニ限ル)	硝子壺ニ入レ嚴封ス	木箱ニ入レ壺ノ周圍ニ鋸屑、鉋屑、藁ノ類ヲ填充ス	他ノ貨物ノ下積ト爲サザルコト
二十四	硝石類	硝石壺ニ入レ嚴封ス	木箱ニ入レ壺ノ周圍ニ鋸屑、鉋屑、藁ノ類ヲ填充ス	他ノ貨物ノ下積ト爲サザルコト
二十五	油紙油布 類	智利硝石 撤積ノ場合ヲ除クノ外内容品ノ露出セザル二重ノ麻袋入トス	棹箱又ハ筵包ト爲ス等内部ノ通氣ヲ阻害セザルコト	成ルベク上甲板積ト爲スコト 船艙内ニ積藏スル場 合ハ容易ニ接近シ易 キ冷所ニ積藏スルコ ト
二十六	酸類	壺詰トシ石膏、封蠟ノ類ニテ密封ス アルミニウム製又ハ不銹鋼製ドラム入トス	木箱ニ入レ壺ノ周圍ニ鋸屑、鉋屑、藁ノ類ヲ填充ス	上甲板積又ハ中甲板積ト爲スコト 他ノ積合セ貨物ナキ場合ニ於テハ下積ニ

二十七	二硫化炭素	厚サ約〇・三二(三十番)以上ノ鐵板ニテ製シタル二十五立未満ノ容 器ニ入レ嚴封ス	罎ト密著セル木箱入トス	積藏スルコトヲ得ル 通風良好ナル冷所ヲ 選ブコト
二十八	石油類	油槽ニ積藏スル場合ヲ除クノ外ドラム又ハブリキ罎ニ入レ嚴封ス	沿海區域ニ於テ少量ヲ運送スル場 合ニ限リ繩掛ケ裸罎ト爲スコトヲ 得	積藏スルコトヲ得ル 通風良好ナル冷所ニ 日光ニ曝露セシメザ ルコト
二十九	可燃性液 體類	右ニ同ジ	右ニ同ジ	積藏スルコトヲ得ル 通風良好ナル冷所ニ 日光ニ曝露セシメザ ルコト
三十	炭酸ガス 酸素	ガス注入前耐壓力ヲ試驗シタル砲 彈型鐵器(ボンブ)罎ニ入レ口ヲ 螺型鐵栓ニテ密封シ其ノ上ヲ螺 型鐵栓ニテ密シ液炭酸ガスノ容 器、螺型鐵栓ノ外部ニ突出セザル 螺帽ヲ使用セザルコトヲ得	上ノ木梓入トス(直徑六・六種以 上ノ丸ヲ組合セ其ノ兩端ハ厚サ 一・四以上ノ板片ヲ十字形ニ 釘附シタルモノ若ハ梓ノ形ニ 相附スル底板ヲ當テタルモノ又 ハ帶鐵、繩ノ類ヲ以テ十分緊締	積藏スルコトヲ得ル 通風良好ナル冷所ニ 日光ニ曝露セシメザ ルコト

備考

- 一 火薬類以外ノ危険物ニ付テハ事情ニ應ジ本表ニ定ムル事項ニ適當ナル變更ヲ加フルコトヲ妨ゲズ
- 二 本表ニ掲グル火薬庫ニハ持運式火薬庫ヲ包含ス
- 三 火薬類ノ積藏ニ付テハ左ノ各號ニ依ルベシ
 - (イ) 艙口ヨリ容易ニ接近シ得ル場所ナルコト
 - (ロ) 燃焼シ易キ貨物其ノ他爆發ノ誘因トナルベキ惧アル貨物ニ接近セシメザルコト
 - (ハ) 外板ニ接觸セル場所、震動ヲ受クル場所及旅客室、船員室、油槽、機關室、蓄電池、發電機、石炭庫料理室其ノ他火氣又ハ熱氣アル場所ヲ避クルコト
 - (ニ) 他ノ貨物ノ下積ト爲サザルコト
 - (ホ) 露出セル鐵類トノ接觸ヲ避クルコト
- 四 銃砲火薬類取締法施行細則ノ規定ニ依リ別棟ノ火薬類貯藏所ニ貯藏スベキモノハ之ヲ同一ノ火薬庫又ハ船

(シタルモノ)
 (ロ) 堅牢ナル木箱入トス
 (ハ) ボンブノ入ノ帽蓋ノ周圍ニ外徑ハ罐ノ胴丸、内徑ハ帽蓋ノ外徑、高サハ帽蓋ノ高サニ等シキ木又ハ柔軟物製ノ環狀物ヲ挿入シテ帽蓋ヲ完全ニ圍繞シ尙之ヲ徑〇・九釐以上ノ麻繩ヲ以テ作リタル網袋(目ノ太サ四・五釐平方以下ノモノ)又ハ籐製ノ籠ニ入レ其ノ口ヲ緊縛ス

船ニ積藏スベカラズ
 甲板ナキ船舶ニ在リテハ前項ノ火薬類ヲ同一船舶ニ積藏スベカラズ

- 五 船舶ノ常用火薬類ハ木製ノ箱ニ容レ且容易ニ取出シ得ベキ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スベシ
- 六 火工品中安全實包及安全空包ハ火薬類ヲ裝填セザル雷管附又ハ爆管附藥莖ト同一ノ取扱ヲ爲スコトヲ得
- 七 鹽素酸カリ、鹽素酸ソーダ、ニトロ染料、黃磷、金屬ナトリウム、金屬カリウム、磷化カルシウム、硫化磷及過酸化バリウムハ易燃性又ハ可燃性物質トノ積合ヲ避クベシ
- 八 カイバイド、マグネシウム粉末、ニトロセルロイズ其ノ他ノ製劑、セルロイズ、硝石類、油紙油布類、酸類、石油類及可燃性液體類、壓縮ガス及液化ガス類ハ自然發火ヲ爲シ易キ物質トノ積合セラ避クベシ

救命艇手適任證書交付規則

(昭和九年二月) 遞信省令第十六號

改正 昭和十一年十月 遞信省令第五十六號

第一條 船舶安全法施行規則第五十六條第七項ニ規定スル救命艇手適任證書ノ交付、書換又ハ返還ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

船舶安全法施行規則第五十六條 船舶ハ其ノ搭載シタル救命艇又ハ救命筏ニ左ノ員數ヲ割當ツルニ足ル救命艇手適任證書ヲ受有スル船員ヲ乘組マシムベシ但シ臨時旅客又ハ甲板旅客搭載ノ爲特ニ之ヲ乘組マシムル必要ヲ生ジタルトキハ管海官廳又ハ帝國領事官ノ認可ヲ受ケ當該所要員數ノ一部又ハ全部ヲ減シ相當ノ技能ヲ有スル船員ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

- 一 定員四十人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ二人
- 二 定員四十一人以上六十一人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ三人
- 三 定員六十二人以上八十五人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ四人

救命艇手適任證書交付規則

四 定員八十六人以上ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ五人
 前項ノ船員ノ割當員數ニ付テハ事情ニ應ジ船長之ヲ定ム

船長ハ救命艇又ハ救命筏ニ其ノ指揮者トシテ甲板部職員又ハ第一項ニ規定スル船員ヲ配置シ且右指揮者ガ故障アル場合ニ於テ之ニ代リテ指揮スル者ヲ定メ置クベシ
 船長ハ前項ノ指揮者ヲシテ其ノ指揮スル救命艇又ハ救命筏ノ乘組員ノ名簿ヲ所持セシムベシ
 船長ハ發動機ヲ有スル救命艇ニハ發動機ヲ運轉シ得ル者ヲ、無線電信又ハ探照燈ノ設備ヲ有スル救命艇ニハ其ノ設備ヲ操作シ得ル者ヲ配置スベシ
 船長ハ救命艇、救命筏、救命浮器其ノ他ノ救命設備ガ何時ニテモ使用シ得ルコトヲ確ムル爲甲板部職員ヲ指定シ置クベシ
 救命艇手適任證書ノ交付、書換又ハ返還ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

- 第二條 救命艇手適任證書ハ左ニ掲グル者ニ之ヲ交付ス
- 一 海技免狀ヲ受有スル者
 - 二 官公立商船學校卒業者及實習生

- 三 水夫適任證書ヲ受有スル者
 - 四 海兵團ノ教程ヲ終了シタル者
 - 五 遞信大臣ノ適當ト認ムル海員養成所修業者
 - 六 沿海以上ノ航行區域ヲ航行スル總噸數百噸以上ノ船舶ニ乗組ミ三年以上甲板部員トシテ執務シ體格検査ニ合格シタル者
 - 七 沿海以上ノ航行區域ヲ航行スル船舶ニ乗組ミ一年以上甲板部員トシテ執務シ且端艇ノ運用ニ關スル試驗並體格検査ニ合格シタル者
 - 八 沿海以上ノ航行區域ヲ航行スル總噸數百噸以上ノ船舶ニ乗組ミ三年以上執務シ且端艇ノ運用ニ關スル試驗並體格検査ニ合格シタル者
- 前項第七號及第八號ノ試驗ハ救命艇作業ニ關スル命令ヲ了解シ救命艇ノ卸方、漕方及操縦ニ習熟セルヤ否ニ付之ヲ行フ
- 第三條** 救命艇手適任證書ヲ交付ヲ受ケントスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ提出シ海技免狀、船員手帖其ノ他資格ヲ證スル書類ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供スベシ
- 救命艇手適任證書ハ第二號書式ニ依ル
- 第四條** 救命艇手適任證書ヲ減失又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ該證書ヲ交付シタル管海官廳ニ之ガ再交付ヲ申請スルコトヲ得

- 救命艇手適任證書ノ記載事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ該證書ヲ交付シタル管海官廳ニ之ガ書換ヲ申請スベシ
- 救命艇手適任證書ヲ受有スル者廢業又ハ死亡シタルトキハ之ヲ受有又ハ保管スル者ハ遲滯ナク該證書ヲ交付シタル管海官廳ニ之ヲ返還スベシ
- 第五條** 本令ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納付スベシ
- 一 第二條第一項第一號乃至第六號ニ掲グル者救命艇手適任證書ノ交付ヲ申請スルトキ 二十錢
 - 二 第二條第一項第七號又ハ第八號ニ掲グル者救命艇手適任證書ノ交付ヲ申請スルトキ 三十錢
 - 三 救命艇手適任證書ノ再交付又ハ書換ヲ申請スルトキ 十錢
- 手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ納付書ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ
- 第六條** 本令ニ依ル事務ハ左ノ管海官廳ニ於テ之ヲ行フ
東京地方遞信局、東京地方遞信局海事部橫濱出張所、大阪遞信局、大阪遞信局海事部神戸出張所、熊本遞信局、札幌遞信局
- 附 則
本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式 (表)

救命艇手適任證書交付申請書

救命艇手適任證書交付相成度此段及申請候也

年 月 日

通知ヲ受クベキ場所

管海官廳宛

(裏)

申請人 氏

名 印

氏 名	出生年月日		本 籍	
	船員手帖番號	第 第	乘船年月日	下船年月日
	船種船名	總噸數	航行區域	職 名
	船種船名	總噸數	航行區域	職 名
管海官廳宛	通知ヲ受クベキ場所	管海官廳宛	通知ヲ受クベキ場所	管海官廳宛
期 間 合 計	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
※	年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日

救命艇手適任證書交付規則

備考

救命艇手適任證書交付規則第二條第一項第一號乃至第五號ニ依リ申請スル者ハ其ノ旨※印欄ニ記載シ乗船履歴ハ之ヲ記載スルニ及バズ
氏名ニハ片假名ヲ以テ傍訓ヲ附スベシ

第二號書式

第 號

救命艇手適任證書

本籍

氏

出生年月日 名

年 月 日

右者救命艇手適任證書交付規則ニ依リ救命艇手ニ適スル者ト認メ此證書ヲ付與ス

管海官廳名印

備考

裏面ニ英譯ヲ附記ス

船舶検査執行地指定ノ件

(昭和九年二月) 逓信省告示第四百四十七號

船舶安全法施行規則第七十三條ノ規定ニ依ル船舶検査執行別表

地別表ノ通定メ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス
大正八年五月逓信省告示第六百四十一號ハ昭和九年二月二十八日限り之ヲ廢止ス

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|--------|-----------------------------|-----|--------|--------|--------|-----|--------|--------|--------|--------|-----|-----|--------------------------------|------|--------------------------------|---------|---------|--|
| 北海道 | 函館市 | 釧路市 | 留萌郡留萌町 | 網走郡網走町(昭和十三年一月逓信省告示第一八六號追加) | 小樽市 | 岩内郡岩内町 | 天鹽郡天鹽町 | 根室郡根室町 | 室蘭市 | 高島郡高島町 | 宗谷郡稚内町 | | | | | | | | | | |
| 東京府 | 東京市 | 京都府 | 加佐郡舞鶴町 | 大阪府 | 大阪市 | 神奈川縣 | 横濱市 | 三浦郡浦賀町 | 神戸市 | 兵庫縣 | 飾磨郡家島町 | 津名郡岩屋町 | 三原郡福良町 | 長崎縣 | 長崎市 | 東彼杵郡早岐町(昭和十一年十一月逓信省告示第三〇九九號追加) | 佐世保市 | 東彼杵郡江上村(昭和十一年十一月逓信省告示第三〇九九號追加) | 南高來郡島原町 | 西彼杵郡香焼村 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

船舶検査執行地指定ノ件

南高來郡口ノ津町
新潟縣 新潟市
千葉縣 銚子市
安房郡館山北條町
茨城縣 那珂郡湊町
鹿郡郡波崎町(昭和十四年七月遷信省 告示第二〇二一號追加)
三重縣 四日市市
度會郡大湊町
志摩郡鳥羽町
北牟婁郡尾鷲町
南牟婁郡荒坂村(昭和九年九月遷信省 告示第二四一二號追加)
愛知縣 名古屋市
幡豆郡幡豆町
寶飯郡西浦村
沼津市
加茂郡下田町
田方郡伊東町
駿東郡靜浦村(昭和十二年三月遷信省 告示第六二八號追加)
志大郡小川村
滋賀縣 大津市

北松浦郡平戸町(昭和十年一月遷信省 告示第一九三號追加)
中頸城郡直江津町
東葛飾郡南行徳村
久慈郡久慈町
桑名郡桑名町
度會郡二見町
志摩郡濱島町
北牟婁郡引本町
南牟婁郡鵜殿村(昭和十年七月遷信省 告示第一七八七號追加)
知多郡平田町
寶飯郡三谷町
渥美郡福江町
清水市
加茂郡松崎町
田方郡宇佐美村
庵原郡袖師村(昭和十二年三月遷信省 告示第六二八號追加)

南松浦郡玉ノ浦村
岩船郡大川谷村
夷隅郡勝浦町
新治郡土浦町
度會郡神社町
度會郡南海村
志摩郡的矢村
南牟婁郡南輪内村(昭和十年三月遷信省 告示第六二一號追加)
知多郡師崎町
寶飯郡形原町
加茂郡稻取町
加茂郡田子村
田方郡戸田村(昭和十二年三月遷信省 告示第六二八號追加)
志大郡燒津町

宮城縣 石卷市
牡鹿郡女川町
本吉郡鹿折村(昭和十二年四月遷信省 告示第八一六號追加)
福島縣 石城郡小名濱町
岩手縣 上閉伊郡釜石町
青森縣 青森市
山形縣 酒田市
秋田縣 山本郡能代港町
福井縣 敦賀市(昭和十二年四月遷信省 告示第八一五號改正)
石川縣 石川縣金石町
富山縣 上新川郡東岩瀨町
鳥取縣 鳥取市(昭和十二年四月遷信省 告示第八一六號改正)
島根縣 松江市
周吉郡西郷町
岡山縣 邑久郡牛窓町
淺口郡玉島町
廣島縣 廣島市
三原市(昭和十一年十二月遷信省 告示第三三三〇號改正)
佐伯郡大柿町

名取郡閉上町
本吉郡氣仙沼町
桃生郡十五濱村(昭和十四年三月遷信省 告示第七〇三號追加)
石城郡江名町
下閉伊郡宮古町
八戸市

宮城縣鹽釜町
本吉郡唐桑村(昭和十二年四月遷信省 告示第八一六號追加)

由利郡金浦町(昭和十二年八月遷信省 告示第三三二〇號追加)
坂井郡三國町
羽咋郡福浦村
射水郡新湊町
西伯郡境町
八東郡森山村

兒島郡宇野町
小田郡笠岡町
吳市
安藝郡音戸町
豐田郡幸崎町

南秋田郡船川港町
鹿島郡七尾町
射水郡伏木町
那賀郡濱田町(昭和十二年三月遷信省 告示第六二八號追加)
兒島郡日比町
小田郡金浦町
尾ノ道市
安藝郡倉橋島村
豐田郡御手洗町

豐田郡木ノ江町
豐田郡中野村
豐田郡東生口村
御調郡土生町
御調郡向島西村
沼隈郡千年村

山口縣

下關市

德山市(昭和十二年四月通省 告示第八一六號追加)

大島郡久賀町

大島郡和田村

大島郡蒲野村

熊毛郡麻里府村

都濃郡大華村

厚狹郡小野田町

和歌山縣

海草郡湊村

西牟婁郡田邊町

東牟婁郡新宮町

德島縣

德島市

那賀郡桶町

豐田郡大崎南村

豐田郡東野村

豐田郡名荷村

御調郡三庄町

御調郡田熊村

宇部市

防府市(昭和十二年十一月通省 告示第三八〇七號改正)

大島郡小松町

大島郡森野村

大島郡沖浦村

都濃郡下松町

吉敷郡井關村

豐田郡長府町

日高郡松原村

西牟婁郡串本町

東牟婁郡勝浦町

勝浦郡小松島町(昭和十年十月通省 告示第二七一號追加)

那賀郡見能林村

豐田郡西野村

豐田郡南生口村

豐田郡北生口村

御調郡向島東村

沼隈郡浦崎村

萩市

大島郡安下庄町

大島郡油田村

大島郡日良居村

熊毛郡上關村

都濃郡末武南村

吉敷郡東岐波村

日高郡白崎村(昭和十三年十一月通省 告示第三六九〇號追加)

西牟婁郡下芳養村

那賀郡富岡町

那賀郡椿村

海部郡牟岐町

板野郡撫養町

香川縣

高松市

小豆郡苗羽村

愛媛縣

今治市

溫泉郡新濱村

越智郡波方村

喜多郡長濱町

高知縣

高知市

安藝郡室戸岬町

吾川郡長濱町

幡多郡清水町(昭和十一年十一月通省 告示第三〇九九號追加)

福岡縣

福岡市

大牟田市

三潞郡大川町

北海郡那白杵町

南海郡那佐伯町

佐賀縣

唐津市

熊本縣 宇土郡三角町

船舶検査執行地指定ノ件

海部郡三岐田町

小豆郡池田町

宇和島市

溫泉郡興居島村

越智郡東伯方村

新居郡新居濱町(昭和十一年十一月通省 告示第三〇九九號追加)

安藝郡室戸町

安藝郡吉良川村(昭和十三年十一月通省 告示第三六九〇號追加)

高岡郡須崎町

門司市

八幡市

北海郡津久見町

西松浦郡伊萬里町

八代郡八代町

海部郡日和佐町(昭和十二年六月通省 告示第一五四〇號追加)

小豆郡西村

溫泉郡三津濱町

越智郡波止濱町

越智郡西伯方村

安藝郡甲浦町

長岡郡三里村

幡多郡下田町

若松市

戸畑市

北海郡保戸島村

天草郡阿村

- 天草郡御領村
- 宮崎縣 延岡市 (昭十二年三月遞信省 告示第六二八號 改正)
- 東臼杵郡富島町 (昭十四年七月遞信省 告示第二〇二二號 追加)
- 鹿兒島縣 鹿兒島市
- 日置郡串木野町 (昭十一年十一月遞信省 告示第三〇九九號 追加)
- 沖繩縣 那霸市
- 天草郡鬼池村
- 南那珂郡油津町
- 川邊郡知覽町 (昭十二年十月遞信省 告示第三二七二號 追加)
- 大島郡名瀬町

- 葦北郡水俣町 (昭十三年十一月遞信省 告示第三六九〇號 追加)
- 南那珂郡南郷村 (昭十二年三月遞信省 告示第六二八號 追加)
- 川邊郡枕崎町
- 大島郡古仁屋町 (昭十二年三月遞信省 告示第六二八號 追加)

休暇日船舶検査執行地

ノ件 (昭九 年 二月 遞信省告示第四百四十九號)

船舶安全法施行規則第七十五號ノ規定ニ依ル休暇日船舶検査執行地別表ノ通定メ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス
大正八年五月遞信省告示第六百四十二號ハ昭和九年二月二十八日限り之ヲ廢止ス

別表

- 横濱市 大阪市
- 神戸市 廣島縣御調郡土生町
- 廣島縣御調郡三庄町 長崎市

漁船特殊規則第三條第十

號及第四條第十號ノ業務

指定ノ件 (昭九年二月 遞信省 告示第一號)

漁船特殊規則第三條第十號ノ業務及第四條第十號ノ業務左ノ如シ

漁船ノ業務認定ニ關スル件

第一條 左ニ掲グル業務ハ第三條第十號ノ業務トス

- 一 一定置漁業
- 二 敷網漁業
- 三 追込網漁業
- 四 飼付漁業

- 五 鮪壺漁業
 - 六 潜水漁業
 - 七 縫切網漁業
 - 八 待網漁業
 - 九 罾漬漁業
 - 十 浮曳網漁業
 - 十一 其ノ他ノ雜種漁業
- 第二條 左ニ掲グル業務ハ第四條第十號ノ業務トス
- 一 鮭鱒、蟹漁業 (母船ニ附屬スル漁船ニ依リテ爲スモノニ限ル)
 - 二 鮪流網漁業
 - 三 珊瑚漁業
 - 四 蝶貝、高瀬貝及千歳貝漁業

近海區域外ニシテ臨時旅客ヲ搭載シ得ル區域指定

ノ件 (昭九年三月遞信省 告示第五百九號)

改正 昭和十二年一月遞信省 告示第二百二十五號

船舶検査執行地指定ノ件・休暇日船舶検査執行地ノ件・漁船特殊規則第三條第十號及第四條第十號ノ業務指定ノ件・近海區域外ニシテ臨時旅客ヲ搭載シ得ル區域指定ノ件・船級協會認定ノ件・英國船舶外ノ検査ニ關スル件

船級協會認定ノ件

(昭九年三月遞信省 告示第六百十九號)

左ノ船級協會ハ船舶安全法第八條ノ規定ニ依リ船舶ノ構造、設備、滿載吃水線及船用品検査試験ニ關スル業務ニ從事シ得ルモノトシテ昭和九年三月一日附之ヲ認定セリ
社團法人帝國海事協會 東京市麴町區丸ノ内一丁目六番

英國船舶ノ検査ニ關スル件

(昭十一年十二月 遞信省令第七十一號)

英國政府ニ於テ交付シタル旅客及安全證書ハ船舶安全法第十五條第一項ノ規定ニ依リ同法ニ依リ交付シタル船舶検査證書ト同一ノ效力ヲ有スルモノトス

帝國政府ノ發給スル船舶 検査證書及滿載吃水線證 書ヲ佛蘭西國政府ニ於テ 承認ノ件

(大正十四年十二月
遞信省告示第七百九十四號)

大正十五年一月二十九日以後佛蘭西國政府ニ於テハ帝國政府
ノ發給スル船舶検査證書及船舶滿載吃水線證書ヲ承認スル
コトトナリタルニ付佛蘭西國又ハ其ノ殖民地若ハ管治地域
ニ航行スル日本船舶ノ所有者、船長及其ノ他關係者ハ左ノ
事項ニ注意スベシ

一 佛蘭西國(其ノ殖民地及管治地域ヲ含ム以下同ジ)ニ
航行スル日本船舶ニシテ船舶検査證書、船舶滿載吃水
線證書及大正十四年十二月遞信省令第八十六號ニ依ル
別種検査證書ヲ受有スルモノハ佛蘭西國ニ於テ出港檢
査ヲ行ハルルコトアル場合ヲ除クノ外何等検査ヲ行ハ
ルルコトナク又佛蘭西國法規ノ定ムル航海許可書及船
舶滿載吃水線證書ヲ受有スルコトヲ要セザルモノトス
大正十五年一月二十九日前ニ龍骨ヲ据附ケタル非旅客

船ハ船舶検査證書及船舶滿載吃水線證書ヲ受有スルト
キハ別種検査證書ヲ要セズシテ前項ノ取扱ヲ受クルモ
ノトス
前項ノ船舶ニシテ船舶國籍證書ニ記載シタル進水ノ年
月ニ依リ當然大正十五年一月二十九日前ニ龍骨ヲ据附
ケタルモノナルコトヲ證明シ難キ虞アルモノハ大正十
四年十二月遞信省令第八十六號ニ依ル龍骨据附日證明
書ヲ受有スルヲ可トス

二 前號ノ船舶ニ對シ佛蘭西國ニ於テ行ハルル出港検査
ニ於テハ單ニ船舶検査證書、船舶滿載吃水線證書又ハ
別種検査證書ヲ受有スルコトヲ確メ船舶ガ大體ニ於テ
耐抗性ヲ有シ船員及旅客ノ爲メ危險ナキ状態ニ於テ出
港シ得ルカ否ヲ認定セラルルニ止マリ船體、機關及屬
具等ニ關スル照査ヲ行ハルルコトナク且如何ナル場合
ニ於テモ日本ノ法規ニ定ムル以外ノ條件ヲ課セラルル
コトナシ

三 佛蘭西國ニ於テ行ハルル出港検査ハ如何ナル場合ニ
於テモ船舶ノ發航ヲ遲延セシムルコトナク又出港時間
ヲ正式ニ通告シタル後ハ未ダ出港検査行ハレザルトキ
ト雖佛蘭西國ノ港ニ於テ旅客ヲ搭載スルト否トニ拘ラ

ズ定刻ニ出港シ何等法規違反トナルコトナシ

四 日本船舶ガ目的港ニ非ザル佛蘭西國ノ港ニ入港スル
モ商行爲ヲ爲サズ又ハ單ニ炭水其ノ他航海必需品ノミ
ヲ積入ルル場合ニ於テハ出港検査ヲ行ハルルコトナシ

佛蘭西國ニ航行スル日 本船舶検査ニ關スル件

(大正十四年十二月
遞信省令第八十六號)

佛蘭西國ニ航行スル日本船舶ノ検査ニ關スル件左ノ通り定
ム
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 佛蘭西國(其ノ殖民地及管治地域ヲ含ム)ニ航行セ
ムトスル日本船舶ガ別種検査證書ノ交付ヲ受ケムトスル
トキハ船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人又ハ船長ヨ
リ附録書式甲ニ依リ管海官廳ニ別種定期検査ヲ申請スベ
シ

前項ノ申請書ニハ船舶検査手帖ヲ添附スベシ
別種検査證書ヲ受有スル船舶ハ其ノ證書ノ有効期間内ト
雖線上別種定期検査ヲ申請スルコトヲ得

帝國政府ノ發給スル船舶積載證書及滿載吃水線證書ヲ佛蘭西國政府ニ於
テ承認ノ件・佛蘭西國ニ航行スル日本船舶検査ニ關スル件

第二條 前條ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ検査官吏チ
シテ當該船舶ヲ検査セシメ第三條及第四條ノ規定ニ適合
スト認メタルトキハ附録書式乙ノ別種検査證書ヲ交付ス

別種検査證書ハ船舶ノ航行期間滿了ノ日ヲ以テ其ノ有效
期限トス但シ當該船舶ガ船舶検査法施行細則ノ規定ニ依
リ回航認可證書ヲ受有スル場合ニ於テハ該證書ノ有效期
間内仍之ヲ有效トス

第三條 旅客船ノ端艇及救命設備ハ左ノ各號ノ規定ニ適合
スルコトヲ要ス

一 船舶検査規程第四號表中當該船舶ノ總噸數ニ對シ定
ムル所ヨリ一段下級ノ總噸數ニ對シ定ムル所ニ從ヒ端
艇鈎ヲ有スル端艇ヲ備フルコトヲ要ス

二 端艇鈎ヲ有スル端艇ノ數及容積ガ第一號ニ依リ備フ
ベキ端艇ノ數及容積ニ足ラザルモ現ニ之ヲ備フル船舶
ノ旅客定員及船員ノ總員數ヲ一人ノ容積〇・二八三立
方「メートル」(一〇立方呎)ノ割合ヲ以テ搭載シ得ルト
キハ其ノ不足ハ之ヲ補充スルコトヲ要セズ

三 第一號ニ依リ備フベキ端艇鈎ヲ有スル端艇ガ現ニ之
ヲ備フル船舶ノ旅客定員及船員ノ總員數ヲ一人ノ容積
〇・二八三立方「メートル」(一〇立方呎)ノ割合ヲ以テ

搭載シ得ザルトキハ其ノ不足ハ端艇鈎ヲ有スルト否トニ拘ラズ検査官吏ニ於テ適當ト認メタル端艇、疊込端艇又ハ救命筏ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ救命筏ノ空氣箱容積〇・〇八五立方メートル（三立方呎）ハ端艇容積〇・二八三立方メートル（一〇立方呎）ニ相當スルモノトシテ其ノ容積ヲ計算ス

四 第三號ニ依リ補充スベキ端艇又ハ救命筏ノ容積ハ第一號ニ依リ備フベキ端艇鈎ヲ有スル端艇ノ容積ト通算シテ總噸數五千噸以上ノ船舶ニ在リテハ第一號ニ依リ備フベキ端艇ノ容積ノ一倍四分ノ三以上、總噸數五千噸未満ノ船舶ニ在リテハ其ノ一倍二分ノ一以上ナルコトヲ要ス但シ端艇及救命筏ノ容積ヲ通算シテ當該船舶ノ旅客定員及船員ノ總員數ヲ一人ノ容積〇・二八三立方メートル（一〇立方呎）ノ割合ヲ以テ搭載シ得ルトキハ此ノ限ニ在ラズ

五 第一號ニ依リ備フベキ端艇鈎ヲ有スル端艇ノ數及容積ノ二分ノ一以上ハ船舶検査規程第五十八條ニ定ムル救命艇ト爲スコトヲ要シ其ノ他ノ端艇ハ同條ノ規定ニ對シ二分ノ一ノ浮泛力ヲ有スル救命艇又ハ二艘以内ヲ限リ普通端艇ト爲スコトヲ得

室ハ船員一人ニ付二・一五立方メートル（七五・九立方呎）以上ノ容積及一・一五平方メートル（一二・四平方呎）以上ノ甲板面積ヲ要シ船員寢室ニハ各人専用ノ寢臺ヲ備フベシ

六 第三號ニ掲グル船舶ニシテ船員ヲ含ミ百人ヲ超ユル人員ヲ搭載スルモノニハ病室ヲ上甲板以上又ハ上甲板直下ノ甲板間ニ於テ成ルベク旅客室及船員室ヨリ隔離シタル箇所ニ設ケ搭載人員二百人迄ハ四十人毎ニ一箇ノ病室用寢臺ヲ備ヘ二百人ヲ超ユルトキハ超過人員六十人毎ニ病室用寢臺一箇ヲ増備スベシ

七 病室附屬トシテ診療室ニ兼用シ得ベキ藥局、浴室、便所及前號ノ病室用寢臺數ノ四分ノ一ヲ備フル隔離病室ヲ設クベシ

八 病室ハ收容人員一人ニ付四立方メートル（一四一・三立方呎）以上ノ容積ヲ要ス

九 病室ニハ規定數ノ二分ノ一以上ノ寢臺ヲ常置スベシ
 十 病室用寢臺ハ金屬製ニシテ長一・八三メートル（六呎）以上、幅六〇センチメートル（二呎）以上ノモノトシ之ヲ据附クルニハ其ノ兩側ニ幅一メートル（三・二八呎）以上ノ通路ヲ存ズベシ又病室用寢臺ハ上下ニ重

佛蘭西國ニ航行スル日本船舶検査ニ關スル件

第四條 大正十五年一月二十九日以後ニ龍骨ヲ据附クル船舶ノ旅客室、船員室、病室等ハ左ノ各號ノ規定ニ適合スルコトヲ要ス

一 一等級及二等ノ旅客室ハ旅客一人ニ付三・五立方メートル（一二三・六立方呎）以上ノ容積ヲ要ス但シ此ノ容積ノ算定ニ付テハ寢臺其ノ他附屬品ノ占ムル容積ヲ控除スルコトヲ要セズ

二 三等旅客室ハ滿載吃水線ノ直下ノ甲板ヨリ下力ニ設クルコトヲ得ズ
 三 二港間ノ直航時間ガ通常四十八時間ヲ超ユル航海ヲ爲ス船舶ニ於テハ三等旅客室ハ旅客一人ニ付上甲板以上及上甲板直下ノ甲板間ニ在リテハ二・七五立方メートル（九七・一立方呎）以上、其ノ他ノ甲板間ニ在リテハ三立方メートル（一〇六立方呎）以上ノ容積ヲ要ス
 四 三等旅客室ニハ旅客一人ニ付長一・八三メートル（六呎）、幅五六センチメートル（一・八三呎）以上ノ寢臺一箇備フベシ
 五 船員常用室ハ便所ヲ除キ船員一人ニ付三・五立方メートル（一二三・六立方呎）以上ノ容積及一・五平方メートル（一六・一平方呎）以上ノ甲板面積ヲ要シ船員寢

ネテ据附クルコトヲ得ズ
 十一 糧食庫及飲料水槽ハ内容物ノ腐敗、汚穢其ノ他使用上不都合ヲ生ゼザル様適當ニ設備スベシ

第五條 別種検査證書ヲ受有スル船舶ガ其ノ證書ノ有效期間内ニ於テ非旅客船ヨリ旅客船ニ變更シタルトキ又ハ旅客船ノ端艇及救命設備若ハ大正十五年一月二十九日以後龍骨ヲ据附ケタル船舶ノ旅客室、船員室、病室又ハ衛生設備ニ變更ヲ生ジタルトキハ第一條ニ掲グル者ハ遲滞ナク附録書式丙ニ依リ管海官廳ニ別種臨時検査ヲ申請スベシ前項ノ規定ニ依リ申請書ニハ現ニ受有スル別種検査證書及船舶検査手帖ヲ添附スベシ

第六條 前條ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ検査官吏ヲシテ當該船舶ヲ検査セシメ本令ノ規定ニ適合セズト認ムルトキハ別種検査證書ヲ無効トシ之ヲ廢棄ス又船舶ガ非旅客船ヨリ旅客船ニ變更シタル場合ニ於テ本令ノ規定ニ適合スト認ムルトキハ別種検査證書ヲ書換交付ス

第七條 第五條ニ掲グル場合ヲ除クノ外別種検査證書ノ記載事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ第一條ニ掲グル者ハ遲滞ナク新舊事項ヲ具シ最寄管海官廳ニ其ノ書換ヲ申請スベシ

前項ノ規定ニ依ル申請書ニハ船舶検査手帖ヲ添付スベシ
第八條 第一條ニ掲グル者別種検査證書ノ滅失又ハ毀損ニ
 因リ其ノ再交付ヲ受ケムトスルトキハ事由ヲ具シ別種檢
 査證書ノ交付ヲ受ケタル管海官廳ニ之ヲ申請スベシ
 第一條ニ掲グル者別種検査證書ガ滅失シタル場合ニ於テ
 其ノ再交付ヲ申請セザルトキハ其ノ滅失ノ旨ヲ最寄管海
 官廳ニ届出ヅベシ

第九條 別種検査證書ガ無効又ハ不用トナリタルトキハ遲
 滯ナク最寄管海官廳ニ之ヲ返還スベシ

第十條 大正十五年一月二十九日前ニ龍骨ヲ据附ケタル船
 舶ニ在リテハ第一條ニ掲グル者ヨリ最寄管海官廳ニ申請
 シ其ノ事實ノ證明ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル申請書ニハ船舶検査手帖ヲ添付スベシ
 第一項ノ規定ニ依ル證明書ハ附録書式丁ニ依ル

第十一條 管海官廳ハ別種検査證書又ハ前條ノ證明書ノ交
 付ヲ受ケムトスル船舶ノ龍骨据附日ヲ認定スルニ當リ申
 請人ヲシテ必要ナル證憑ヲ提示セシムルコトアルベシ

第十二條 本令ニ依ル検査ノ申請人ハ申請ノ際別種定期檢
 査ニ在リテハ二十圓、別種臨時検査ニ在リテハ十圓ノ檢
 査手数料ヲ管海官廳ニ納付スベシ

検査手数料ハ申請人ノ都合ニ依リ申請ヲ取下ゲタル場合
 ト雖之ヲ返還セズ

第十三條 別種検査證書又ハ第十條ノ證明書ノ交付、書換
 又ハ再交付ノ申請人ハ申請ノ際證書一通ニ付四圓ノ手數
 料ヲ納付スベシ

第十四條 前二條ノ手数料ハ其ノ金額ニ相當スル収入印紙
 ヲ手数料納付書ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ
 手数料納付書ニ貼附シタル収入印紙ハ管海官廳ニ於テ消
 印ヲ爲スベキモノトス

但シ納付者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スヲ妨ゲズ
第十五條 本令ノ規定ニ依ル手数料ハ官廳又ハ公共團體ニ
 對シテハ之ヲ課セズ

附録
書式甲

別種定期検査申請書

汽(帆)船何丸

右大正十四年十二月遞信省令第八十六號ニ依リ

年 月 日 某所ニ於テ検査ノ上別種検査證交付相成度
此段申請候也

年 月 日

書式丙

別種臨時検査申請書

汽(帆)船何丸

右大正十四年十二月遞信省令第八十六號ニ依リ

年 月 日 某所ニ於テ検査相成度此段申請候也

住所

船舶所有者(船舶管理人、
船舶借入人又ハ船長)

何 某印

管海官廳宛

書式丁(竪ニ七(センチメートル)) (裏面ニ佛譯ヲ記載ス)

第 號

船舶 番號	船名
右大正十五年一月二十九日前ニ龍骨ヲ据附ケタル モノナルコトヲ證明ス	

年 月 日

管海官廳名 團

別種検査證書

船舶 番號	船名	所有者
右大正十四年十二月遞信省令第八十六號ニ依リ検査 ヲ遂ゲ同令ノ規定ニ適合スルコトヲ證明ス	龍骨据附日 大正十五年 一月二十九日(前又ハ 以後)	船舶所有者(船舶管理人、 船舶借入人又ハ船長)
備考 此ノ證書ハ旅客船ニ在リテハ其ノ端艇及救命 設備ガ大正十四年十二月遞信省令第八十六號第 三條ノ規定ニ適合スルコト又ハ大正十五年一月二 十九日以後龍骨ヲ据附ケタル船舶ニ在リテハ其 ノ病室、旅客室及船員室並此等ノ居住設備及衛 生設備ガ同令第四條ノ規定ニ適合スルコトヲ證 明スルモノトス	管海官廳名 團	住所 船舶所有者(船舶管理人、 船舶借入人又ハ船長)

佛蘭西國ニ航行スル日本船舶検査ニ關スル件

佛蘭西國船舶ノ検査ニ關スル件

(大正十四年十二月二十七日) (遞信省令第八十七號)

佛蘭西國船舶ノ検査ニ關スル件左ノ通定メ大正十五年一月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 佛蘭西國(其ノ殖民地及管治地域ヲ含ム以下同ジ)ノ船舶ノ検査ヲ行フ場合ニ於テ佛蘭西國政府ノ發給シタル航海許可書ヲ受有スル船舶ニ對シテハ大體ニ於テ耐航性ヲ有シ船員及旅客ニ危險ヲ及ボス虞ナシト認ムルトキハ該證書ノ目的トスル船體、機關及屬具ニ關スル照査ヲ行ハズ且何如ナル場合ニ於テモ佛蘭西國ノ法規ニ定ムル以外ノ條件ヲ課セズ

第二條 日本ノ港ニ於テ移住民若ハ三等旅客五十人以上又ハ移住民及三等旅客五十人以上以上ヲ搭載シテ近海航路外ノ港又ハ遞信大臣ノ定ムル地方ニ運送セムトスル佛蘭西國船舶ニ對シテハ前條ノ規定ニ拘ラズ糧食、飲料水及衛生状態ニ關スル検査ハ之ヲ行フ

朝鮮船舶安全令 (昭和十年一月) (制令 第二號)

二 總噸數二十噸未満ノ漁船
三 平水區域ノミヲ航行スル帆船

第六條 本令施行前生ジタル事項ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ船級協會ノ認定其ノ他朝鮮總督ノ定ムル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 朝鮮船舶検査令ニ依リ船舶検査證書若ハ假證書ヲ受有スル船舶又ハ之ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供スル船舶ノ検査ニ關シテハ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ル迄仍從前ノ規定ニ依ル

一 航行期間滿了ノ爲朝鮮船舶検査令ニ依リ検査ヲ受クベキトキ
二 朝鮮船舶検査令ニ依リ船舶検査證書又ハ假證書ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供シ得ザルニ至リタルトキ前項ノ船舶ニシテ本令ニ依リ滿載吃水線ノ標示又ハ無線電信ノ施設ヲ要スルモノニ付テハ同項各號ノ一ニ該當スルニ至ル迄之ガ標示又ハ施設ヲ爲サザルコトヲ得

第八條 前條ノ船舶同條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ受クベシ前項ノ検査ニ合格シタル船舶ニハ船舶検査證書ヲ交付ス但シ其ノ有効期間ハ四年以内ニ於テ管海官廳ノ定メタル

佛蘭西國船舶ノ検査ニ關スル件・朝鮮船舶安全令・朝鮮船舶安全令施行規則
ニ關スル件・朝鮮船舶安全令施行規則

第一條 朝鮮ニ於ケル船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外船舶安全法ニ依ル但シ同法第二十七條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 朝鮮ノ船舶ヲ取得スル目的ヲ以テ内地、臺灣、樺太又ハ關東州ニ於テ製造スル船舶ノ製造者ハ前條ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法第六條第一項又ハ第二項ノ製造検査ヲ受クルコトヲ得

第三條 本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第四條 朝鮮船舶検査令ハ之ヲ廢止ス

第五條 本令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法第二條第一項ノ規定ハ左ニ掲グル船舶ニハ當分ノ内之ヲ適用セズ
一 總噸數二十噸未満ノ帆船

期間トス
前項ノ有効期間ノ滿了ハ本令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法第五條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ同法第十條ニ規定スル有効期間ノ滿了ト看做ス

朝鮮船舶安全令施行ニ關スル件 (昭和十年二月) (朝鮮總督府令第十九號)

朝鮮船舶安全令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス
同令第三條第二項ノ期日ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

朝鮮船舶安全令施行規則 (昭和十年二月) (朝鮮總督府令第二十號)

改正 昭和十一年三月 朝鮮總督府令第二十七號
第一條 朝鮮船舶安全令ノ施行ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外昭和九年遞信省令第四號船舶安全法施行規則ニ依ル但シ同規則第二十六條、第二十七條、第三十二條、第三十三條、第六十一條、第六十二條及第七十五條並ニ別表第二號備考第五號及第六號ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

船舶安全法施行規則中遞信大臣トアルハ朝鮮總督、遞信省トアルハ朝鮮總督府遞信局、日本船舶トアルハ朝鮮船舶ニ依ル日本船舶、船舶安全法トアルハ朝鮮船舶安全令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法、船舶安全法施行地トアルハ朝鮮、鋼船構造規程トアルハ朝鮮鋼船構造規程、木造構造規程トアルハ朝鮮木船構造規程、船舶機關規程トアルハ朝鮮船舶機關規程、船舶設備規程トアルハ朝鮮船舶設備規程、船舶滿載吃水線規程トアルハ朝鮮船舶滿載吃水線規程、船舶區畫規程トアルハ朝鮮船舶區畫規程、漁船特殊規程トアルハ朝鮮漁船特殊規程、漁船特殊規程トアルハ朝鮮漁船特殊規程トス

船舶安全法施行規則第四條第二項中移民保護法第一條ニ該當スル者トアルハ勞動ニ從事スル目的ヲ以テ滿洲國又ハ中華民國以外ノ外國ニ渡航スル者及其ノ家族ニシテ之ト同行シ又ハ其ノ所在地ニ渡航スル者、同規則第十八條中平水區域又ハ瀬戸内(和歌山縣海草郡田倉崎ヨリ兵庫縣津名郡生石鼻ニ至ル線、兵庫縣三原郡門崎ヨリ德島縣板野郡孫崎ニ至ル線、愛媛縣西宇和郡佐田岬ヨリ大分縣北海部郡關崎ニ至ル線及福岡縣企救郡門司崎ヨリ山口縣豐浦郡甲山ニ至ル線内ノ區域)トアルハ平水區域、同規

則第七十二條中第七十五條トアルハ朝鮮船舶安全令施行規則第七條、同規則第三百三十五條第一項第三號中船舶法施行細則第四條第一項各號トアルハ朝鮮船舶令施行規則第四條第一項各號、同條第二項中同法トアルハ朝鮮船舶安全令、同規則第八十四條第二項中船舶法施行細則第五十三條第一項トアルハ朝鮮船舶令施行規則第五十四條トス

第二條

平水區域ハ湖川港内及左ニ掲グル各區域トス

第一區 平安北道鐵山郡水運島燈臺ヨリ眞方位二百九十五度ニ引キタル線並ニ同燈臺ヨリ同郡魚泳島、同郡大和島及同道定州郡外鶴島ヲ經テ平安南道安州郡汰香山ニ至ル線内

第二區 平安南道龍岡郡煙台峯ヨリ黃海道松禾郡姉妹島及同郡黑岩ヲ經テ同郡冷井崎ニ至ル線内

第三區 黃海道長淵郡長山串ヨリ同郡月乃島、同道蕪津郡麻蛤島、同郡麒麟島及同郡巡威島ヲ經テ同郡山串ニ至ル線内

第四區 黃海道蕪津郡獨巡項ヨリ同道海州郡大延平島北端、京畿道江華郡注文島、同道富川郡西晚島、同郡大舞衣島、同郡麗興島及同郡豐島ヲ經テ忠清南道瑞山郡

萬袋端ニ至ル線内

第五區 忠清南道保寧郡外長古島西端ヨリ眞方位三百五十一度ニ引キタル線及同島南端ヨリ同郡挿矢島(挿州島)ヲ經テ同郡甲岩ニ至ル線内

第六區 忠清南道舒川郡冬柏亭岬ヨリ全羅北道沃溝郡飛鷹島ヲ經テ同道扶安郡水聖堂(水城堂)ニ至ル線内

第七區 全羅南道靈光郡佛甲川口ヨリ同郡歌音島、同道務安郡在遠島、同郡慈恩島、同郡飛禽島、同郡薪島及同郡下台島ヲ經テ同道珍島郡珍島素浦江口ニ至ル線並ニ同島東端ヨリ眞方位七十一度ニ引キタル線内

第八區 全羅南道海南郡南角ヨリ同道莞島郡黒日島、同郡莞島、同郡生日島(山日島)、同郡平日島及同道高興郡居金島ヲ經テ同郡望芝角ニ至ル線内

第九區 全羅南道高興郡外羅老島西端ヨリ眞方位三百三十度ニ引キタル線、同島東部北端ヨリ同道麗水郡小横干島ヲ經テ同郡突山島南端ニ至ル線、同島大端ヨリ慶尙南道南海島南西突出部西端ニ至ル線、同島嶺頂末ヨリ統營郡下島、同郡楸島及同郡比珍島ヲ經テ同郡巨濟島望山角ニ至ル線、同島列天端ヨリ同道昌原郡加德島天秀殆末ニ至ル線並ニ同島鷹峰山ヨリ同道東萊郡鼠島

朝鮮船舶安全令施行規則

及同道釜山府牧ノ島ヲ經テ同府龜頭末ニ至ル線内

第十區 慶尙南道蔚山郡島田末ヨリ同郡瑟島ニ至ル線内

第十一區 慶尙北道迎日郡成尾ヨリ同郡汝南岬ニ至ル線内

第十二區 江原道通川郡鶴龍端ヨリ咸鏡南道德源郡麗島ヲ經テ同道永興郡虎島大江串(南角)ニ至ル線内

第十三區 咸鏡南道定平郡廣浦江口ヨリ同道咸州郡外洋島端ニ至ル線内

第十四區 咸鏡南道北青郡燧燧台址ヨリ同郡馬養島ヲ經テ同郡松島岬ニ至ル線内

第十五區 咸鏡北道城津郡松五郎端ヨリ同郡楡津端ニ至ル線内

第十六區 咸鏡北道清津府高稜山端ヨリ眞方位二百六十三度ニ引キタル線内

第十七區 咸鏡北道慶興郡松木端ヨリ同郡大草島ヲ經テ同郡語於端ニ至ル線内

第十八區 咸鏡北道慶興郡郭端ヨリ同郡赤島ヲ經テ同郡烏浦端ニ至ル線内

第三條

沿海區域ハ左ニ掲グル各區域トス

一 朝鮮本土、濟州島及鬱陵島ノ各海岸ヨリ二十海里以

内ノ區域

- 二 平安北道龍川郡鴨綠江口ヨリ同郡馬鞍島ヲ經テ黃海道長淵郡長山串ニ至ル線内
- 三 黃海道靈津郡登山串ヨリ忠清南道瑞山郡西格列島及全羅北道沃溝郡於青島ヲ經テ同道扶安郡水聖堂ニ至ル線内
- 四 全羅南道務安郡臨水半島頭堂ヨリ同郡荏子島、同郡大老鹿島、同郡扶南島、同郡紅島、同郡小黑山島、同道濟州島及同道麗水郡巨文島ヲ經テ同道高興郡高興半島(興陽半島)南端ニ至ル線内
- 五 全羅南道麗水郡古突山半島南東端ヨリ長崎縣北松浦郡生月島北端ニ至ル線、福岡縣企救郡門司崎ヨリ山口縣豐浦郡甲山ニ至ル線及山口縣豐浦郡觀音崎ヨリ慶尙南道蔚山郡蔚崎ニ至ル線内
- 六 江原道高城郡水源端ヨリ咸鏡北道城津郡稱津端ニ至ル線内

第四條

管海官廳總噸數百噸未滿ノ旅客船ニ付沿海區域ノ航行區域ヲ定ムル場合ニハ毎年十二月一日ヨリ翌年二月末日迄左ニ掲グル區間ヲ包含セシムルコトヲ得ズ

- 一 全羅南道濟州島西端ヨリ同島南岸ヲ經テ同島城山頭

ニ至ル區間

- 二 江原道襄陽郡南涯端ヨリ同道高城郡水源端ニ至ル區間
- 第五條 朝鮮ト朝鮮外ノ各港間又ハ朝鮮外ノ各港間若ハ湖川港内ノミヲ航行スル船舶ノ航行區域ハ管海官廳ニ於テ第二條、第三條又ハ第一條ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法施行規則(以下單ニ船舶安全法施行規則ト稱ス)第二十八條ノ規定ニ準ジ之ヲ定ムルコトヲ得
- 第六條 内地、臺灣、樺太若ハ關東州ノ船籍又ハ外國ノ國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ朝鮮ニ於テ製造セラルル船舶ニ付テハ製造検査ヲ行ハズ
- 前項ノ船舶ガ其ノ製造中朝鮮ノ船籍ヲ取得スル目的ヲ以テ製造セラルルモノト爲リタルトキハ管海官廳ハ當該船舶ニ付製造検査ヲ行ハザルコトアルベシ
- 第七條 管海官廳ハ船舶検査執行地外ニ於テ製造セラルル船舶ニ付テハ製造検査ヲ行ハザルコトヲ得
- 第八條 船舶検査執行地ニ於テハ急速ノ検査ヲ必要トスル場合ニ限り休暇日ト雖モ検査ヲ行フ
- 管海官廳ハ事務ノ都合ニ依リ船舶検査執行地外ニ於テモ臨時ニ休暇日ニ検査ヲ行フコトアルベシ

第九條

朝鮮ノ船籍ヲ取得スル目的ヲ以テ内地、臺灣、樺太又ハ關東州ニ於テ製造スル船舶ノ製造検査ハ其ノ船舶ニ付定メントスル船籍港ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ

第十條

管海官廳已ムコトヲ得ズト認ムルトキハ船舶検査ヲ他ノ管海官廳ニ囑託スルコトアルベシ

附 則

第十一條

本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條

昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ本令施行ノ際現ニ製造中ノ旅客船ニシテ國際航海ニ從事スベキモノノ際現ニ製造中ノ龍骨ヲ据附ケ本令施行ノ際現ニ製造中ノ船舶ニシテ國際航海ニ從事スベキモノニ付テハ其ノ構造、設備及滿載吃水線ニ關シ本令ニ依リ検査ヲ行フ

第十三條

朝鮮船舶安全令第八條第一項ノ規定ニ依ル検査ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 朝鮮船舶検査令ニ依リ定メタル特別検査ノ有効期間ガ滿了シタル船舶及同令ニ依リ特別検査ヲ行ハザル船舶

朝鮮船舶安全令施行規則

船舶ニシテ其ノ航行期間ガ滿了シタルモノノ受クベキ検査ニ付テハ定期検査ニ關スル規定ヲ準用ス

- 二 前號ノ有効期間又ハ航行期間ガ滿了セザル船舶ト雖モ申請ニ依リ管海官廳ニ於テ行フ検査ニ付テハ定期検査ニ關スル規定ヲ準用ス

三 前二號ニ該當セザル船舶ノ受クベキ検査ニ付テハ中間検査ニ關スル規定ヲ準用ス但シ管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第一號ニ依ルコトヲ得

第十四條

國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ朝鮮船舶安全令第七條第一項ニ掲グルモノハ同令ニ依リ検査ヲ受クル迄船舶安全法施行規則第五百十六條ノ規定ニ拘ラズ救命艇手適任證書ヲ受有スル船員ヲ乗組マシメザルコトヲ得

第十五條

朝鮮船舶検査令ニ依リ定メラレタル船舶ノ資格ガ船舶安全法施行規則第九十二條ノ表ニ掲グル船舶ノ長さ又ハ速力ニ依リ變更ヲ要スル場合ト雖モ當該船舶ノ用途其ノ他ノ事情ニ依リ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムルトキハ當該船舶ノ現狀ニ變更ナキ限り仍從前ノ資格ヲ存續セシムルコトヲ得

第十六條

鋼船ノ船體ニ關シ施設スベキ事項及其ノ標準ニ付テハ船舶安全法施行規則第十條ノ規定ニ拘ラズ當分ノ内仍朝鮮造船規程ニ依ル

海上ニ於ケル人命ノ安全 ノ爲ノ國際條約及國際滿 載吃水線條約ニ依ル證書

二關スル件(昭和十年九月 朝鮮總督府令第百八號)

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約及國際滿載吃水線條約ニ依ル證書ニ關シテハ昭和十年遞信省令第二十二號ニ依ル但シ同令中船舶安全法トアルハ朝鮮船舶安全令ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法、船舶安全法施行規則トアルハ朝鮮船舶安全令施行規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法施行規則、船舶設備規程トアルハ朝鮮船舶設備規程、船舶區畫規程トアルハ朝鮮船舶區畫規程内地トアルハ朝鮮トス

附 則

本令ハ昭和十年九月十一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行後直ニ本令ニ依リ難キ船舶ハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ指定スル時期迄本令ノ安全證書、安全無線電信證書、免除證書又ハ國際滿載吃水線證書ヲ受有セザルコトヲ得

域ヲ有スルモノ

二 甲種國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ搭載スル爲其ノ構造又ハ設備ニ付船舶區畫規程又ハ船舶設備規程ノ定ムル所ニ依リ其ノ一般規定ノ適用ヲ緩和セラレタルモノ

三 甲種國際航海ニ從事スル總噸數千六百噸以上ノ船舶又ハ總噸數千六百噸未滿ノ旅客船ニシテ船舶安全法施行規則第二十二條又ハ第二十三條ノ規定ニ依リ無線電信ヲ施設スルコトヲ免除セラレタルモノ

第五條 安全證書又ハ安全無線電信證書ヲ受有スル船舶臨時ニ第四條第二號ニ掲グル船舶ニ該當スルトキハ免除證書ヲ併セ受有スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ免除證書ヲ受有スル場合ニ於テハ當該船舶ガ第四條第二號ニ掲グル船舶ニ該當スル期間内安全證書又ハ安全無線電信證書ノ效力ヲ停止ス

第六條 國際滿載吃水線條約ニ加盟シタル一國ト他ノ國トノ間ノ航海(以下乙種國際航海ト稱ス)ニ從事スル總噸數百五十噸以上ノ船舶ニシテ船舶安全法第三條ノ規定ニ依リ滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要スルモノハ最寄管海官廳ニ於テ國際滿載吃水線證書(第四號書式)ノ交付ヲ受ク

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約及國際滿載吃水線條約ニ依ル證書ニ關スル件

參照

昭和十年遞信省令第二十二號

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約及國際滿載吃水線條約ニ依ル證書ニ關スル件

第一條 國際航海ニ從事スル船舶ハ内地各港間ヲ航行スル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依リ安全證書、安全無線電信證書、免除證書又ハ國際滿載吃水線證書ヲ受有スルコトヲ要ス

第二條 第四條各號ニ掲グル船舶ヲ除クノ外海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約ニ加盟シタル一國ト他ノ國トノ間ノ航海(以下甲種國際航海ト稱ス)ニ從事スル旅客船ハ最寄管海官廳ニ於テ安全證書(第一號書式)ノ交付ヲ受クベシ

第三條 第四條第三號ニ掲グル船舶ヲ除クノ外甲種國際航海ニ從事スル總噸數千六百噸以上ノ船舶ニシテ旅客船ニ非ザルモノハ最寄管海官廳ニ於テ安全無線電信證書(第二號書式)ノ交付ヲ受クベシ

第四條 左ノ各號ニ掲グル船舶ハ最寄管海官廳ニ於テ免除證書(第三號書式)ノ交付ヲ受クベシ

一 甲種國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ沿海ノ航行區

ベシ

第七條 第二條乃至第四條又ハ第六條ノ證明書ハ船舶検査證書ヲ受有スル船舶ニ非ザレバ其ノ交付ヲ受クルコトヲ得ズ

第八條 第二條乃至第四條ノ證書ノ有効期間ハ一年以内ニ於テ管海官廳之ヲ定ム

第九條 安全證書、安全無線電信證書又ハ免除證書ノ有効期間滿了ノ際當該船舶ガ外國ニ在ルトキハ最寄帝國領事官ニ當該證書ノ有効期間ヲ延長ヲ申請スルコトヲ得
前項ノ申請アリタルトキハ帝國領事官ハ當該船舶ニ付其ノ航海ノ適否ヲ調査シ差支ナシト認ムルトキハ當該船舶ガ内地ニ歸航スル爲必要ナル場合ニ限り五月ヲ超エザル期間内ニ於テ有効期間ヲ延長スルコトヲ得

第十條 第六條ノ證書ノ有効期間ハ四年五月以内ニ於テ管海官廳之ヲ定ム

第十一條 管海官廳ハ國際滿載吃水線證書ヲ受有スル船舶ニシテ當該證書ノ有効期間滿了ノ際滿載吃水線ヲ變更ス

ルノ必要ナシト認ムルモノニ付テハ申請ニ依リ其ノ有効期間ヲ更新スルコトヲ得

第十二條 海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約ニ加盟シタル外國ニ於テ同條約ニ依ル當該國ノ安全證書又ハ安全無線電信證書ノ交付ヲ受ケントスルトキハ船長ハ最寄帝國領事官ニ事由ヲ具シタル申請書ヲ提出スベシ
國際滿載吃水線條約ニ加盟シタル外國ニ於テ同條約ニ依ル當該國ノ國際滿載吃水線證書ノ交付ヲ受ケントスルトキ亦前項ニ同ジ

第二條、第三條又ハ第六條ノ規定ハ前二項ノ規定ニ依リ當該證書ヲ受有スル船舶ニハ之ヲ適用セズ

第十三條 左ニ掲グル場合ニ於テハ遲滞ナク安全證書、安全無線電信證書、免除證書又ハ國際滿載吃水線證書ヲ最寄管海官廳ニ返還スベシ

- 一 當該證書ノ有効期間満了シタルトキ
- 二 安全證書、安全無線電信證書、免除證書又ハ國際滿載吃水線證書ヲ受有スル船舶ガ當該證書ヲ受有スルトキト要セザルニ至リタルトキ但シ第五條ノ規定ニ依リ安全證書又ハ安全無線電信證書ト免除證書ト併セ受有スル場合ヲ除ク

第十九條 救命設備輕減認可書ノ交付申請書ニハ救命設備ヲ減少セントスル特定ノ航海又ハ其ノ區間、期間、搭載人員並ニ減少セントスル救命設備ノ種類及數量ヲ附記シ且船舶検査證書又ハ其ノ寫、特殊船舶検査證書又ハ其ノ寫、安全證書及船舶検査手帖ヲ添附スベシ

第二十條 船舶安全法施行規則第八條、第二百二十五條第一項、第二百二十六條、第三百十條、第三百三十一條及第四百十條ノ規定ハ安全證書、安全無線電信證書、免除證書、國際滿載吃水線證書及救命設備輕減認可書ニ之ヲ準用ス

第二十一條 安全證書、安全無線電信證書、免除證書、國際滿載吃水線證書又ハ救命設備輕減認可書ノ交付、再交付、書換又ハ國際滿載吃水線證書ノ有効期間ノ更新ヲ受ケントスルトキハ左ノ手数料ヲ納付スベシ

- 一 安全證書、安全無線電信證書、免除證書又ハ國際滿載吃水線證書 五 圓
- 二 救命設備輕減認可書 三 圓
- 三 國際滿載吃水線證書ノ有効期間ノ更新 一 圓

第二十二條 船舶安全法施行規則第八十三條第一項及第一百八十五條ノ規定ハ前條ノ手数料ニ之ヲ準用ス
手数料納付書ニハ船舶番號、船種、船名、船舶所有者名海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約及國際滿載吃水線條約ニ依ル證書ニ關スル件

第十四條 甲種國際航海ニ従事スル船舶ガ特定ノ航海ニ於テ其ノ搭載スル人員ニ相當スル數量迄救命設備ヲ減少セントスルトキハ事由ヲ具シ救命設備輕減認可書（第五號書式）ノ交付ヲ最寄管海官廳又ハ帝國領事官ニ申請スベシ

第十五條 前條ノ認可書ハ之ヲ安全證書ニ添附シ置キ船舶ガ内地ニ到達シタルトキハ遲滞ナク最寄管海官廳ニ返還スベシ

第十六條 第二條ノ證書又ハ第三條ノ證書ノ交付申請書ニハ無線電信ノ通信員及聽守員ノ實在數ヲ附記シ船舶検査證書又ハ其ノ寫及無線電信檢定證書ノ寫又ハ無線電信檢定證書ノ寫ヲ添附スベシ

第十七條 第四條ノ證書ノ交付申請書ニハ第四條第一號ニ掲グル船舶ニ付テハ船舶検査證書又ハ其ノ寫ヲ、同條第二號ニ掲グル船舶ニ付テハ船舶検査證書又ハ其ノ寫及特殊船舶検査證書又ハ其ノ寫ヲ、同條第三號ニ掲グル船舶ニ付テハ船舶検査證書又ハ其ノ寫及無線電信ノ施設ヲ免除セラレタルコトヲ證スル書類ヲ添附スベシ

第十八條 第六條ノ證書ノ交付申請書ニハ船舶検査證書又ハ其ノ寫ヲ添附スベシ

附 則

及安全證書、安全無線電信證書、免除證書、國際滿載吃水線證書又ハ救命設備輕減認可書ノ別ヲ記載シ國際滿載吃水線證書ノ有効期間ノ更新ニ付テハ其ノ旨ヲ附記スベシ

本令ハ昭和十年八月十一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行後直ニ本令ニ依リ難キ船舶ハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ指定スル時期迄第一條ノ證書ヲ受有セザルコトヲ得

第二號書式



安全無線電信證書

日本帝國

千九百廿九年海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約ノ規定ニ依リ發行ス

船名	船舶番號	船籍港	總噸數

日本帝國政府ハ本船ガ無線電信ニ關シ前記國際條約ノ規定ニ適合セルコトヲ證明ス

	前記條約第 條ノ規定	實際ノ施設
聽守時間
承認自動緊急機備付ノ有無
別箇ノ補助設備ノ有無
通信員ノ最小數
追加通信員又ハ聽守員

本證書ハ日本帝國政府ノ權限ノ下ニ之ヲ發行ス

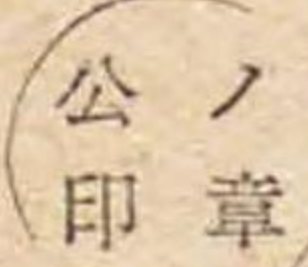
本證書ハ 年 月 日迄效力ヲ有ス

年 月 日ニ於テ發行ス

管海官廳印

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約及國際滿載吃水線條約ニ依ル證

第三號書式



免除證書

日本帝國

千九百廿九年海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約ノ規定ニ依リ發行ス

船名	船舶番號	船籍港	總噸數

日本帝國政府ハ前記國際條約第 條ニ依リ付與セラレタル權限ニ基キ本船ニ對シニ至ル航海ニ於テ

前記條約ノ規定ノ適用ヲ免除シタ

ルコトヲ證明ス

本證書ハ日本帝國政府ノ權限ノ下ニ之ヲ發行ス

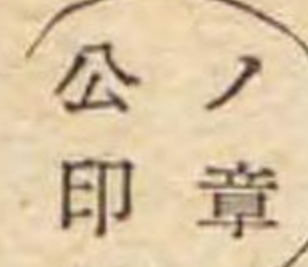
本證書ハ 年 月 日迄效力ヲ有ス

年 月 日ニ於テ發行ス

管海官廳印

八五三

第一號書式



安全證書

日本帝國

國際航海ニ對スルモノ
短國際航海ニ對スルモノ

千九百廿九年海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約ノ規定ニ依リ發行ス

船名	船舶番號	船籍港	總噸數

日本帝國政府ハ下ノ事項ヲ證明ス

一 本船ガ前記國際條約ノ規定ニ從ヒ正當ニ檢査セラレタルコト

二 檢査ノ結果本船ガ下ノ事項ニ關シ前記條約ノ規定ニ適合セルコト

(一) 船體、主及補助ノ汽罐並ニ機關

(二) 水密區畫ノ配置及其ノ細目

(三) 下ノ區畫滿載吃水線

指定シ且船舶ノ長サノ中央ニ於テ船側ニ標示シタル區畫滿載吃水線 (條約第五條)	乾舷	實際旅客ヲ搭載スル場所ガ他ノ用途ニ供用スルコトアルベキ下ノ場所ヲ含ム場合ニ適用ス
C ₁
C ₂
C ₃

(四) 全人員(船員及旅客)

端艇	人分	端艇、救命筏其、他、救命設備即チ
救命筏	隻	筒
救命浮器	筒	人分
救命浮環	筒	人分
救命胴衣	筒	人分
證明書ヲ有スル救命艇手	人	

(五) 無線電信設備

	前記條約第 條ノ規定	實際ノ施設
聽守時間
承認自動緊急機備付ノ有無
別箇ノ補助設備ノ有無
通信員ノ最小數
追加通信員又ハ聽守員
方位測定機備附ノ有無

三 本船ガ他ノ一切ノ事項ニ付テモ前記條約ノ規定中本船ニ適用アル規定ニ適合セルコト

本證書ハ日本帝國政府ノ權限ノ下ニ之ヲ發行ス

本證書ハ 年 月 日迄效力ヲ有ス

年 月 日ニ於テ發行ス

管海官廳印

海
事
法
令
集

八五二

第五號書式

救命設備輕減認可書

船名	船舶番號	船籍港	總噸數

本船ハヨリニ至ル
航海ニ於テ其ノ搭載スル船員及旅客ノ總數ガ人ヲ超エザル限リ
救命設備ヲ次表ニ掲グル數量迄輕減スルコトヲ認可ス

端	命	艇	隻	人分
救	命	筏	箇	人分
救	命	浮	箇	人分
救	命	器	箇	人分
證	命	環	箇	人分
明	命	衣	箇	人分
書	命	手	人	人分

本船ハ上記ノ輕減ニ依リ千九百二十九年海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ
國際條約ノ規定ニ違反スルモノニ非ズ
本認可書ハ救命設備ニ關スル限リ船舶検査證書及安全證書ニ代リテ效力
ヲ有ス

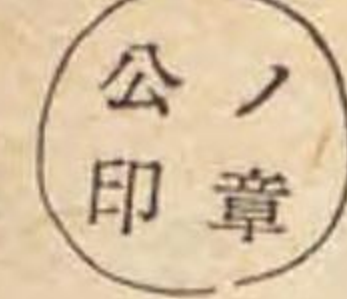
本認可書ハ日本帝國政府ノ權限ノ下ニ之ヲ發行ス
年 月 日ヨリ 年 月 日迄效力ヲ有ス
管海官廳印

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約及國際滿載吃水線條約ニ依ル證
書ニ關スル件・船舶検査執行地指定ノ件(朝鮮)

船舶検査執行地指定ノ件
(昭和十年二月號)
朝鮮總督府告示第九十四號
朝鮮船舶安全令施行規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全
全法施行規則第七十三條ノ船舶検査執行地ヲ昭和十年三月
一日ヨリ左ノ通定ム
大正三年朝鮮總督府告示第九十一號及大正五年朝鮮總督
府告示第三百一十一號ハ之ヲ廢止ス

検査執行地
平安北道新義州府
同道龍川郡龍川面
平安南道鎮南浦府
京畿道仁川府
同道京城府
全羅北道群山府(昭和十二年七月號追加)
全羅南道木浦府
慶尙南道釜山府
咸鏡南道元山府
咸鏡北道清津府
咸鏡北道羅津府(昭和十二年七月號追加)

第四號書式

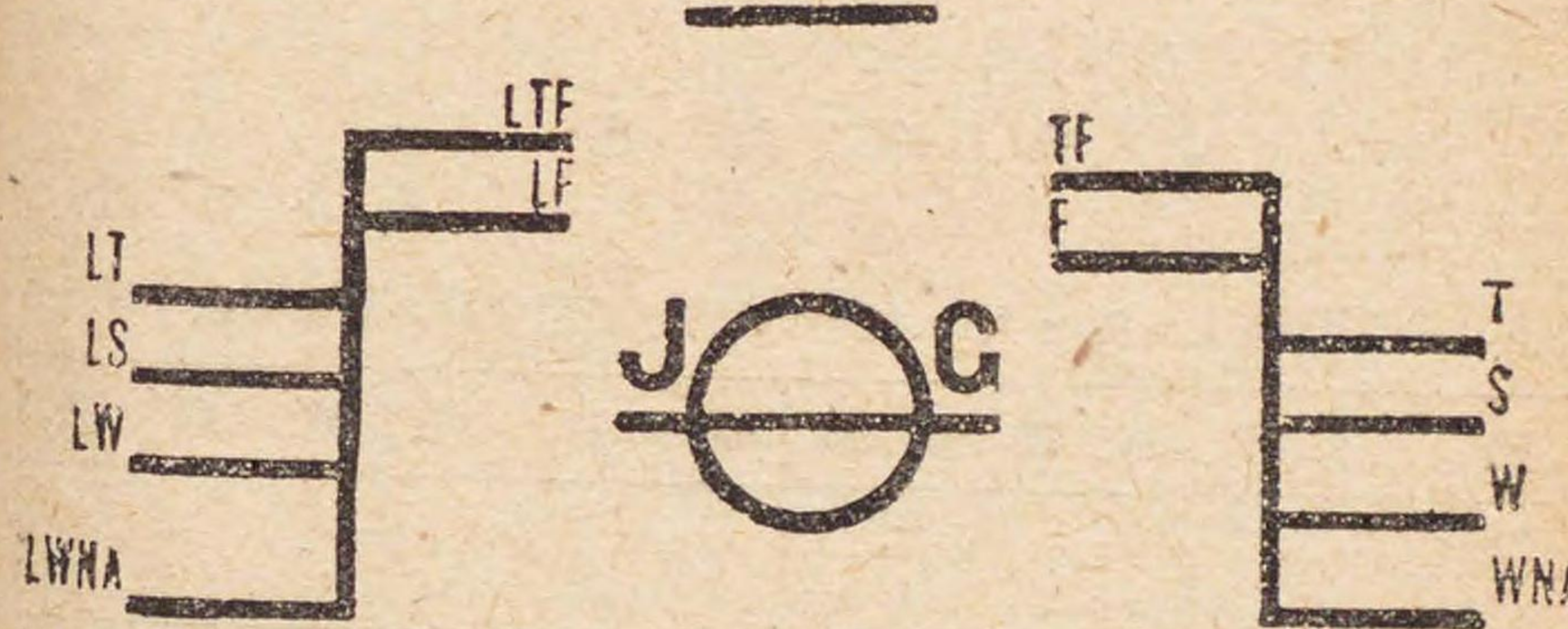


國際滿載吃水線證書

千九百三十年ノ國際滿載吃水線條約ノ規定ニ依リ日本帝國政府ノ權限ノ
下ニ發行ス

船名 船舶番號
船籍港
總噸數
甲板線ヨリノ乾舷
熱帶期 (T) (S)ノ上方
夏期 (S) 圓標ノ中心ヲ通過スル線ノ上緣
冬期 (W) (S)ノ下方
冬期北大西洋 (WNA) (S)ノ下方
上記乾舷ニ付テノ淡水ニ對スル餘裕

木材滿載吃水線
甲板線ヨリノ乾舷
熱帶木材 (LT) (S)ノ上方
夏期木材 (LS) (S)ノ上方
冬期木材 (LW) (S)ノ下方
冬期北大西洋木材 (LWNA) (S)ノ下方
上記乾舷ニ付テノ淡水ニ對スル餘裕
上記乾舷ヲ測ル基準タル甲板線ノ上緣ハ舷ニ於テ
上面ノ上方 ミリメートルトス



本證書ハ前記條約ニ從ヒ本船ガ検査セラレ且前記ノ乾舷及滿載吃水線ガ
指定セラレタルコトヲ證明ス
本證書ハ 年 月 日迄效力ヲ有ス
年 月 日ニ於テ發行ス
管海官廳印

(國際滿載吃水線證書裏面)
條約ノ規定ガ本船ニ依リ完全ニ遵守セラレタルヲ以テ本證書ハ 年
月 日迄之ヲ更新ス
年 月 日
場 所
管海官廳印

近海區域外ニシテ臨時旅

客ヲ搭載シ得ル區域指定

ノ件 (昭和十年二月) (朝鮮總督府告示第九十五號)

朝鮮船舶安全令施行規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法施行規則第五條ノ近海區域外ニシテ臨時旅客ヲ搭載シ得ル區域ハ昭和十年三月一日ヨリ北緯五十度以北、西經百六十度以西、北緯六十五度以南ノ區域ト定ム

朝鮮外國船舶安全規則

(昭和十年二月) (朝鮮總督府令第二十一號)

改正 昭和十年十二月 朝鮮總督府令第一五二號

第一條 朝鮮船舶安全令第一條ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法 (以下單ニ船舶安全法ト稱ス) 第一條乃至第五條、第七條第一項、第八條、第九條第一項第二項第四項、第十條乃至第十二條、第十六條乃至第二十一條、第二十三條乃至第二十六條及第二十九條ノ規定ハ外國船舶

(朝鮮船舶令ニ依ル日本船舶ニ非ザル船舶以下之ニ同ジ)ニシテ同法第十四條各號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス
第二條 船舶安全法第十三條及第二十二條ノ規定ハ外國船舶ニシテ同法第十四條第一號又ハ第二號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス
第三條 左ニ掲グル規定ヲ除クノ外朝鮮船舶安全令施行規則ハ外國船舶ニシテ船舶安全法第十四條各號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス
一 製造検査ニ關スル規定
二 船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル船舶用機關ノ検査ニ關スル規定
三 朝鮮船舶安全令施行規則第一條ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法施行規則 (以下單ニ船舶安全法施行規則ト稱ス) 第一百五十五條乃至第一百七十六條
四 外國船舶ニシテ船舶安全法第十四條第三號ニ掲グルモノニ付テハ船舶安全法施行規則第十五章ノ規定
第四條 外國船舶ニシテ船舶安全法第十四條第三號ニ掲グルモノニ付テハ検査ハ左ノ各號ニ依ル
一 海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約ニ加盟シタル國ニ屬スル船舶ニシテ同條約ノ規定ニ依ル安全證書

安全無線電信證書又ハ免除證書ヲ受有スルモノニ付テハ當該證書ヲ査閱シ管海官廳ニ於テ必要アリト認ムル

トキハ當該船舶ノ現狀ガ證書ニ記載シタル條件ニ違反スルコトナキヤテ確ムルニ必要ナル検査ヲ行フ

二 國際滿載吃水線條約ニ加盟シタル國ニ屬スル船舶ニシテ同條約ノ規定ニ依ル國際滿載吃水線證書ヲ受有スルモノニ付テハ當該證書ヲ査閱シ管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ左ノ事項ヲ確ムルニ必要ナル検査ヲ行フ
(イ) 滿載吃水線ヲ超エテ載荷シ居ラザルヤ
(ロ) 滿載吃水線ガ證書ニ記載シタル位置ニ標示セラレ居ルヤ

(ハ) 乾舷ノ算定ニ影響アル船體及船樓ノ構造並ニ開口ノ保護、保護欄干、放水口及船員室區域ノ通行ノ爲ノ裝置及設備ガ人命ノ安全ヲ保持スルニ不適當ナル程度迄變更ヲ受ケ居ラザルヤ

三 船舶安全法第十五條第一項ノ規定ニ依リ同法ニ依リ交付シタル證書ト同一ノ效力ヲ有スル證書ヲ受有スル船舶ニ付テハ別ニ定ムル場合ヲ除クノ外當該證書ヲ査閱シ管海官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ船舶ノ現

近海區域外ニシテ臨時旅客ヲ搭載シ得ル區域指定ノ件 (朝鮮)・朝鮮外國船舶安全規則

狀ガ證書ニ記載シタル條件ニ違反スルコトナキヤテ確ムルニ必要ナル検査ヲ行フ

四 前各號ニ該當セサル船舶ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依リ朝鮮船舶令ニ依ル日本船舶ニ付テハ検査ニ準ジ検査ヲ行フ第一號又ハ第二號ニ掲グル船舶ノ海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約又ハ國際滿載吃水線條約ノ適用ナキ事項ニ付亦同ジ

第五條 外國船舶ノ積量ハ左ノ各號ニ依ル

一 船舶ガ其ノ所屬地ノ當該官廳ノ交付シタル船舶國籍證書又ハ船舶検査證書ヲ受有スルトキハ之ニ記載シタル積量ニ依ル

二 船舶ガ前號ノ證書ヲ受有セザルトキハ朝鮮船舶積量測定令ニ依リ算定シタル積量ニ依ル

管海官廳ハ帝國政府トノ間ニ船舶積量ニ關スル互認協定ナキ國ニ屬スル船舶ニ付テハ前項第一號ノ規定ニ拘ラズ朝鮮船舶積量測定令ニ依リ之ヲ測定スルコトヲ得

附 則

第六條 本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七條 朝鮮船舶安全法第五條乃至第八條ノ規定ハ外國船舶ニシテ船舶安全法第十四條第一號又ハ第二號ニ掲グル

モノニ、同令第五條ノ規定ハ外國船舶ニシテ同法第十四條第三號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

第八條 朝鮮船舶安全令施行規則第十三條及第十五條ノ規定ハ外國船舶ニシテ船舶安全法第十四條第一號又ハ第二號ニ掲グルモノニ、同規則第十六條ノ規定ハ外國船舶ニシテ船舶安全法第十四條各號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

第九條 昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ國際航海ニ從事スル外國船舶タル旅客船又ハ昭和七年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ國際航海ニ從事スル外國船舶ニシテ船舶安全法第十四條第三號ニ掲グルモノニ付テハ其ノ構造、設備及滿載吃水線ニ關シ、昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ國際航海ニ從事スル外國船舶ニシテ同條各號ニ掲グルモノニ付テハ無線電信施設ニ關シ本令施行後三月ヲ限り本令ニ依ラザルコトヲ得

第十條 前條ノ船舶ヲ除クノ外國船舶ニシテ船舶安全法第十四條第三號ニ掲グルモノニ付テハ其ノ構造、設備、滿載吃水線及無線電信施設ニ關シ本令施行後一年ヲ限り本令ニ依ラザルコトヲ得

附 則 (昭和十年十二月二十四日)
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮船舶設備規程

(昭和十年二月)
(朝鮮總督府令第二十二號)

第一條 船舶ノ設備及屬具ニ關シテハ昭和九年遞信省令第六號船舶設備規程ニ依ル但シ同規程中船舶安全法施行地トアルハ朝鮮、鋼船構造規程トアルハ朝鮮鋼船構造規程、船燈試驗規程トアルハ朝鮮船用品試驗規程ニ於テ依ルコトヲ定メタル昭和九年遞信省令第十九號船燈試驗規程、船舶滿載吃水線規程トアルハ朝鮮船舶滿載吃水線規程、電氣工作物規程トアルハ朝鮮電氣工作物規程トス

附 則

第二條 本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル端艇及端艇鈎ハ本令ノ規定ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

前項ノ端艇ニ付テハ從前ノ規定ニ依リ算定シタル容積ヲ立方メートルニ換算シタルモノ及從前ノ規定ニ依リ算定シタル定員ヲ以テ第一條ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶

設備規程(以下單ニ船舶設備規程ト稱ス)第五條、第八條及第九條ノ規定ニ依ル容積及定員ト看做ス

第四條 昭和六年六月三十日以前ニ龍骨ヲ据附ケタル國際航海ニ從事スル旅客船ニ付テハ管海官廳ニ於テ發動機附救命艇及救命索發射器ノ備附、端艇及救命筏ノ附屬品ノ備附、端艇ノ積附及揚卸裝置、乘艇裝置並ニ消防設備ニ關シ本令ヲ適用スルコト困難ナリト認ムルトキハ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第五條 本令施行ノ際現ニ沿海以下ノ航路定限ヲ有スル旅客船ニ備フル救命艇ニ非ザル端艇ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ救命艇ニ代用セシムルコトヲ得

第六條 近海以上ノ航行區域ヲ有スル國際航海ニ從事スル旅客船ヲ除クノ外本令施行ノ際現ニ存スル船舶ニ付管海官廳ニ於テ救命設備ニ關シ本令ヲ適用スルコト困難ナリト認ムルトキハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ本令施行後二年、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ四年内ニ

朝鮮外國船舶安全規則・朝鮮船舶設備規程

於テ行フ最後ノ中間検査又ハ定期検査ノ時期迄救命設備ニ關シ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

第七條 本令施行ノ際現ニ存スル船舶ノ旅客室ニ付テハ左ニ掲グル事項ニ關シ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

- 一 室ノ高さ、通路及梯子ノ幅並ニ客席ト甲板又ハ上層客席トノ間ノ高さ
- 二 移民搭載場所トシテ使用スル旅客室ニ付テハ雜居客室ノ通風裝置及病室ノ設備
- 三 旅客定員ノ算定ニ用フル單位容積及單位面積但シ旅客室ノ現狀其ノ他旅客定員ノ算定ニ關スル條件ニ變更ナキ場合ニ限ル

第八條 前條第一號ノ規定ハ船員室及船員又ハ旅客ニ非ザルモノノ居室ニ之ヲ準用ス

第九條 本令施行ノ際現ニ存スル旅客船ノ舷牆又ハ柵欄ノ高さニ付テハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第十條 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル錨、錨鎖及索ノ數、重量、徑又ハ長さニ付テハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得
本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル錨、錨鎖、鋼索、操舵鎖又ハ操舵鋼索ニ付テハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ船舶設備規程第二百二十八條又ハ第三百三十七條第二

項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第十一條 本令施行後一年內ニ新ニ船舶ニ備フル救命筏、救命浮器、救命索發射器、信號紅焰、火災警報裝置、防毒面、安全燈、移動式泡消火器、攜帶用液體消火器及油信號燈ハ本令ノ規定ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ適當ト認ムルモノニ限り之ヲ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

第十二條 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル救命筏、救命浮器、救命索發射器、信號紅焰、火災警報裝置、防毒面、安全燈、移動式泡消火器、攜帶用泡消火器、攜帶用液體消火器及油信號燈ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限り本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

第十三條 船舶設備規程第四百六條ノ規定ニ依ル無線方位測定機ハ本令施行後二年ヲ限り管海官廳ニ於テ其ノ備附ヲ猶豫スルコトヲ得

第十四條 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル電氣設備ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

朝鮮船舶滿載吃水線規程

(昭和十年二月) 朝鮮總督府令第二十三號

第一條 船舶ニ標示スベキ滿載吃水線ニ關シテハ昭和九年遞信省令第七號船舶滿載吃水線規程ニ依ル但シ同規程中艙口覆布試驗規程トアルハ朝鮮船用品試驗規程ニ於テ依ルコトヲ定メタル昭和八年遞信省令第二十七號艙口覆布試驗規程、舷窓試驗規程トアルハ朝鮮船用品試驗規程ニ於テ依ルコトヲ定メタル大正十一年遞信省令第六號舷窓試驗規程トス

附 則

第二條 本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條 昭和七年六月三十日以前ニ龍骨ヲ据附ケタル船舶ノ滿載吃水線ノ指定ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

- 一 開口ノ保護、保護欄干、放水口及船員室區域ヘノ通路ニ關スル構造及設備ニ付第一條ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶滿載吃水線規程(以下單ニ船舶滿載吃水線規程ト稱ス)第六編ノ規定ニ適合セザル船舶ト雖モ實質上該規定ニ略適合シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ム

令ニ依ル夏期淡水滿載吃水線ノ位置トス

朝鮮船舶區畫規程

(昭和十年二月) 朝鮮總督府令第二十四號

船舶ノ區畫及區畫滿載吃水線ノ標示ニ關シテハ昭和九年遞信省令第八號船舶區畫規程ニ依ル但シ同規程中遞信大臣トアルハ朝鮮總督、船舶滿載吃水線規程トアルハ朝鮮船舶滿載吃水線規程、鋼船構造規程トアルハ朝鮮鋼船構造規程トス

附 則

本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス
昭和六年六月三十日以前ニ龍骨ヲ据附ケタル旅客船又ハ同日以前ニ旅客船ニ變更シタル船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ其ノ水密區畫其ノ他ノ設備ヲ考慮シ實行スルコト不可能又ハ不適當ナリト認ムル事項ニ關シテハ本令ノ適用ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

ルトキハ之ヲ同編ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

二 船舶滿載吃水線規程第五十條ニ規定スル船樓ヲ有セザル汽船ト雖モ實質上同條ニ規定スル船樓ト略同一ノ效力アル船樓ヲ有シ且同規程第六編第六章ニ規定スル他ノ條件ヲ具備スルトキハ木材滿載吃水線ノ指定ヲ受ケ之ヲ標示スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ當該汽船ガ同規程第五十條ノ規程ニ適合セザル程度ヲ考慮シ適當ニ其ノ乾舷ヲ增加ス

三 船舶滿載吃水線規程第五十七條、第五十八條及第六十二條ノ規定ニ適合セザル槽船ト雖モ實質上同條ノ規定ニ依ル構造及設備ト略同一ノ構造及設備ヲ有シ且同規程第六編第七章ニ規定スル他ノ條件ヲ具備スルトキハ管海官廳ハ同規程第四編第二章ノ規定ニ依リ當該槽船ノ乾舷ヲ算定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ當該槽船ガ同規程第五十七條、第五十八條及第六十二條ノ規定ニ適合セザル程度ヲ考慮シ適當ニ其ノ乾舷ヲ增加ス

第四條 船舶滿載吃水線法ニ依リ船舶ニ標示シタル滿載吃水線ノ位置ハ之ヲ本令ニ依リ定メタルモノト看做ス但シ同法ニ依リ汽船ニ標示シタル淡水滿載吃水線ノ位置ハ本

朝鮮造船規程

(大正十一年十一月)
朝鮮總督府令第四百四十四號

第一條 船體及機關ノ構造、材料及材料試驗ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外遞信省令造船規定ニ依ル但シ同規程中遞信大臣トアルハ朝鮮總督府遞信局長、舷窓試驗規程トアルハ朝鮮舷窓試驗規程、滿載吃水線ノ標示トアルハ滿載吃水線法ニ依ル滿載吃水線ノ標示、船舶滿載吃水線規程第五十一條又ハ第五十二條ニ掲グル第一級又ハ第二級閉鎖裝置トアルハ之ニ相當スル閉鎖裝置トス

第二條 本令ニ依リ製造スル船舶ノ滿載吃水ハ船舶ノ種類ニ應ジ朝鮮總督府遞信局長ノ適當ト認ムルモノニ依ル

第三條 朝鮮總督府遞信局長ハ吃水ノ深淺ニ應ジ本令ニ該當セザル構造及寸法ヲ認可スルコトヲ得

附 則

本令ハ大正十一年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
支水隔壁ノ構造、寸法及固著ハ從前ノ規定ニ合格スルトキハ當分ノ内之ヲ本令ニ合格スルモノト看做ス
本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ニ付テハ從前ノ規定ニ依ルコトヲ得

朝鮮木船構造規程

(昭和十年二月)
朝鮮總督府令第二十五號

本船ノ船體ニ關シテハ昭和九年遞信省令第九號木船構造規程ニ依ル但シ同規程中艙口覆布試驗規程トアルハ朝鮮船用品試驗規程ニ於テ依ルコトヲ定メタル昭和八年遞信省令第二十七號艙口覆布試驗規程、舷窓試驗規程トアルハ朝鮮船用品試驗規程ニ於テ依ルコトヲ定メタル大正十一年遞信省令第六號舷窓試驗規程トス

附 則

本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ存スル船舶及現ニ製造中ノ船舶ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

朝鮮船舶機關規程

(昭和九年二月)
朝鮮總督府令第二十二號

第一條 船舶ノ機關ノ構造、材料及材料試驗ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外昭和九年遞信省令第十號船舶機關規程ニ依ル但シ同規程第四條第二項ノ規定ハ此ノ限ニ在

朝鮮漁船特殊規程

(昭和十年二月)
朝鮮總督府令第三十號

第一條 漁船ニ付特ニ施設スベキ事項及其ノ標準ニ關シテハ昭和九年農林省令漁船特殊規程ニ依ル
漁船特殊規程中漁船特殊規則トアルハ朝鮮漁船特殊規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル漁船特殊規程ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶構造規程ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶滿載吃水線規程トアルハ朝鮮造船規程ニ於テ依ルコトヲ定メタル造船規程、船舶滿載吃水線規程トアルハ朝鮮船舶滿載吃水線規程、船舶設備規程トアルハ朝鮮船舶設備規程ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶設備規程、船舶機關規程トアルハ朝鮮船舶機關規程ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶機關規程トス

第二條 第二種漁船又ハ第三種漁船ニシテ東ハ東經百七十五度、西ハ東經九十四度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯六十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域内ニ於テ從業スル漁船數百噸未満ノモノハ前條ニ於テ依ルコトヲ定メタル漁船特殊規程(以下單ニ漁船特殊規程ト稱ス)第三號表ニ規定スル測定機械、六分儀又ハ航海曆ヲ備ヘザルコトヲ得

附 則

朝鮮漁船特殊規則

(昭和十年二月)
朝鮮總督府令第二十九號

漁船ノ特殊事項ニ關シテハ昭和九年農林省令漁船特殊規則ニ依ル但シ同規則中主務大臣トアルハ朝鮮總督、船舶安全法施行地、朝鮮又ハ樺太トアルハ朝鮮、内地、臺灣又ハ樺太、船舶安全法施行規則トアルハ朝鮮船舶安全法施行規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法施行規則トス

附 則
本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮造船規程・朝鮮木船構造規程・朝鮮船舶機關規程・朝鮮漁船特殊規程
朝鮮漁船特殊規程

附 則

第三條 本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 本令施行ノ際現ニ存スル漁船又ハ現ニ製造中ノ漁船ノ船體又ハ機關ニ付テハ本令ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ漁船ノ種類、大小、從業ノ期間等ヲ考慮シ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ合格ト爲スコトヲ得但シ本令施行ノ日ヨリ三年ヲ經過シタル後ニ於テ新ニ漁船ニ備付クル機關ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 本令施行ノ際現ニ存スル漁船又ハ現ニ製造中ノ漁船ニ付テハ漁船特殊規程第四條、第五條、第七條、第九條、第十二條、第十四條、第四十四條乃至第四十六條及第五十六條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第六條 本令施行ノ際現ニ存スル漁船ニシテ引續キ從前ノ業務ニ従事スルモノニ付テハ管海官廳ニ於テ本令ニ依リ救命設備、航海用具其ノ他ノ屬具又ハ機關備品ヲ備フルコト困難ナリト認ムルトキハ本令施行後二年内ニ於テ行フ最後ノ中間検査又ハ定期検査ノ時期迄其ノ設備ニ付仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

第七條 本令施行ノ際現ニ存スル漁船ノ居室ニ付テハ漁船特殊規程第五十四條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第八條 本令施行ノ際現ニ漁船ニ備フル錨、錨鎖又ハ鋼索ニ付テハ之ヲ引續キ當該漁船ニ備フル場合ニ限り漁船特殊規程第六十三條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

朝鮮漁船特殊規則ニ依ル業務指定ノ件

(昭和十年二月) 朝鮮總督府告示第九十六號

朝鮮漁船特殊規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル漁船特殊規則第三條第十號ノ業務ヲ昭和十年三月一日ヨリ左ノ通認定ス

- 一 一定置漁業
- 二 一定所集魚漁業
- 三 一定所曳網漁業
- 四 一定所敷網漁業
- 五 機船巾著網漁業
- 六 潜水器漁業
- 七 曳網漁業
- 八 敷網漁業
- 九 繰網漁業
- 十 空釣繩漁業
- 十一 其ノ他ノ雜種漁業

船舶安全法施行ニ關スル件

(昭和九年二月) 朝鮮總督府令第三號

第一條 船舶安全法ノ施行ニ關シテハ特ニ規定スルモノヲ除クノ外昭和九年遞信省令第四號船舶安全法施行規則ニ依ル

第二條 前條ノ遞信省令中左記上欄ノ事項ハ各其ノ下欄ノ事項トス

遞信大臣	臺灣總督
官報	臺灣總督府報
遞信省	臺灣總督府交通局

附 則

第三條 本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 昭和八年府令第七十二號船舶検査法施行ニ關スル件、同年府令第十三號船舶滿載吃水線法施行ニ關スル件、同年府令第十六號船舶無線電信施設法施行ニ關スル件、同年府令第七十三號船舶検査ニ關スル件、同年府令第七十四號木船検査ニ關スル件、同年府令第七十五號漁船検査ニ關スル件及同年府令第十四號船舶滿載吃水線ニ關ス

朝鮮漁船特殊規程・朝鮮漁船特殊規則ニ依ル業務指定ノ件・船舶安全法施行ニ關スル件(朝鮮)

ル件ハ之ヲ廢止ス

第五條 海軍諸法臺灣施行令施行ノ際臺灣汽船検査規則ニ依リ検査ヲ要セザリシ船舶ノ検査ハ昭和八年府令第十一號船舶法施行ニ關スル件第六條又ハ同年府令第十二號船舶法第二十一條ノ命令ニ關スル件第五條ノ規定ニ依リ始メテ積量ノ測定ヲ受クル際之ヲ執行ス

第六條 海軍諸法臺灣施行令第十五條第一項第三號ノ船舶ハ左ニ掲グル内地在籍船舶ヲ謂フ

- 一 移民船トシテ臺灣ノ港ヲ發航シ又ハ臺灣ニ於テ臨時旅客ヲ搭載セントスル船舶
- 二 回航認可ヲ受ケントスル船舶其ノ他臨時検査ヲ受ケントスル船舶
- 三 遞信大臣ヨリ特ニ検査ノ囑託アリタル船舶

第七條 海軍諸法臺灣施行令第十五條第一項ニ依リ検査ヲ申請スル船舶ハ申請書ニ其ノ事由ヲ記載スベシ

第八條 昭和九年勅令第十四號海軍諸法臺灣施行令中改正ノ件附則第三條第一項ノ規定ニ依リ検査ニ關シテハ船舶安全法施行規則第九十三條ノ規定ヲ準用ス

海上ニ於ケル人命ノ安全

ノ爲ノ國際條約及國際滿

載吃水線條約ニ依ル證書

ニ關スル件 (昭和九年八月 臺灣總督府令第六十二號)

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約及國際滿載吃水線條約ニ依ル證書ニ關シテハ昭和十年逡信省令第二十二號ニ依ル但シ同省令中内地トアルハ臺灣トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和九年府令第三號船舶

安全法施行ニ關スル件ヲ

外國船舶ニ準用ノ件

(昭和九年二月 臺灣總督府令第四號)

昭和九年府令第三號船舶安全法施行ニ關スル件ヲ日本船舶ニ非ザル船舶ニ準用ノ件ニ付テハ昭和九年逡信省令第五號

船舶安全法施行規則ヲ外國船舶ニ準用ノ件ニ依ル

附 則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

船舶設備ニ關スル件

(昭和九年二月 臺灣總督府令第五號)

船舶ノ設備ニ關シテハ昭和九年逡信省令第六號船舶設備規程ニ依ル

附 則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

船舶滿載吃水線ニ關スル件

(昭和九年二月 臺灣總督府令第六號)

船舶ノ滿載吃水線ニ關シテハ昭和九年逡信省令第七號船舶滿載吃水線規程ニ依ル但シ同省令中逡信大臣トアルハ臺灣總督トス

附 則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

船舶ノ區畫ニ關スル件

(昭和九年二月 臺灣總督府令第七號)

船舶ノ區畫ニ關シテハ昭和九年逡信省令第八號船舶區畫規程ニ依ル但シ同省令中逡信大臣トアルハ臺灣總督トス

附 則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

造船ニ關スル件

(昭和八年五月 臺灣總督府令第七十六號)

造船ニ關シテハ大正五年逡信省令第六十五號造船規程ニ依ル但シ同規程中逡信大臣トアルハ臺灣總督トス

附 則

本令ハ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

木船構造ニ關スル件

(昭和九年一月 臺灣總督府令第八號)

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約及國際滿載吃水線條約ニ依ル證書ニ關スル件(臺灣)・昭和九年府令第三號船舶安全法施行ニ關スル件ヲ外國船舶ニ準用ノ件(臺灣)・船舶設備ニ關スル件(臺灣)・船舶滿載吃水線ニ關スル件(臺灣)・船舶區畫ニ關スル件(臺灣)・造船ニ關スル件(臺灣)・木船構造ニ關スル件(臺灣)・船舶機關ニ關スル件(臺灣)・漁船ニ關スル件(臺灣)

船舶機關ニ關スル件

(昭和九年二月 臺灣總督府令第九號)

船舶ノ機關ニ關シテハ昭和九年逡信省令第十號船舶機關規程ニ依ル

附 則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

漁船ニ關スル件

(昭和九年二月 臺灣總督府令第十一號)

漁船ニ關シテハ昭和九年省令(逡信省令)漁船特殊規則ニ依ル但シ同省令中主務大臣トアルハ臺灣總督トス

附 則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

漁船構造設備ニ關スル件

(昭和九年二月)
臺灣總督府令第十二號

漁船ノ構造設備ニ關シテハ昭和九年逕信省令漁船特殊規程ニ依ル

附 則

本令ハ昭和九年三月二日ヨリ之ヲ施行ス

船舶検査執行地ノ件

(昭和九年三月)
臺灣總督府告示第二十八號

船舶安全法施行規則第七十三條ノ規定ニ依リ船舶検査執行地左ノ通定ム

昭和八年告示第七十六號ハ之ヲ廢止ス

臺灣總督府交通局基隆海事出張所

基隆市 臺北州淡水郡淡水街 臺北州蘇澳郡蘇澳庄

新竹州竹南郡後龍庄 花蓮港廳花蓮港街 臺東廳臺東街

臺東廳新港區新港

臺灣總督府交通局高雄海事出張所

高雄市 高雄州東港郡東港街 高雄州恒春郡恒春庄 高雄

州恒春郡車城庄 臺南市 臺南州東石郡布袋庄臺南州東石郡東石庄 臺中州彰化郡鹿港街 澎湖廳馬公街

休暇日船舶検査執行地ノ件

(昭和九年三月)
臺灣總督府告示第二十七號

船舶安全法施行規則第七十五條ノ規定ニ依リ休暇日検査執行地左ノ通定ム

昭和八年告示第七十七號ハ之ヲ廢止ス

臺灣總督府交通局基隆海事出張所

基隆市

臺灣總督府交通局高雄海事出張所

高雄市

亞米利加合衆國船舶検査ニ關スル件

(昭和八年五月)
臺灣總督府令第七十七號

亞米利加合衆國船舶ノ検査ニ關シテハ明治三十九年逕信省令第四十九號ニ依ル但シ同省令申明治三十九年十一月逕信省令第四十九號第四條トアルハ昭和八年府令第七十七號トス

佛蘭西國船舶ノ検査ニ關シテハ大正十四年逕信省令第八十七號ニ依ル但シ同省令中逕信大臣トアルハ臺灣總督トス

附 則

本令ハ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

英國船舶ノ検査ニ關スル件

(昭和十二年三月)
臺灣總督府令第十二號

英國政府ニ於テ交付シタル旅客及安全證書ハ船舶安全法第十五條第一項ノ規定ニ依リ同法ニ依リ交付シタル船舶検査證書ト同一ノ效力ヲ有スルモノトス

英國船舶ニシテ前項ノ證書ヲ受有スル場合ト雖モ船舶安全法施行規則第四條ニ規定スル移民船ニ該當スル場合ニ於テハ同令ニ規定スル特殊船舶検査ヲ行フ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

佛蘭西國ニ航行スル日本船舶ノ検査ニ關スル件

(昭和八年五月)
臺灣總督府令第七十八號

佛蘭西國ニ航行スル日本船舶ノ検査ニ關シテハ大正十四年逕信省令第八十六號ニ依ル但シ同省令中大正十四年十二月逕信省令第八十六號又ハ大正十四年十二月逕信省令第八十六號第三條トアルハ昭和八年府令第七十八號トス

附 則

本令ハ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

佛蘭西國船舶ノ検査ニ關スル件

(昭和八年五月二十一日)
臺灣總督府令第七十九號

漁船構造設備ニ關スル件(臺灣)・船舶検査執行地ノ件(臺灣)・休暇日船舶検査執行地ノ件(臺灣)・亞米利加合衆國船舶検査ニ關スル件(臺灣)・佛蘭西國船舶検査ニ關スル件(臺灣)・英國船舶ノ検査ニ關スル件(臺灣)

朝鮮救命艇手適任證書

交付規則 (昭和十年二月)

(朝鮮總督府令第三十三號)

第一條 朝鮮船舶安全令施行規則ニ於テ依ルコトヲ定メタル船舶安全法施行規則第五百十六條第七項ニ規定スル救命艇手適任證書ノ交付、書換又ハ返還ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 救命艇手適任證書ハ左ニ掲グル者ニ之ヲ交付ス

- 一 海技免狀ヲ受有スル者
- 二 官公立商船學校卒業者及實習生
- 三 水夫適任證書ヲ受有スル者
- 四 海兵團ノ教程ヲ終了シタル者
- 五 朝鮮總督ノ適當ト認ムル海員養成所修了者
- 六 沿海以上ノ航行區域ヲ航行スル總噸數百噸以上ノ船舶ニ乗組ミ三年以上甲板部員トシテ勤務シ體格検査ニ合格シタル者
- 七 沿海以上ノ航行區域ヲ航行スル船舶ニ乗組ミ一年以上甲板部員トシテ勤務シ且端艇ノ運用ニ關スル試験及體格検査ニ合格シタル者

八 沿海以上ノ航行區域ヲ航行スル總噸數百噸以上ノ船舶ニ乗組ミ三年以上勤務シ且端艇ノ運用ニ關スル試験及體格検査ニ合格シタル者
前項第七號及第八號ノ試験ハ救命艇作業ニ關スル命令ヲ了解シ救命艇ノ卸方、漕方及操縦ニ習熟セルヤ否ニ付之ヲ行フ

第三條 救命艇手適任證書ノ交付ヲ受ケントスル者ハ第一號様式ノ申請書ヲ管海官廳ニ提出シ海技免狀、船員手帖其ノ他資格ヲ證スル書類ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供スベシ救命艇手適任證書ハ第二號様式ニ依ル

第四條 救命艇手適任證書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ該書ヲ交付シタル管海官廳ニ之ガ再交付ヲ申請スルコトヲ得

救命艇手適任證書ノ記載事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ該證書ヲ交付シタル管海官廳ニ之ガ書換ヲ申請スベシ

救命艇手適任證書不用ト爲リタルトキハ遲滯ナク該證書ヲ交付シタル管海官廳ニ之ヲ返還スベシ

第五條 本令ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納付スベシ

テ之ヲ納付スベシ

第六條 本令ニ依ル事務ハ左ノ管海官廳ニ於テ之ヲ行フ
朝鮮總督府遞信局仁川海事出張所、同釜山海事出張所及同清津海事出張所

附 則

本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 一 第二條第一項第一號乃至第六號ニ掲グル者救命艇手適任證書ノ交付ヲ申請スルトキ 二十錢
- 二 第二條第一項第七號又ハ第八號ニ掲グル者救命艇手適任證書ノ交付ヲ申請スルトキ 三十錢
- 三 救命艇手適任證書ノ再交付又ハ書換ヲ申請スルトキ 十錢

手数料ハ其ノ金額ニ相當スル收入印紙ヲ納付書ニ貼附シ

第一號様式 (表)

救命艇手適任證書交付申請書

救命艇手適任證書交付相成度此段及申請候也

年 月 日

通知ヲ受クベキ場所

管海官廳宛

申請人 氏 名 印

朝鮮救命艇手適任證書交付規則

(裏)

※	氏名		出生年月日		船員手帖番號		船種船名總噸數		
	本籍				第 號		航行區域		
							職 名		
							乘船年月日		
期間合計	年	月	日	下船年月日	年	月	日	在船年月日	
年 月 日	年	月	日	年	月	日	年	月	日

備考 朝鮮救命艇手適任證書交付規則第二條第一項第一號乃至第五號ニ掲グル者申請者ナルトキハ其ノ旨※欄ニ記載シ乗船履歴ハ之ヲ記載スルニ及バズ
氏名ニハ片假名ヲ以テ傍訓ヲ附スベシ

第二號様式

第 號

救命艇手適任證書

本籍

氏名

出生年月日

右ノ者朝鮮救命艇手適任證書交付規則ニ依リ救命艇手ニ適スル者ト認メ此ノ證書ヲ付與ス

年 月 日

管海官廳名印

備考 裏面ニ英譯ヲ附記ス

朝鮮救命艇手適任證書交付規則

佛蘭西國ニ航行スル日本船舶ノ検査ニ關スル件

(大正十五年一月) 朝鮮總督府令第七號

佛蘭西國ニ航行スル日本船舶ノ検査ニ關シテハ大正十四年遞信省令第八十六號ニ依ル但シ同令中船舶検査法施行細則トアルハ朝鮮船舶検査令施行規則、船舶検査規程第四號表トアルハ朝鮮船舶検査規程第四號表、船舶検査規程第五十八條トアルハ朝鮮船舶検査規程第六十二條、滿載吃水線トアルハ船舶滿載吃水線法ニ依ル標示シタル滿載吃水線、附錄書式甲、乙(備考欄ヲ除ク)及丙中大正十四年遞信省令第八十六號トアルハ大正十五年朝鮮總督府令第七號トス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

佛蘭西國船舶ノ検査ニ關スル件

(大正十五年一月) 朝鮮總督府令第八號

佛蘭西國船舶ノ検査ニ關シテハ大正十四年遞信省令第八十

七號ニ依ル但シ同令中日本トアルハ朝鮮、遞信大臣トアルハ朝鮮總督トス

本令ハ大正十五年一月二十九日ヨリ之ヲ施行ス

關東州船舶安全令

(昭和九年八月) 勅令第二百五十三號

改正 昭和九年 勅令第三百九十五號

第一條 關東州ニ於ケル船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シテハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外船舶安全法ニ依ル但シ同法中主務大臣トアルハ滿洲駐劄特命全權大使、勅令トアルハ關東局令、日本船舶トアルハ關東州ニ行ハルル命令ニ依ル日本船舶、無線電信法トアルハ關東州及南滿洲鐵道附屬地電氣通信令トス

第二條 關東州ノ船舶ヲ取得スル目的ヲ以テ内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テ船舶ヲ製造スル者ハ關東州ノ管海官廳ニ船舶安全法第六條第一項又ハ第二項ノ製造検査ヲ申請スルコトヲ得

關東州ノ管海官廳ハ前項ノ規定ニ依ル検査ニ合格シタル

船舶ニ對シテハ合格證明書ヲ交付ス

船舶安全法第六條第四項ノ規定ハ前項ノ船舶ニ之ヲ準用ス

第三條 大使ハ船舶安全法第二條第一項ノ規定ヲ適用セザル船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シ同法第二十七條及第二十八條ニ規定スル事項ヲ除クノ外必要ナル規則ヲ設クルコトヲ得

附 則

第四條 本令施行ノ期日ハ大使之ヲ定ム

船舶安全法第二條第一項第十一號ニ關スル規定及同法第二十七條ノ規定ニ付テハ各別ニ大使ノ定ムル日迄本令第一條ノ規定ヲ適用セズ

第五條 昭和二年勅令第六十五號ハ之ヲ廢止ス

第六條 本令施行ノ際現ニ存スル船舶ニシテ本令ニ依リ滿載吃水線ノ標示ヲ要スルモノニ付テハ大使ノ定ムル所ニ依リ滿載吃水線ニ關スル検査ヲ受クル迄之ヲ標示セザルコトヲ得

第七條 従前ノ規定ニ依リ船舶検査證書若ハ假證書ヲ受有スル船舶又ハ之ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供スル船舶ニ付テハ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ル迄船舶検査及無線

佛蘭西國ニ航行スル日本船舶ノ検査ニ關スル件(朝鮮)・佛蘭西國船舶ノ検査ニ關スル件(朝鮮)・關東州船舶安全令・關東州船舶安全令施行期日ニ關スル件

電信施設ニ關シ仍従前ノ規定ニ依ル

一 航行期間滿了ノ爲従前ノ規定ニ依リ検査ヲ受クベキトキ

二 従前ノ規定ニ依リ船舶検査證書又ハ假證書ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供シ得ザルニ至リタルトキ

第八條 前條ノ船舶同條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ大使ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ受クベシ
前項ノ検査ニ合格シタル船舶ハ船舶検査證書ヲ交付ス但シ其ノ有効期間ハ四年以内ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間トス

前項ノ有効期間ノ滿了ハ船舶安全法第五條第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ同法第十條ニ規定スル有効期間ノ滿了ト看做ス

關東州船舶安全令施行期日ニ關スル件

(昭和九年九月) 勅令第三十八號

關東州船舶安全令ハ昭和九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ船舶安全法第二條第一項第十一號ニ關スル規定及同法第二十七條ノ規定ニ付テハ別ニ定ムル日迄同令第一條ノ規定ヲ適用セズ

關東州船舶安全令施行規則

則 (昭和九年九月)
(關東廳令第三十九號)

- 第一條** 關東州船舶安全令ノ施行ニ關シテハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ命令ニ依ル
- 一 船舶安全法施行令但シ第三條ノ規定ヲ除ク
 - 二 遞信省令船舶安全法施行規則但シ第六十二條及第一百八條但書ノ規定ヲ除ク
 - 三 昭和九年遞信省令第五號
 - 四 遞信省令船舶設備規程
 - 五 遞信省令船舶滿載吃水線規程
 - 六 遞信省令船舶區劃規程
 - 七 遞信省令木船構造規程
 - 八 遞信省令船舶機關規程
 - 九 遞信省令危險物船舶運送及貯藏規則但シ第二十一條ノ規定ヲ除ク
 - 十 遞信省令救命艇手適任證書交付規則
 - 十一 遞信省令船用品取締規則
 - 十二 遞信省令船用品檢查試驗規則

- 十三 遞信省令錨鎖索試驗規程
 - 十四 遞信省令舷窓試驗規程
 - 十五 遞信省令船燈試驗規程
 - 十六 遞信省令信號器試驗規程
 - 十七 遞信省令救命器具試驗規程
 - 十八 遞信省令消火器試驗規程
 - 十九 遞信省令火災警報裝置試驗規程
 - 二十 遞信省令防毒面試驗規程
 - 二十一 遞信省令艙口覆布試驗規程
 - 二十二 遞信省令漁船特殊規則但シ第四條中第三號
 - 二十三 遞信省令農林省令漁船特殊規程
 - 二十四 遞信省令船舶氣象觀測報告規程
- 第二條** 前條ノ命令中主務大臣又ハ遞信大臣トアルハ滿洲國駐劄特命全權大使、遞信省トアルハ關東廳、遞信省管船局船舶試驗所又ハ同支所トアルハ關東廳海務局、中央氣象臺トアルハ關東廳觀測所、日本船舶トアルハ關東州船舶令ニ依ル日本船舶、船舶檢查法トアルハ關東州船舶檢查規則、火藥類鐵道運送規程、銃砲火藥類取締法又ハ同法施行規則トアルハ銃砲火藥類取締規則、官報トアル

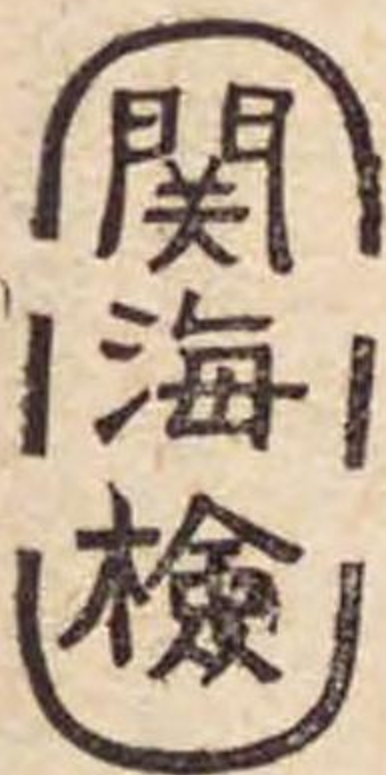
- ハ關東廳々報、船舶安全法施行規則第六條及船舶設備規程第九十六條第二項ノ場合ヲ除キ船舶安全法施行地トアルハ關東州、船舶安全法第二十九條、第三十三條、第三十五條、第三十六條トアルハ關東州船舶安全令第三條、第六條、第七條、第八條トス
- 第三條** 船舶安全法施行規則第六條中近海又ハ遠洋トアルハ平水區域以外、同規則第六十一條中朝鮮若ハ關東州ノ船舶又ハ外國ノ國籍トアルハ關東州ノ船舶以外ノ船舶、日本ノ國籍トアルハ關東州ノ船舶、同規則第六十六條第三號中日本ト外國トアルハ關東州ト關東州外ノ地、同規則書式中管海官廳トアルハ關東廳海務局、船舶安全法第九條又ハ船舶安全法第六條トアルハ關東州船舶安全令トス
- 第四條** 危險物船舶運送及貯藏規則中煙火トアルハ煙火(爆竹ヲ含ム)、同規則第七條中外國トアルハ關東州外、日本トアルハ關東州、同規則第十七條中銃砲火藥類取締法施行規則第十八條トアルハ銃砲火藥類取締規則第四十三條第一項、同規則第二十二條但書中業務用トシテ貯藏スル場合又ハ銃砲火藥類取締法施行規則ノ規定ニ依リ繫留船若ハ倉庫船ニ貯藏スル場合トアルハ業務用トシテ貯藏スル場合、同規則附錄書式中危險物船舶運送及貯藏規

關東州船舶安全令施行規則

- 則第八條トアルハ關東州船舶安全令施行規則トス
- 第五條** 救命艇手適任證書交付規則第二號書式中救命艇手適任證書交付規則トアルハ關東州船舶安全令施行規則トス
- 第六條** 船用品取締規則第四十五條乃至第四十八條中舊取締規則トアルハ關東州船燈信號器救命具取締規則、同規則書式中船用品取締規則第一條第一項、船用品取締規則、船用品取締規則第三條第一項、第二項、船用品取締規則第一條第二項、船用品取締規則第三條第三項、船用品取締規則第一條第二項、第二條第三項、船用品取締規則第三十二條第一項又ハ船用品取締規則第三十二條第二項トアルハ關東州船舶安全令施行規則トシ同規則第三十一條ノ檢印ハ別記第一號雛形ニ依ル
- 第七條** 船用品檢查試驗規則書式中大正九年九月遞信省令第七十五號船用品檢查試驗規則又ハ大正九年九月遞信省令第七十五號船用品檢查試驗規則第六條トアルハ關東州船舶安全令施行規則トシ同規則第六條ノ甲號及乙號檢印ハ別記第二號雛形ニ依ル
- 第八條** 漁船特殊規則第八條第二號中船舶安全法施行地朝鮮又ハ樺太トアルハ關東州トス

- 第九條** 平水區域ハ左ニ掲グル各區域トス
- 第一區 沙碓子ヨリ南三山島ヲ經テ老鐵山西角ニ至ル線内
- 第二區 老鐵山西角ヨリ小龍山島及朱島ヲ經テ長興島北角ニ至ル線内
- 第三區 南山嘴ヨリ南三山島及廣鹿島東側ヲ經テ魏子窩ニ至ル線内
- 第四區 魏子窩ヨリ廣鹿島西側、長子島南端、海洋島東側及大王家島東端ヲ經テ温家樓ニ至ル線内
- 第十條** 沿海區域ハ北緯三十六度以北ノ黃海及渤海ニシテ海岸ヨリ二十海里以内ノ區域トス
- 第十一條** 船舶検査執行地ハ大連市、旅順市、甘井子、柳樹屯、海猫屯、小平島、老虎灘及三道灣屯(老爺廟會)トス但シ休暇日検査ハ大連市、旅順市及甘井子ニ限ル
- 第十二條** 船舶機關規程第四條第二項ノ試験機ハ關東廳海務局長ニ於テ適當ト認ムルモノヲ用フルコトヲ得
- 第十三條** 逓信大臣、臺灣總督又ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ檢印ヲ附シタル船燈、信號器、救命器具、防毒面、消火器、火災警報装置、艙口覆布、錨鎖索、舷窓ニ付テハ本令ノ規定ニ依ル試験及檢定ヲ要セズ

- 第十四條** 特殊漁船ヲ除クノ外長サ三十メートル未満ノ漁船ニ付テハ其ノ業務種類ニ依リ關東廳海務局長ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ限り端艇ヲ備ヘザルコトヲ得
- 第十五條** 第二種漁船ニシテ總噸數百噸未満ノモノハ漁船特殊規程第三號表ニ定ムル測程機械、六分儀又ハ航海曆ヲ備ヘザルコトヲ得
- 附 則
- 本令ハ關東州船舶安全令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 關東州船舶検査規則、關東州船舶特種検査規則、關東州船燈信號器救命具取締規則及昭和二年關東廳令第三十九號ハ之ヲ廢止ス
- 船用品取締規則ニ依ル型式承認ハ當分ノ内之ヲ行ハズ
- (第一號雛形)



(第二號雛形)



關東州小形汽船取締規則

(昭和九年九月) (關東廳令第四十一號)

改正 昭和十一年 關東廳令第四十號

- 第一條** 本令ニ於テ小形汽船トハ關東州船籍令ニ依ル日本船舶ニシテ乗客ノ用ニ供スル總噸數五噸未満ノ汽船ヲ謂フ
- 第二條** 小形汽船ノ所有者ハ左ノ區別ニ依ル検査ヲ受クベシ
- 一 初メテ航行ノ用ニ供スルトキ又ハ第五條第二項ニ規定スル有効期間満了シタルトキ行フ検査(定期検査)
- 二 關東海務局長ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキ行フ検査(臨時検査)

關東州船舶安全令施行規則・關東州小形汽船取締規則

- 小形汽船ノ構造及設備ノ検査ハ關東海務局長ノ適當ト認ムル所ニ依リ之ヲ行フ
- 第三條** 小形汽船検査執行地ハ大連市、旅順市、甘井子、柳樹屯、海猫屯、小平島、老虎灘及三道灣屯(老爺廟會)トス但シ休暇日ニ於ケル検査ハ大連市、旅順市及甘井子ニ限ル
- 第四條** 小形汽船ノ検査ヲ受ケントスルトキハ其ノ所有者ハ別記第一號書式ノ申請書ヲ關東海務局長ニ提出スベシ
- 第五條** 關東海務局長ハ定期検査ニ合格シタル小形汽船ニ對シテハ其ノ大小、用途及構造ノ適否ヲ參酌シ航行區域及最大搭載人員ヲ定メ別記第二號書式ノ小形汽船検査證書ヲ交付ス小形汽船検査證書ノ有効期間ハ一年內ニ於テ關東海務局長之ヲ定ム
- 小形汽船検査證書ニ付テハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外逓信省令船舶安全法施行規則第十三章ノ規定ヲ準用ス
- 第六條** 關東海務局長ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ船舶ニ臨檢セシメ又ハ其ノ航行ヲ停止スルコトヲ得
- 第七條** 小形汽船ヲ其ノ検査證書ニ記載スル航行區域又ハ證書有効期間ヲ越エテ航行ノ用ニ供セントスルトキハ其

ノ所有者ハ關東海務局長ノ認可ヲ受クベシ

第八條 小形汽船検査證書ノ有効期間内ニ於テ船舶ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ旨ヲ關東海務局長ニ届出ヅベシ

- 一 入渠又ハ上架セントスルトキ
- 二 船體若ハ機關ノ要部又ハ重要ナル設備若ハ屬具ニ損傷ヲ生ジタルトキ又ハ之ヲ修繕若ハ變更セントスルトキ

第九條 小形汽船ノ所有者船長又ハ機關長ヲ雇入レントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ關東海務局長ノ認可ヲ受クベシ

- 一 船舶番號
 - 二 船種船名
 - 三 總噸數
 - 四 船舶ノ用途
 - 五 航行區域
 - 六 船長又ハ機關長ノ住所、氏名、生年月日及履歷
- 關東海務局長前項ノ船長又ハ機關長本令ニ違反シ又ハ就業上不適當ト認めタルトキハ其ノ認可ヲ取消スコトアルベシ

第十條 小形汽船ノ検査又ハ小形汽船検査證書ノ交付、再

交付若ハ書換ニ對シテハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納付スベシ

- 一 定期検査 五圓但シ休暇日ニ於テハ七圓
- 二 臨時検査 二圓但シ休暇日ニ於テハ三圓
- 三 小形汽船検査證書ノ交付、再交付又ハ書換
 - 一圓但シ休暇日ニ於テハ二圓

第十一條 小形汽船検査執行地以外ニ於テ検査ヲ受クルトキハ別ニ當該官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納付スベシ

第十二條 前二條ノ規定ニ依ル手数料及旅費ハ官廳又ハ公共團體ニ對シテハ之ヲ徵收セズ

第十三條 本令ニ於テ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外小形汽船検査證書ヲ受有セズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ小形汽船検査證書ニ記載セル條件ニ違反シテ航行シ又ハ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ若ハ航行停止ノ命ニ違反シ又ハ屬具ノ整備ヲ爲サズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキハ船舶所有者又ハ船長ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十四條 船舶所有者又ハ船長左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

ハ小形汽船検査證書ノ書換ヲ申請セズ若ハ之ヲ返還セザルトキ

- 二 本令ニ違反シ小形汽船検査證書ヲ表示セザルトキ
- 三 本令ニ依ル届出ヲ爲サザルトキ
- 四 第九條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケズシテ船長又ハ機關長ヲ雇入レタルトキ

第十五條 本令中小形汽船所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ於テ船舶管理人ヲ置キタルトキハ之ヲ船舶管理人ニ、船舶貸借ノ場合ニ於テハ之ヲ船舶借入人ニ適用シ又船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ適用ス

第十六條 本令ハ關東州ノ沿岸又ハ港灣内ニ於テ乗客ノ用ニ供スル總噸數五噸未滿ノ外國船舶ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ昭和九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

關東州船舶検査規則ニ依リ船舶検査證書ヲ受有スル小形汽船ハ同規則ニ依リ検査ヲ受クベキトキニ至ル迄検査ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

前條ノ小形汽船從前ノ規定ニ依リ検査ヲ受クベキトキニ至

關東州小形汽船取締規則

リタルトキハ本令ニ依リ定期検査ヲ受クベシ

(第一號書式)

船舶(定期、臨時)検査申請書

- 一 船舶ノ番號、種類名稱及總噸數
- 二 船舶所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 三 船 籍 港
- 四 船舶ノ用途
- 五 航行セントスル航路
- 六 検査ヲ受ケントスル期日及場所
- 七 検査申請ノ事由

年 月 日

申請者 氏

名 印

關東海務局長 氏 名 殿

(第二號書式) (竪十四行、横二十一行)

第 號

割印

小形汽船検査證書

船舶番號	第 號	船舶ノ用途	所有者	航行區域		總噸數 噸	證書有效期間 自 年 月 日 至 年 月 日	關東州小形汽船取締規則第五條ニ依リ本證書ヲ交 付ス
				船名	船籍港			
								關東海務局 印

海上ニ於ケル人命ノ安全
ノ爲ノ國際條約及國際滿
載吃水線條約ニ依ル證書
ニ關スル件 (昭和十年九月
關東局令第五十七號)

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約及國際滿載吃水線
條約ニ依ル證書ニ關シテハ昭和七年遞信省令第二十二號ニ
依ル但シ同令中内地トアルハ關東州、船舶安全法トアルハ
關東州船舶安全令トシ船舶安全法施行規則、船舶區畫規程
又ハ船舶設備規程トアルハ關東州船舶安全令施行規則トシ
管海官廳トアルハ關東海務局トス

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

佛蘭西國ニ航行スル船舶
ノ検査ニ關スル件

(大正十五年十月
關東廳令第四十九號)

佛蘭西國(其ノ殖民地及管治地域ヲ含ム)ニ航行スル關東州
船籍令ニ依ル日本船舶ノ検査ハ大正十四年遞信省令第八十
六號ニ依ル但シ同令中日本船舶トアルハ關東州船籍令ニ依
ル日本船舶管海官廳トアルハ關東廳海務局トシ大正十四年
遞信省令第八十六號トアルハ大正十五年關東廳令第四十九
號トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

佛蘭西國船舶ノ検査ニ關
スル件 (大正十五年十月十四日
廳令第五十號)

佛蘭西國(其ノ殖民地及管治地域ヲ含ム)船舶ノ検査ハ大正
十四年遞信省令第八十七號ニ依ル但シ同令中日本トアルハ
關東州、遞信大臣トアルハ(關東長官)トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關東州小形汽船取締規則・海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約及國
際滿載吃水線條約ニ依ル證書ニ關スル件・佛蘭西ニ航行スル船舶ノ検査
ニ關スル件・佛蘭西國船舶ノ検査ニ關スル件

第四章 船型及船用品ノ検査並取締

船型試験規則 (昭和二十一年十一月)

改正 昭和二十二年四月
逓信省省令第五十六號
逓信省省令第二十九號

第一條 船型試験ハ水槽試験及實地試験トス

第二條 水槽試験ハ之ヲ分チテ左ノ三種トス

一 船體試験 特定事項ニ適合スル船體ノ形狀ヲ選定スル目的又ハ特定船體ノ抵抗ヲ定ムル目的ヲ以テ船體ノミニ付行フモノ

二 船體推進器試験 特定事項ニ適合スル船體ノ形狀及推進器ヲ選定スル目的、特定船體ニ適合スル推進器ヲ選定スル目的又ハ特定船體ノ抵抗及特定推進器ノ效力ヲ定ムル目的ヲ以テ船體ヲ推進器ニ依リ推進セシメテ行フモノ

第三條 實地試験ハ船體、推進器其ノ他船舶ニ關スルモノニ關スルモノ

ニ付實地ニ行フ試験ヲ謂フ

第四條 第二條ニ該當セザル水槽試験又ハ第三條ニ該當セザル實地試験ト雖モ事務ノ都合ニ依リ之ガ依頼ニ應ズルコトアルベシ

第四條ノ二 船體、推進器其ノ他船舶ニ關スルモノノ設計及調査ハ事務ノ都合ニ依リ之ガ依頼ニ應ズルコトアルベシ

第四條ノ三 第二條第一號及第二號ノ試験ヲ依頼シタル者當該船舶又ハ推進器ノ試運轉ヲ行ヒタルトキハ其ノ成績ヲ示ス資料ヲ逓信省管船局船舶試験所(以下單ニ船舶試験所ト稱ス)ニ提出スベシ但シ實地試験ノ依頼アリタル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 試験ヲ依頼セントスル者ハ第二條第一號及第二號ノ試験ニ在リテハ第一號書式、同條第三號ノ試験及第四條中ノ水槽試験ニ在リテハ第二號書式、第三條ノ試験及第四條中ノ實地試験ニ在リテハ第三號書式ニ依リ試験依頼書ヲ、第四條ノ二ノ設計又ハ調査ヲ依頼セントスル者

ハ第四號書式ニ依リ設計又ハ調査依頼書ヲ船舶試験所ニ提出スベシ

前項ノ依頼書ニハ依頼者ニ於テ必要ト認メタル圖面及書類各二通ヲ添附スベシ

船舶試験所ニ於テ必要ト認メタルトキハ圖面若ハ書類ヲ追加提出セシメ又ハ依頼者ヲシテ出頭セシムルコトアルベシ

試験、設計又ハ調査ヲ依頼シタル者前二項ノ規定ニ依リ提出シタル圖面若ハ書類ニ記載シタル事項ヲ變更若ハ廢止シ又ハ之ニ追加セントスルトキハ關係圖面及書類各二通ヲ船舶試験所ニ提出スベシ

第六條 第二號第一號ノ試験ヲ依頼シタル者試験ノ種類ヲ同條第二號ニ變更セントスルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル變更依頼書ヲ船舶試験所ニ提出スベシ

前條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七條 船舶試験所ハ試験、設計又ハ調査ノ幫助ノ爲必要アルトキハ當該依頼者ヲシテ技術員又ハ職工ヲ派遣セシムルコトアルベシ

第八條 實地試験ヲ依頼シタル者ハ試験前其ノ方法及期日

船型試験規則

ニ關シ船舶試験所ノ承認ヲ受クベシ

船舶試験所ハ前項ノ依頼者ヲシテ試験終了後其ノ試験ニ關シ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトアルベシ

第九條 船舶試験所ハ管海官廳ニ試験事務ノ一部ヲ囑託スルコトヲ得

第十條 船舶試験所試験ヲ終了シタルトキハ試験成績書ヲ、設計ヲ終了シタルトキハ設計書ヲ、調査ヲ終了シタルトキハ調査書ヲ當該依頼者ニ交付ス但シ依頼者ノ希望アルトキハ試験、設計又ハ調査終了前ト雖モ既濟ヲ分ノ試験成績書、設計書又ハ調査書ヲ交付スルコトアルベシ

第十一條 船舶試験所ハ依頼者ノ同意アルニ非ザレバ試験成績書、設計書及調査書ノ内容ヲ公表セズ

第十二條 第二條第一號及第二號ノ試験ノ手数料ハ左表ノ定ムル所ニ依ル

八八五

試験ノ種類	船ノ垂線間ノ長サ	一〇〇米以下	一〇〇米ヲ超エ 一二五米以下	一二五米ヲ超エ 一五〇米以下	一五〇米ヲ超ユ ルモノ
一 船體試驗	七五〇 ^円	一、〇五〇 ^円	一、〇五〇 ^円	一、三五〇 ^円	一、六五〇 ^円
二 船體推進器試驗	一、〇五〇	一、五〇〇	一、九五〇		二、四〇〇

備考

- 一 第六條ノ規定ニ依リ水槽試験ノ種類ヲ船體試驗ヨリ船體推進器試験ニ變更シタルトキハ手数料ハ船體推進器試験ノモノトス
- 二 依頼者ノ希望ニ依リ船體ノ副部ニ關シ一種ヲ超ユル特定状態ニ付水槽試験ヲ併セ行フトキハ手数料ハ本表ニ掲グルモノニ超過一特定状態毎ニ其ノ十分ノ四ヲ加算スルモノトス
- 三 依頼者ノ希望ニ依リ船體ノ載貨及縱傾斜状態等ニ關シ三種ヲ超ユル特定状態ニ付水槽試験ヲ行フトキハ手数料ハ本表ニ掲グルモノニ超過一特定状態毎ニ其ノ十分ノ二ヲ加算スルモノトス
- 四 依頼者ノ希望ニ依リ船體ノ特定排水量ニ對スル最適ノ縱傾斜状態ノ選定ニ付水槽試験ヲ併セ行フトキハ手数料ハ本表ニ掲グルモノニ一特定排水量毎ニ其ノ十分ノ三ヲ加算スルモノトス
- 五 依頼書ニ記載シタル船體又ハ推進器ノ選定ノ基礎トナルベキ特定事項ヲ變更若ハ廢止シ又ハ之ニ追加スルトキハ手数料ノ變更若ハ廢止又ハ追加一回毎ニ其ノ試験ニ及ボス手數ニ應ジ本表ニ掲グルモノニ其ノ十分ノ一乃至十分ノ八ノ範圍内ニ於テ船舶試験所ノ指定スル金額ヲ加算スルモノトス
- 六 前各號ニ依リ手数料ヲ定メ難キ場合ニ於ケル手数料ハ其ノ都度之ヲ定ム

第二條第三號、第三條及第四條ノ試驗並ニ第四條ノ二ノ設計及調査ノ手数料ハ其ノ都度之ヲ定ム但シ第三條ノ實地試驗中本令ニ依リ行ヒタル水槽試験ノ成績ト實地試驗ノ成績トヲ比較スル爲行フ試験ニ付テハ手数料ヲ徵收セズ

官廳又ハ學校ガ學術研究ノ目的ヲ以テ依頼スル試験、設計及調査ニ付テハ手数料ヲ徵收セズ
 試験、設計及調査ノ依頼ヲ取下グル場合ト雖モ既ニ之ニ著手シタルトキハ手数料ハ之ヲ徵收ス

第十二條ノ二 試験、設計又ハ調査ヲ依頼シタル者又ハ其ノ同意ヲ得タル者試験成績書、設計書又ハ調査書ノ複本ヲ受ケントスルトキハ第五號書式ニ依リ複本下付申請書ヲ船舶試験所ニ提出スベシ
 複本交付手数料ハ一通ニ付二十圓トス

第十三條 試験、設計又ハ調査ノ手数料ハ其ノ納付ノ通知ヲ受ケタルトキ、試験成績書、設計書又ハ調査書ノ複本交付手数料ハ下付申請ノトキ之ニ相當スル収入印紙ヲ手数料納付書（船舶試験所ニ於テ交付スル用紙ヲ使用スルコト）ニ貼付シテ納付スベシ

第十四條 船舶試験所所在地以外ノ場所ニ於テ行フ試験、船舶試験規則

設計又ハ調査ノ爲係員ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ハ船舶試験所ノ指定スル所ニ從ヒ當該依頼者ニ於テ納付スベシ
第十五條 試験品ノ製作、試験ノ装置其ノ他試験、設計又ハ調査ヲ行フニ付特殊ノ費用ヲ要スルトキハ船舶試験所ノ指定スル所ニ從ヒ當該依頼者ニ於テ之ヲ負擔スベシ但シ依頼者ノ物品ヲ使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

附 則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 實地試験及推進器ノ水槽試験ニ關スル規定ハ當分ノ間之ヲ施行セズ
 附 則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行前依頼シタル試験ノ手数料ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

（昭和五年七月）
 遞信省令第二十八號
 船舶試験規則中實地試験及推進器ノ水槽試験ニ關スル規定ハ昭和五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
 附 則
 （昭和十二年四月）
 遞信省令第二十九號
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行前依頼シタル試験ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第一號書式

試驗依頼書

- 一 試驗ノ種類
- 二 本試驗ノ結果ヲ應用スル船舶ノ垂線間ノ長
- 三 本試驗ノ結果ヲ應用スル船舶又ハ推進器ノ製造注文者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 四 本試驗ノ結果ヲ應用スル船舶又ハ推進器ノ製造者ノ住所氏名又ハ名稱
- 五 本試驗ノ結果ヲ應用スル船舶ノ名稱又ハ製造番號
- 六 船舶又ハ推進器ノ竣工豫定期日
- 七 添附セル圖面及書類ノ名稱及部數
- 八 依頼者ニ於テ特ニ必要アリト認メタル事項

右船型試驗規則ニ依リ及依頼候也

年 月 日

遞信大臣宛

依頼者ノ住所及氏名印

第二號書式

試驗依頼書

- 一 試驗事項
- 二 添附セル圖面及書類ノ名稱及部數
- 三 依頼者ニ於テ特ニ必要アリト認メタル事項

右船型試驗規則ニ依リ及依頼候也

年 月 日

遞信大臣宛

依頼者ノ住所及氏名印

第三號書式

試驗依頼書

- 一 試驗事項
- 二 水槽試驗成績書ノ番號
- 三 試驗施行ノ場所
- 四 試驗ノ豫定期日及所要日數
- 五 添附セル圖面及書類ノ名稱及部數
- 六 依頼者ニ於テ特ニ必要アリト認メタル事項

右船型試驗規則ニ依リ及依頼候也

年 月 日

遞信大臣宛

依頼者ノ住所及氏名印

第四號書式

設計依頼書

一 設計事項

二 添附セル圖面及書類ノ名稱及部數

三 依頼者ニ於テ特ニ必要アリト認めタル事項

右船型試驗規則ニ依リ及依頼候也

年 月 日

逓信大臣宛

依頼者ノ住所及氏名印

第五號書式

復本下付申請書

試驗成績書

一 設計書ノ番號及交付年月日

二 復本ノ數

右船型試驗規則ニ依リ復本下付相成度申請候也

年 月 日

逓信大臣宛

申請者ノ住所及氏名印

手数料金額

圓

船舶試驗ニ關スル事務開始

始 (昭和二年十一月十一日)

昭和二年十一月二十一日ヨリ左記ニ於テ船舶試驗ニ關スル事務ヲ開始ス

名稱

逓信省管船局船舶試驗所船舶試驗室

位置

東京府北豐島郡高田町大字高田

船用品取締規則 (昭和九年二月)

第一章 總則

第一條 法令ニ依リ船舶ニ備フベキ船用品ニシテ別表第一號ニ掲ゲルモノヲ製造スル者ハ當該船用品ノ型式毎ニ第二章ノ規定ニ依リ逓信大臣ノ製造免許ヲ受クルコトヲ要ス但シ船用品検査試驗規則ニ依ル船用品合格證明書(以下單ニ合格證明書ト稱ス)ヲ受クル目的ヲ以テ製造スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

船用品ニ付製造免許ヲ受ケタル者(以下單ニ免許製造人ト稱ス)ニ關スル事務開始・船用品取締規則

ト稱ス)其ノ製造免許船用品ヲ製造シタルトキ又ハ當該船用品若ハ之ト同種類ノモノノ要部ヲ修繕シタルトキハ第四章ノ規定ニ依リ製造免許船用品檢定又ハ船用品修繕檢定ヲ受クルコトヲ要ス

第二條 前條ニ定ムル船用品ノ要部ノ修繕ハ當該船用品又ハ之ト同種類ノモノノ免許製造人ニ非ザル者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ズ但シ航海中其ノ他免許製造人ヲシテ修繕ヲ爲サシムルニ著シク困難ナル事情アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ修繕ヲ爲サシムル場合ニハ船燈ニ付テハ其ノ合格證明書又ハ船燈檢定證明書ヲ修繕人ニ提示スベシ

第一項但書ノ規定ニ依リ修繕ヲ爲シタルトキハ船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人又ハ船長ニ於テ現品ニ付第二章ノ規定ニ依リ船用品修繕檢定ヲ受クルコトヲ要ス

第三條 別表第二號ニ掲ゲル船用品ニ付テハ其ノ型式毎ニ第三章ノ規定ニ依リ逓信大臣ノ型式承認ヲ受クルコトヲ得

別表第三號ニ掲ゲザル船用品ト雖モ逓信大臣ニ於テ必要アリト認ムルモノニ付前項ニ亦同ジ

型式承認船用品ヲ製造又ハ輸入シタル者ハ第四章ノ規定

ニ依リ型式承認船用品檢定ヲ受クルコトヲ得

第四條 第一條ニ定ムル船用品ハ船用品檢査試驗規則ニ依ル甲號檢印又ハ本令ニ依ル檢印ヲ附シタルモノナルコトヲ要ス

第五條 本令ニ於テ船用品ノ試驗規程ト稱スルハ船燈ニ付テハ船燈試驗規程、信號器ニ付テハ信號試驗規程、救命器具ニ付テハ救命器具試驗規程、防毒面ニ付テハ防毒面試驗規程、消火器ニ付テハ消火器試驗規程、火災警報裝置ニ付テハ火災警報裝置試驗規程、船口覆布ニ付テハ船口覆布試驗規程ヲ謂フ

第六條 本令ニ依リ遞信大臣ニ申請書若ハ届書ヲ提出シ又ハ證書ヲ返還スル場合ニ於テハ主タル營業所在地ヲ管轄スル管海官廳ヲ經由スベシ

第七條 本令中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ之ヲ適用ス

第二章 製造免許

第八條 船用品ニ付製造免許ヲ受ケントスルトキハ標本ニ付合格證明書ノ交付ヲ受ケ船用品製造免許申請書(第一號書式)ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ事業資金額、製造所ノ設備、使用人ノ

ヲ取消サレタルトキ

第十二條 掲グル標本ノ要部ガ當該品ノ試驗規程ノ改正ニ依リ之ニ適合セザルニ至リタルトキ

六 其ノ他遞信大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ

第十一條 遞信大臣船用品ノ製造ヲ免許シタルトキ又ハ製造免許ヲ取消シタルトキハ之ヲ告示ス

第十二條 免許製造人ハ製造免許船用品ノ型式毎ニ合格證明書ノ交付ヲ受ケタル標本ヲ各製造所ニ保管シ且第二十條ノ規定ニ依リ製造免許船用品檢定ヲ受ケントスル遞信管船局船舶試驗所(以下單ニ船舶試驗所ト稱ス)、船舶試驗所支所又ハ管海官廳ニ差出スベシ

前項ノ規定ニ依リ保管シ又ハ差出シタル標本ガ滅失又ハ損傷シタルトキハ免許製造人ハ更ニ標本ヲ當該製造所ニ保管シ又ハ當該船舶試驗所、船舶試驗所支所若ハ管海官廳ニ差出スベシ

第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ差出シタル標本ハ第二十条各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ之ヲ還付ス

第十三條 免許製造人ハ製造免許船用品ノ標本ノ合格證明書ニ附屬セル明細書寫(通數ハ其ノ都度指定ス)ヲ船舶試驗所ニ差出スベシ

員數、會社其ノ他ノ法人ニ在リテハ定款又ハ之ニ準ズベキモノ及代表者ノ氏名ヲ記載シタル書類並ニ當該船用品ノ合格證明書ノ寫ヲ添付スベシ

榴彈、火箭、信號青焰、信號紅焰、救命胴衣、救命焰又ハ救命索發射器ニ關スル申請書ニハ第二十二條ノ規定ニ依ル說明書ヲモ添付スベシ尙榴彈、火箭、信號青焰、信號紅焰又ハ救命索發射器ニ關スル申請書ニハ銃砲火藥類取締法ニ依リ火藥類ノ製造ニ關スル許可ヲ受ケタルコトヲ證明スル書類ノ寫ヲモ添付スベシ

第九條 遞信大臣前條ノ申請ニ依リ船用品ノ製造ヲ免許シタルトキハ船用品製造免許證書(第二號書式)ヲ申請人ニ交付ス

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遞信大臣ハ製造免許ヲ取消スコトアルベシ

- 一 本令ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二 標本又ハ製造品ニ關シ不正ノ所爲アリタルトキ
- 三 製造所ノ設備ノ變更其ノ他ノ事由ニ依リ製造免許船用品ノ製造ヲ爲スニ適セズト認ムルニ至リタルトキ
- 四 銃砲火藥類取締法ニ依ル火藥類ノ製造ニ關スル許可

第十四條 免許製造人ハ製造品毎ニ當該官吏ノ適當ト認ムル方法ニ依リ船燈、信號器又ハ救命器具ニ在リテハ其ノ品名、型式、製造番號、製造人ノ氏名又ハ名稱及製造年月ヲ、船燈部分品ニ在リテハ製造番號及製造人ノ記號ヲ、救命索ニ在リテハ其ノ品名、型式、寸法、製造番號、製造人ノ氏名又ハ名稱及製造年月ヲ標示スベシ

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ免許製造人ハ船用品製造免許證書ノ書換ヲ遞信大臣ニ申請スベシ

- 一 氏名又ハ名稱ヲ變更シタルトキ
- 二 主タル營業所ヲ移轉シタルトキ
- 三 主タル營業所ニ付行政區劃ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキ

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ免許製造人ハ遞信大臣ニ之ニ届出ツベシ

- 一 事業資金額ヲ變更シタルトキ
- 二 會社其ノ他ノ法人ニ在リテハ定款若ハ之ニ準ズベキモノ又ハ代表者ヲ變更シタルトキ
- 三 營業所(主タル營業所ヲ除ク)若ハ製造所ヲ移轉若ハ増減シ又ハ製造所ノ設備ヲ變更シタルトキ
- 四 銃砲火藥類取締法ニ依ル火藥類ノ製造ニ關スル許可

ヲ取消サレタルトキ

第十七條 免許製造人が死亡シタルトキハ其ノ相續人ニ限リ其ノ製造繼續スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ製造ヲ繼續セントスルトキハ相續ヲ證明スル書類ヲ添テ船用品製造免許證書ノ書換ヲ遞信大臣ニ申請スベシ

第十八條 船用品製造免許證書ヲ滅失若ハ毀損シタルトキハ當該免許製造人ハ船用品製造免許證書ノ再交付ヲ遞信大臣ニ申請スベシ

第十九條 免許製造人第十五條、第十七條又ハ前條ノ規定ニ依リ船用品製造免許證書ノ交付ヲ受クルトキハ之ト引換ニ舊證書ヲ遞信大臣ニ返還スベシ

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ免許製造人又ハ船用品製造免許證書ノ保管者ハ其ノ事由ヲ具シ遲滞ナク船用品製造免許證書ヲ遞信大臣ニ返還スベシ

- 一 船用品製造免許期間満了シタルトキ
- 二 免許製造人廢業シタルトキ
- 三 免許製造人ノ相續人製造ヲ繼續セザルトキ
- 四 製造免許ヲ受ケタル法人解散シタルトキ
- 五 製造免許ヲ取消サレタルトキ

ベシ

前項ノ申請書ニハ當該船用品ノ合格證明書ノ寫又ハ船用品検査試験規則ニ依ル船用品検査試験成績書ノ寫ヲ添付スベシ

第二十五條 遞信大臣前條ノ申請ヲ適當ト認ムルトキハ當該船用品ノ型式ヲ承認ス

第二十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遞信大臣ハ型式承認ヲ取消スコトアルベシ

- 一 型式承認ヲ受ケタル船用品ノ要部ガ當該品ノ試験規程ノ制定又ハ改正ニ依リ之ニ適合セザルニ至リタルトキ
- 二 其ノ他遞信大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ

第二十七條 遞信大臣船用品ノ型式ヲ承認シタルトキ又ハ型式承認ヲ取消シタルトキハ之ヲ告示ス

第四章 檢 定

第二十八條 製造免許船用品檢定又ハ型式承認船用品檢定ヲ受ケントスルトキハ申請書(第五號書式又ハ第六號書式)ヲ現品ト共ニ船舶試験所、船舶試験所支所又ハ製造所(當該船用品ガ輸入品ナルトキハ營業所)所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ提出スベシ但シ型式承認船用品檢定ノ

船用品取締規則

第二十一條 免許製造人ハ其ノ製造品ニ付製造所毎ニ每三月中ノ製造販賣高統計表(第三號書式)ヲ作成シ翌月十日迄ニ當該製造所所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ届出ヅベシ

第二十二條 第一條ニ定ムル船用品ヲ販賣スルニ當リテハ船燈ニ在リテハ一箇毎ニ船燈檢定證明書一通ヲ、榴彈ニ在リテハ十二箇又ハ其ノ未滿毎ニ略圖ヲ附シタル使用法說明書一通及打上臺一箇ヲ、火箭、信號青焰又ハ信號紅焰ニ在リテハ十二箇又ハ其ノ端數毎ニ略圖ヲ附シタル使用法說明書一通ヲ、救命胴衣ニ在リテハ二十箇又ハ其ノ端數毎ニ圖解ヲ附シタル著用法說明書一通ヲ、救命船ニ在リテハ一箇毎ニ又救命索發射器ニ在リテハ一組毎ニ各略圖ヲ附シタル使用法說明書一通ヲ添付スベシ

第二十三條 第一條ニ定ムル船用品ニシテ合格證明書ヲ有スルモノヲ販賣スルニ當リテハ船燈ニ在リテハ一箇毎ニ合格證明書ヲ添付スベシ其ノ他ノモノニ在リテハ前條ノ規定ヲ準用ス

第三章 型式承認

第二十四條 船用品ニ付型式承認ヲ受ケントスルトキハ船用品型式承認申請書(第四號書式)ヲ遞信大臣ニ提出ス

場合現品ヲ差出シ難キトキハ當該官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り現品ノ所在地ニ於テ検査ヲ受クルコトヲ得

前項ノ場合第一條ニ定ムル船燈ニ付テハ一箇毎ニ標本ノ合格證明書ニ附屬セル明細書寫ニ製造番號及製造年月ヲ記載シタルモノヲ添付スベシ

第二十九條 前條第一項但書ニ依リ検査ヲ受クル者ハ當該官廳ノ指定スル所ニ從ヒ該船用品検査ノ爲當該官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納付スベシ

第三十條 船用品修繕檢定ヲ受ケントスルトキハ申請書(第七號書式)ヲ現品ト共ニ船舶試験所、船舶試験所支所又ハ最寄管海官廳ニ提出スベシ此ノ場合第一條ニ定ムル船燈ニ在リテハ其ノ合格證明書又ハ船燈檢定證明書ヲ添付スベシ

第三十一條 第二十八條及前條ノ申請アリタルトキハ船舶試験所、船舶試験所支所又ハ管海官廳ハ現品ヲ検査シ當該船用品ノ試験規程又ハ型式承認ニ適合スト認メタルトキハ左ノ各號ノ一ニ依リ之ヲ處理ス

- 一 製造免許船用品又ハ型式承認船用品ノ檢定ノ場合ニ於テハ現品ニ檢印(別記雛形)ヲ附シ之ヲ申請人ニ還

付シ尙第一條ニ定ムル船燈ニ在リテハ一箇毎ニ船燈檢定證明書(第八號書式)ヲ、型式承認船用品ニ在リテハ型式承認船用品檢定證明書(第九號書式)ヲ申請人ニ交付ス

二 船用品修繕檢定ノ場合ニ於テハ第三十五條第一項ノ規定ニ依リ檢印ノ效力ヲ停止セラレタル現品ハ更ニ之ニ檢印ヲ附シタル上、其ノ他ノモノハ其ノ儘之ヲ申請人ニ還付シ尙第一條ニ定ムル船燈ニ在リテハ其ノ合格證明書又ハ船燈檢定證明書ノ裏面ニ修繕檢定年月日及修繕箇所ヲ記載シ當該官吏捺印ノ上之ヲ申請人ニ還付ス

船用品修繕檢定ニ於テ現品ガ當該船用品ノ試驗規程ニ適合セズト認メタルトキハ複線ヲ以テ檢印ヲ抹消シ之ヲ申請人ニ還付シ尙第一條ニ定ムル船燈ニ在リテハ其ノ合格證明書又ハ船燈檢定證明書ニ消印ノ上之ヲ申請人ニ還付ス

第三十二條 船燈檢定證明書ヲ滅失又ハ毀損シタル場合ニ於テハ船燈檢定證明書再交付申請書(第十號書式)ヲ船舶試驗所、船舶試驗所支所又ハ最寄管海官廳ニ提出シ船燈檢定證明書ノ再交付ヲ受クルコトヲ得

印ヲ取消シタルトキハ其ノ合格證明書又ハ船燈檢定證明書ニ消印ヲ捺シ檢印ノ效力ヲ停止シタルトキハ其ノ旨合格證明書又ハ船燈檢定證明書ノ裏面ニ記載シ當該官吏捺印スベシ

第三十六條 當該官吏ハ第三十四條ノ監査又ハ檢査ノ爲必要素ト認ムルトキハ第一條又ハ第三條ニ定ムル船用品ヲ提出セシメ之ヲ試驗ニ供スルコトヲ得

第六章 手数料

第三十七條 船用品製造免許證書ノ交付、再交付又ハ書換ヲ受クルトキハ證書一通ニ付手数料二圓ヲ、船燈檢定證明書ノ再交付ヲ受クルトキハ證書一通ニ付手数料二十錢ヲ納付スベシ但シ第十五條第三號ニ該當シ船用品製造免許證書ノ書換ヲ爲ス場合ニハ手数料ヲ徴収セズ

第三十八條 船用品ノ檢定ヲ受クルトキハ檢定品一箇ニ付別表ニ定ムル手数料ヲ納付スベシ
第三條第二項ノ規定ニ依ル型式承認船用品ノ檢定手数料ハ其ノ都度之ヲ定ム

第三十九條 手数料ハ其ノ金額ニ相當スル収入印紙ヲ手数料納付書(第十二號書式)ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ
第四十條 本章ノ規定ニ依ル手数料ハ官廳又ハ公共團體ニ

船用品取締規則

前項ノ再交付ヲ受クルコト能ハザルトキハ船燈再檢定申請書(第十一號書式)ヲ船舶試驗所又ハ船舶試驗所支所ニ提出シ現品ノ再檢定ヲ受クルコトヲ得

第三十三條 前條第二項ノ申請アリタルトキハ船舶試驗所又ハ船舶試驗所支所ハ現品ヲ檢査シ船燈試驗規程ニ適合スト認メタルトキハ更ニ檢印ヲ附シ且船燈檢定證明書ヲ交付シ現品ガ船燈試驗規程ニ適合セズト認メタルトキハ複線ヲ以テ檢印ヲ抹消シ之ヲ申請人ニ還付ス

第五章 監査

第三十四條 船舶試驗所、船舶試驗所支所又ハ管海官廳ハ隨時當該官吏ヲシテ免許製造人又ハ型式承認船用品製造人ノ營業所若ハ製造所ニ就キ第十條又ハ第二十六條ノ適用ニ關シ必要ナル監査ヲ爲サシメ若ハ船舶ニ就キ第一條及第三條ニ定ムル船用品ノ檢査ヲ爲サシムルコト

第三十五條 當該官吏ハ前條ノ監査又ハ檢査ニ當リ船用品ガ其ノ試驗規程又ハ型式承認ニ適合セズト認ムルトキハ複線ヲ以テ檢印ヲ抹消スベシ但シ第一條ニ定ムル船用品ニシテ修繕ノ上當該品ノ試驗規程ニ適合スル見込アルモノニ付テハ檢印ニ單線ヲ附シ其ノ效力ヲ停止スベシ
第一條ニ定ムル船燈ニ在リテハ前項ノ規定ニ依リ其ノ檢

對シテハ之ヲ徴収セズ

第七章 罰則

第四十一條 第一條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一條第二項、第二條第一項又ハ第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第十四條、第二十條又ハ第二十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第四十二條 前條ノ規定ニ依リ處罰セラレベキ者其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者、禁治產者又ハ法人ナルトキハ其ノ者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

附 則

第四十三條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十四條 昭和四年六月逡信省令第十八號船燈信號器救命具取締規則(以下單ニ舊取締規則ト稱ス)ハ之ヲ廢止ス

第四十五條 本令施行前舊取締規則ノ罰則ニ觸ルル行爲ヲ爲シタル者ニ付テハ仍舊取締規則ニ依ル

防 毒 面	分 部 品	消 火 器	消 火 器	火 災 警 報 裝 置	火 災 警 報 裝 置	火災				甲 種 船 口 覆 布	乙 種 船 口 覆 布	
						電 氣 「 サ ー モ ス タ ツ ト 」	空 氣	警 報 器	檢 査 器			探 知 器
○・三〇	吸 收 罐	持 運 式 （ 携 帶 用 ） 液 體 消 火 器	持 運 式 （ 携 帶 用 ） 泡 消 火 器	移 動 式 泡 消 火 器	封 緘 裝 填 物	五〇〇	○・二〇	○・二〇	○・二〇	○・二〇	○・二〇	○・二〇

第二號

救 命 器 具	救 命 器 具	救 命 器 具	救 命 器 具	救 命 器 具	船 燈 分 部 品	船 燈	信 號 燈	品 名	型 式 承 認 船 用 品 檢 定 手 數 料
○・二〇	○・二〇	○・二〇	○・二〇	○・二〇	無 色 圓 筒 形 硝 子	安 信	全 號	無 色 圓 筒 形 硝 子	○・三〇

救 命 器 具	救 命 器 具	救 命 器 具	救 命 器 具	救 命 器 具	救 命 器 具	救 命 器 具	救 命 器 具	救 命 器 具	救 命 器 具
○・〇五	○・〇五	○・〇五	○・〇五	○・〇五	○・〇五	○・〇五	○・〇五	○・〇五	○・〇五

船口	布	地	〇・一〇
覆布			
部分			

備考

- 一 電線式「サーモスタット」ニ在リテハ其ノ電線ノ長サ五メートル又ハ其ノ端數ヲ一箇ト看做ス
- 二 空氣管ニ在リテハ之ヲ連續セルモノトシ其ノ長サ五メートル又ハ其ノ端數ヲ一箇ト看做ス
- 三 布地ニ在リテハ其ノ長サ五〇メートル又ハ其ノ端數ヲ一箇ト看做ス

第一號書式

船用品製造免許申請書

- 一 船用品ノ品名及型式
 - 二 營業所ノ位置及名稱
 - 三 製造所ノ位置及名稱
 - 四 船用品合格證明書ノ番號及交付年月日
- 右船用品取締規則第一條第一項ニ依リ船用品製造免許申請候也

年 月、日

逓信大臣宛

主タル營業所

申請人 氏

名 印

第二號書式

第 號

船用品製造免許證書

- 一 船用品ノ品名及型式
- 二 標本ノ船用品合格證明書ノ番號及交付年月日
- 三 免許期間

右船用品取締規則ニ依リ免許ス

年 月 日

主タル營業所

氏

名

逓信大臣 氏

名 印

第三號書式

- 一 自 年 月 日 至 年 月 日 三月中製造免許船用品製造販賣高統計表
- 二 製造所ノ位置及名稱

船用品製造 免許證書番號	船用品ノ 品名及型式	前期繰越箇數	製造箇數		販賣箇數	本期末現存箇數	一箇ノ代價	
			合格	不合格			卸賣	小賣

船用品取締規則

六 船用品取締規則第二十八條第一項但書ノ規定ニ依リ現品ノ所在地ニ於テ検査ヲ受ケントスルトキハ其ノ場所
右船用品取締規則第三條第三項ニ依リ型式承認船用品檢定申請候也
年 月 日

主タル營業所

申請人

氏

名 印

遞信省管船局船舶試驗所(又ハ同支所若ハ管海官廳)宛

第七號書式

船用品修繕檢定申請書

- 一 船用品製造免許證書ノ番號
- 二 船用品合格證明書ノ番號
- 三 船用品ノ品名、型式及箇數
- 四 修繕ノ箇所
- 五 修繕ノ年月
- 六 備付船舶ノ番號、種類、名稱、總噸數及所有者ノ氏名又ハ名稱
- 七 船用品取締規則第二條第一項但書ニ依ルモノニ在リテハ其ノ事由
- 八 右船用品取締規則第一條第二項、第二條第三項ニ依リ船用品修繕檢定申請候也

主タル營業所又ハ住所(當該官廳ヨリ通知ヲ受クベキ場所)

申請人

氏

名 印

遞信省管船局船舶試驗所(又ハ同支所若ハ管海官廳)宛

第八號書式

(何船檢又ハ何海檢)第 號

船燈檢定證明書

- 一 船用品製造免許證書ノ番號
- 二 船燈ノ品名及型式
- 三 製造人ノ主タル營業所及氏名又ハ名稱
- 四 製造所ノ位置及名稱
- 五 製造年月
- 六 製造番號
- 七 檢定成績 別記明細書ノ通
- 八 右船用品取締規則ニ依リ檢定シタル結果船燈試驗規程ニ適合スルモノト認ム

年 月 日

遞信省管船局船舶試驗所(又ハ同支所若ハ管海官廳)名印

第九號書式

(何船檢又ハ何海檢)第 號

型式承認船用品檢定證明書

- 一 船用品型式承認番號
- 二 船用品ノ品名、型式及箇數
- 三 檢定申請者ノ主タル營業所及氏名又ハ名稱
- 四 船用品取締規則

- 四 製造所ノ位置及名稱
- 五 製造年月
- 六 製造番號

右船用品取締規則ニ依リ檢定シタル結果承認型式ニ適合スルモノト認ム

遞信省管船局船舶試驗所(又ハ同支所若ハ管海官廳)名印

第十號書式

船燈檢定證明書再交付申請書

- 一 船用品製造免許證書ノ番號
 - 二 船燈ノ品名及型式
 - 三 製造人ノ氏名又ハ名稱
 - 四 製造年月
 - 五 製造番號
 - 六 檢定官廳
 - 七 再交付申請ノ事由
- 右船用品取締規則第三十二條第一項ニ依リ船燈檢定證明書再交付申請候也

住所(當該官廳ヨリ通知ヲ受クベキ場所)

申請人 氏

名 印

遞信省管船局船舶試驗所(又ハ同支所若ハ管海官廳)宛

第十一號書式

船燈再檢定申請書

- 一 船燈ノ品名及型式
- 右船用品取締規則第三十二條第二項ニ依リ船燈再檢定申請候也

住所(當該官廳ヨリ通知ヲ受クベキ場所)

申請人 氏

名 印

遞信省管船局船舶試驗所(又ハ同支所)宛

第十二號書式

手数料納付書

手 數 料 ノ 種 別	手 數 料 算 定 ノ 基 礎	手 數	料
船用品製造免許證書(交付、再交付、書換)手数料	通 圓	圓	錢
船燈檢定證明書再交付手数料	通 圓	圓	錢
製造免許船用品檢定手数料	通 圓	圓	錢
型式承認船用品檢定手数料	通 圓	圓	錢

右 年 月 日 附申請ノ手数料トシテ納付候也

申請人 氏

名 印

遞信大臣(遞信省管船局船舶試驗所、同支所又ハ管海官廳)宛

船用品取締規則

船用品試験機取締規則

(昭和十二年六月 逓信省令第四十三號)

第一條 船用品試験機ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ(以下試験機ト稱ス)ハ船用品検査試験規則ニ依ル検査及試験ニ合格シ且本令ニ依リ定ムル使用期間内ニ在ラザレバ法令ニ依ル造船機材料、船用品材料又ハ船用品ノ試験ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

- 一 引張試験機
- 二 壓縮試験機
- 三 硬試験機
- 四 衝擊試験機

第二條 前條ノ使用期間ハ試験機ノ現状ニ應ジ船用品検査試験規則ニ依ル検査及試験ニ合格シタル日ヨリ三年ヲ超エザル期間内ニ於テ逓信大臣之ヲ指定ス

第三條 試験機ノ所有者使用期間ノ指定ヲ受ケントスルトキハ船用品試験機使用期間指定申請書(第一號書式)ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

第四條 逓信大臣前條ノ申請ニ依リ使用期間ヲ定メタルト

二 要部ニ修繕又ハ模様換ヲ爲シタルトキ

三 据附換ヲ爲シタルトキ

第九條 逓信大臣必要アリト認メタルトキハ使用期間ノ指定ヲ取消スコトアルベシ

第十條 船用品試験機使用期間指定書ハ使用期間満了シタルトキ、使用期間ノ指定ヲ取消サレタルトキ又ハ使用期間ノ指定ヲ受ケルコトヲ要セザルニ至リタルトキハ當該試験機ノ所有者ハ其ノ旨ヲ具シ遲滞ナク之ヲ逓信大臣ニ返還スベシ使用期間満了前更ニ使用期間ノ指定ヲ受ケタルトキ舊指定書ニ付亦同ジ

第十一條 船用品試験機使用期間指定書ノ再交付又ハ書換ヲ受ケントスルトキハ手数料金一圓ヲ納付スベシ但シ書換ガ行政區畫若ハ土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更ニ基クモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一號書式

船用品試験機使用期間指定申請書

- 一 試験機番號
- 二 種類、型式及秤量
- 三 据附場所

船用品試験機取締規則

キハ船用品試験機使用期間指定書(第二號書式)ヲ申請人ニ交付ス

第五條 船用品試験機使用期間指定書ハ當該試験機据附場所ノ見易キ箇所ニ之ヲ掲ゲ置クベシ

第六條 船用品試験機使用期間指定書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ當該試験機ノ所有者ハ再交付申請書(第三號書式)ヲ逓信大臣ニ提出シテ其ノ再交付ヲ受クベシ毀損ニ因ル場合ニ於テハ毀損シタル船用品試験機使用期間指定書ハ申請書ニ之ヲ添附スベシ

第七條 試験機左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當該試験機ノ所有者ハ書換申請書(第四號書式)ニ船用品試験機使用期間指定書ヲ添附シ之ヲ逓信大臣ニ提出シテ其ノ書換ヲ受クベシ

一 所有者ノ住所、氏名若ハ名稱ノ變更アリタルトキ
二 据附場所ニ付行政區畫若ハ土地ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキ

第八條 試験機左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ使用期間内ト雖モ其ノ使用期間ノ指定ハ之ヲ取消サレタルモノト看做ス

一 要部ニ故障其ノ他ノ異狀ヲ生ジタルトキ

前項ノ手数料ハ之ニ相當スル收入印紙ヲ手数料納付書(第五號書式)ニ貼附シテ之ヲ納付スベシ

第十二條 逓信省管船局船舶試験所、船舶試験所支所又ハ管海官廳ハ隨時當該官吏ヲシテ試験機ニ付監査ヲ爲サシムルコトヲ得

附 則

本令ハ昭和十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前三年内ニ船用品検査試験規則ニ依リ船用品合格證明書(硬試験機又ハ衝擊試験機ニ在リテハ船用品合格證明書又ハ船用品検査試験成績書)ノ交付ヲ受ケタル船用品試験機ハ本令施行後三月内ニ使用期間ノ指定ヲ申請シタルモノニ限り其ノ申請ノ日ヨリ當該申請ニ對シ決定ヲ受ケタル迄本令ニ依ル使用期間ノ指定ヲ受ケタルモノト看做ス

- 四 製造者ノ氏名又ハ名稱
 - 五 製造年月
 - 六 船用品検査試験規則ニ依ル合格證明書ノ證書番號及交付年月日
- 右船用品試験機取締規則第三條ニ依リ申請候也
- 年 月 日

住所

申請人 氏

名 印

遞信大臣 宛

備考 本申請書ハ第六號ノ合格證明書ノ交付ヲ受ケタル船舶試験所、船舶試験所支所又ハ船舶試験所分室ニ差出スベシ

第二號書式

第 號

船用品試験機使用期間指定書

- 一 試験機番號
- 二 種類、型式及秤量
- 三 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 四 据附場所
- 五 製造者ノ氏名又ハ名稱

六 製造年月

七 使用期間 自 年 月 日 至 年 月 日

船用品試験機取締規則第四條ニ依リ本書ヲ交付ス

年 月 日

遞信大臣 氏

名 印

第三號書式

船用品試験機使用期間指定書再交付申請書

- 一 試験機番號
 - 二 種類、型式及秤量
 - 三 再交付申請事由
- 右船用品試験機取締規則第六條ニ依リ再交付申請候也
- 年 月 日

住所

申請人 氏

名 印

遞信大臣 宛

船用品試験機取締規則

第四號書式

船用品試験機使用期間指定書書換申請書

- 一 試験機番號
- 二 種類、型式及秤
- 三 書換事項

右船用品試験機取締規則第七條ニ依リ書換申請候也

年 月 日

逓信大臣宛

住所

申請人 氏

名 印

第五號書式

手 數 料 納 付 書

手 數 料 金 額 壹 圓 也

右船用品試験機取締規則第十一條ニ依リ納付候也

年 月 日

逓信大臣宛

住所

申請人 氏

名 印

船用品検査試験規則

(大正九年九月 逓信省令第七十五號)

改正 昭和十三年九月 逓信省令第七十號

第一條 本令ニ依リ検査又ハ試験ヲ爲スベキ物品ノ種類及検査又ハ試験ノ種別ハ別表ノ定ムル所ニ依ル但シ別表所定以外ノ船用品ノ検査又ハ試験ニ在リテモ事務ノ都合ニ依リ之ガ依頼ニ應ズルコトアルベシ

第二條 本令ニ依ル検査又ハ試験ハ別表ノ定ムル所ニ依リ逓信省管船局船舶試験所又ハ其ノ支所ニ於テ之ヲ行フ但シ逓信省管船局船舶試験所又ハ其ノ支所ハ事務ノ都合ニ依リ別表ニ拘ハラズ検査又ハ試験ノ依頼ニ應ズルコトアルベシ

第三條 船用品ノ検査又ハ試験ヲ依頼セムトスル者ハ検査品又ハ試験品ト共ニ依頼書(第一號書式)ヲ其ノ検査又ハ試験ヲ受ケムトスル逓信省管船局船舶試験所又ハ其ノ支所ニ提出シ検査試験手数料及合格證明書又ハ成績書交付手数料ヲ納付スベシ但シ検査品又ハ試験品ヲ提出シ難

船用品検査試験規則

キトキハ逓信省管船局船舶試験所又ハ其ノ支所ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り該検査品又ハ試験品ノ所在地ニ於テ検査又ハ試験ヲ受クルコトヲ得

前項但書ニ依リ検査又ハ試験ヲ受クル者ハ逓信省管船局船舶試験所又ハ其ノ支所ノ指定スル所ニ從ヒ當該官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納付スベシ

第一項但書ノ規定ニ依リ検査又ハ試験ノ依頼アリタル場合逓信省管船局船舶試験所又ハ其ノ支所ハ管海官廳ニ囑託シテ検査又ハ試験ヲ行フコトアルベシ

第四條 検査又ハ試験ヲ依頼セムトスル者ニ於テ必要ト認メタルトキハ検査品又ハ試験品ニ説明書、仕様書又ハ圖面ヲ添附スベシ

逓信省管船局船舶試験所又ハ其ノ支所ニ於テ必要ト認メタルトキハ検査品若ハ試験品ヲ追加提出セシメ又ハ説明書、仕様書若ハ圖面ヲ提出セシムルコトアルベシ

第五條 特ニ急速ニ試験又ハ検査ノ施行ヲ必要トシ依頼書ニ其ノ旨ヲ記載シテ提出スル者アルトキハ事務ノ都合ニ依リ之ニ應ズルコトアルベシ

第六條 逓信大臣ノ定ムル検査又ハ試験ニ關スル規程ニ依ル検査又ハ試験ヲ依頼シタル船用品ニシテ該規程ニ合格

スレモノト認ムルトキハ合格證明書(第二號書式)ヲ交付シ該船用品ニ證明書番號及別記雛形ノ甲號檢印ヲ付ス

遞信大臣ノ定ムル検査又ハ試験ニ關スル規程ニ依ラザル検査又ハ試験ノ依頼アリタル船用品ニ付テハ其ノ結果ヲ表明スル成績書(第三號書式)ヲ交付ス

第一項ノ検査又ハ試験ヲ依頼シタル船用品ニシテ遞信大臣ノ定ムル検査又ハ試験ニ關スル規程ニ合格セザルトキハ成績書(第三號書式)ヲ交付ス

前二項ノ場合ニ在リテハ該船用品ニ成績書番號及別記雛形ノ乙號檢印ヲ付ス

第七條

検査試験手数料ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

特種ノ品賞構造ヲ有スルモノ又ハ検査試験手数料ノ規定ナキモノノ検査試験手数料ハ別表ニ準ジ其ノ都度之ヲ定ム其ノ豫メ手数料ヲ定メ難キモノニ在リテハ検査又ハ試験終了後之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ検査又ハ試験終了後指定ノ手数料ヲ納付スベキ旨ヲ依頼書ニ記入セシム

第五條ノ規定ニ依ル検査又ハ試験ニ付テハ其ノ検査試験手数料ハ前二項ノ規定ニ依ル手数料ノ倍額トス

第八條 船用品合格證明書又ハ船用品検査試験成績書ノ交

付手数料ハ一通ニ付壹圓トス

検査又ハ試験ヲ依頼シタル者合格證明書又ハ成績書ノ復本若ハ抄本ヲ受ケムトスルトキハ申請書第(第四號書式)ヲ其ノ合格證明書又ハ成績書ノ交付ヲ受ケタル遞信省管船局船舶試験所又ハ其ノ支所ニ提出シ復本又ハ抄本ノ交付手数料ヲ納付スベシ

船用品合格證明書又ハ船用品検査試験成績書ノ復本若ハ抄本ノ交付手数料ハ一通ニ付壹圓トス

手数料ハ凡テ之ニ相當スル收入印紙ヲ手数料納付書(第五號書式)ニ貼附シテ納付スベシ

検査又ハ試験ノ依頼ヲ取下グル場合ト雖既ニ検査又ハ試験ニ著手シタルトキハ検査試験手数料ハ之ヲ徴收ス

第九條 検査又ハ試験依頼者ハ検査品又ハ試験品ノ運搬其ノ他検査又ハ試験ヲ行フ爲特種ノ費用ヲ要スルトキハ之ヲ負擔スベシ

第十條 検査品又ハ試験品ノ検査又ハ試験中ノ滅失若ハ毀損ニ因ル損害ニ對シテハ賠償ノ責ニ任ゼズ

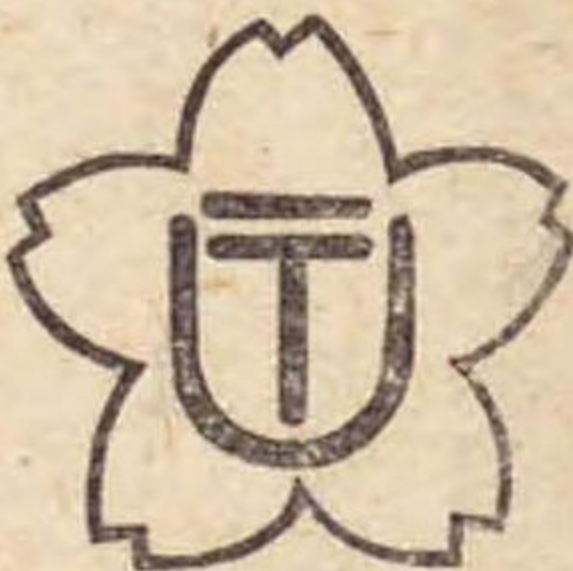
第十一條 遞信省ノ検査又ハ試験ヲ詐稱シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記雛形)

甲 號 檢 印



乙 號 檢 印



本令施行前ノ依頼ニ依ル検査又ハ試験ノ手数料ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第一號書式

船用品検査試験依頼書

検査試験手数料金額

再検査試験手数料金額

合格證明書又ハ成績書交付手数料金額

計

圓 圓 圓 圓
錢 錢 錢 錢

- 一 検査試験品名及數量
 - 二 製造者住所及氏名又ハ名稱
 - 三 製造年月
 - 四 検査試験ノ種別
 - 五 添附書類
 - 六 船用品検査試験規則第三條第一項但書ノ規定ニ依リ検査試験品ノ所在地ニ於テ検査又ハ試験ヲ受ケムトスル
- 船用品検査試験規則

海事法令集

トキハ其ノ場所

右大正九年九月遞信省令第七十五號船用品検査試験規則ニ依リ検査試験依頼候也

年 月 日

遞信大臣宛

住所

依頼者名印

第二號書式

第 號

船用品合格證明書

一 検査試験品名及數量

一 製造者住所及氏名又ハ名稱

一 製造年月

一 検査試験ノ成績 別記明細書ノ通

右検査試験ノ結果 年 月 遞信省令第 號

省令第七十五號船用品検査試験規則第六條ニ依リ本證ヲ交付ス

年 月 日

住所

依頼者名

遞信省印

ニ適合スルモノト認メ大正九年九月遞信

第三號書式

第 號

船用品検査試験成績書

一 検査試験品名及數量

一 製造者住所及氏名又ハ名稱

一 製造年月

一 検査試験ノ成績 別記明細書ノ通

右大正九年九月遞信省令第七十五號船用品検査試験規則第六條ニ依リ本書ヲ交付ス

年 月 日

住所

依頼者名

遞信省印

第四號書式

複本 下付申請書
抄本 手数料金額

圓

一 原本ノ種類 番號及交付年月日

二 検査試験品名

三 複本又ハ抄本ノ數

右複本 下付相成度申請候也

年 月 日

遞信大臣宛

住所

申請者名印

船用品検査試験規則

防 毒 面	救 命 器 具	品 分 部	
		其 他 ノ モ ノ	救 命 索 効 力 試 験
吸 收 罐	救 命 索	同	効 力 試 験
効 力 試 験	効 力 試 験	同	効 力 試 験
防 毒 面 試 験 規 程	防 毒 面 試 験 規 程	同	防 毒 面 試 験 規 程
一 箇 五 〇 〇	一 條 三 〇 〇	一 箇 一 〇 〇	一 箇 五 〇 〇
ハ テ 試 験 品 ノ 箇 數 ヲ 計 算 ス ル ニ シ テ 消 費 ノ 爲 ニ シ テ ハ テ 試 験 品 ノ 箇 數 ヲ 計 算 ス ル ニ シ テ 消 費 ノ 爲 ニ シ テ	ハ テ 試 験 品 ノ 箇 數 ヲ 計 算 ス ル ニ シ テ 消 費 ノ 爲 ニ シ テ ハ テ 試 験 品 ノ 箇 數 ヲ 計 算 ス ル ニ シ テ 消 費 ノ 爲 ニ シ テ	ハ テ 試 験 品 ノ 箇 數 ヲ 計 算 ス ル ニ シ テ 消 費 ノ 爲 ニ シ テ ハ テ 試 験 品 ノ 箇 數 ヲ 計 算 ス ル ニ シ テ 消 費 ノ 爲 ニ シ テ	ハ テ 試 験 品 ノ 箇 數 ヲ 計 算 ス ル ニ シ テ 消 費 ノ 爲 ニ シ テ ハ テ 試 験 品 ノ 箇 數 ヲ 計 算 ス ル ニ シ テ 消 費 ノ 爲 ニ シ テ
船 舶 試 験 所	船 舶 試 験 所	船 舶 試 験 所	船 舶 試 験 所

火 災 警 報 装 置	消 火 器		消 火 器 効 力 試 験	品 分 部
	封 緘 裝 填 物	其 他 ノ モ ノ		
同	同	同	効 力 試 験	同
試 火 災 警 報 装 置 規 程	同	同	消 火 器 試 験 規 程	同
一 箇 三 〇 〇 〇	一 箇 一 〇 〇	一 箇 五 〇 〇	持 運 式 （ 携 帶 用 ） ノ モ ノ 移 動 式 ノ モ ノ	一 箇 一 〇 〇
ス 手 分 ト ザ ル 取 知 檢 出 氣 電 ヲ タ 耗 ハ テ 試 験 品 ノ 箇 數 ヲ 計 算 ス ル ニ シ テ 消 費 ノ 爲 ニ シ テ	同	同	同	同
船 舶 試 験 所	同 船 舶 試 験 所	同 船 舶 試 験 所	同 船 舶 試 験 所	同 船 舶 試 験 所

「スタツド」
有セザル鎖
切斷及牽引試
驗並ニ検査
鎖試験規程

三四二〇八二六	二五二四二二二	二〇一九八七六	一五四三二一
三・六〇〇	二・六〇〇	二・二〇〇	一・八〇〇

備考
一、二、三、五及六

同船
舶試
大阪支
所

一〇九八七六	〇九九八八八 〇七四一八五二	八七七七七 〇八六四二	七六六六六 〇八六四二
一・六〇〇	四四三三三 五・一八四一八五	二・三〇〇 二・一八〇	一・七〇〇 一・六〇〇

「シヤツクル」	切斷及牽引試 驗並ニ検査	鎖試驗規程	試驗荷重一〇噸 又ハ其ノ未滿毎	三六 三八 四〇 四二 四四 四六 四八 五〇	四〇〇 四〇〇 四〇〇 四〇〇 四〇〇 四〇〇 四〇〇 四〇〇	備考 四、五及六	船舶試驗所 同 大阪支所
---------	-----------------	-------	--------------------	--	--	----------	-----------------

備考

- 一 鎖ノ牽引試驗手續料ハ其ノ長サ五メートル未滿ニ對シテハ本表ニ掲グルモノノ四分ノ一トシ一〇メートル未滿ニ對シテハ本表ニ掲グルモノノ半額トス
- 二 鎖ニ所定ノ試驗荷重ヨリ少キ荷重ヲ加ヘテ切斷試驗又ハ牽引試驗ヲ行フトキト雖モ手續料ハ本表及前號ノ規定ニ依ル
- 三 鎖ニ所定ノ試驗荷重ヲ超ユル荷重ヲ加ヘテ切斷試驗(抗張力ノ測定試驗ヲ含ム)又ハ牽引試驗ヲ行フトキハ手續料ハ本表及第一號ノ規定ニ依ルモノニ超過荷重一噸又ハ其ノ未滿毎ニ十錢ヲ加算シタルモノトス
- 四 鎖ニ附屬シタル「シヤツクル」ヲ鎖ニ連結シタル儘牽引試驗ヲ同時ニ行フトキノ手續料ハ當該鎖ノ牽引試驗ニ對スル規定ノ金額ニ止ム
- 五 鎖若ハ「シヤツクル」ノ切斷試驗又ハ鎖ノ牽引試驗ノ再試驗手續料ハ當該試驗手續料ノ半額トス
- 六 古品ノ切斷試驗又ハ牽引試驗ノ手續料ハ本表及前各號ノ規定ニ依ルモノノ二倍トス

第三號

検査試験品種別	検査試験種別	適用規格	手数料算定單位	手数料	參照	取扱試験所名
鋼	索線切斷試驗 索線屈曲試驗		七箇又ハ其ノ未滿 一〇〇〇	一〇〇〇		船舶試驗所 大阪支所
鋼	試驗及検査索試驗規程		索徑 一〇耗以下ノモノ 一〇耗ヲ超エ 二〇耗以下ノモノ 二〇耗ヲ超エ 三〇耗以下ノモノ 三〇耗ヲ超エ 四〇耗以下ノモノ 四〇耗ヲ超エ 五〇耗以下ノモノ 五〇耗ヲ超エ	一條 一條 一條 一條 一條 一條 一條 一條 一條 一條	備考 一、二及三	船舶試驗所 大阪支所
麻	索試驗及検査索試驗規程		七〇耗ヲ超ユルモノ 七〇耗以下ノモノ 四〇耗ヲ超エ 四〇耗以下ノモノ 二〇耗ヲ超エ 二〇耗以下ノモノ 一〇耗ヲ超エ 一〇耗以下ノモノ	一條 一條 一條 一條 一條 一條 一條 一條	備考 一及二	船舶試驗所 大阪支所

綿		索		切斷試験及検査		索徑	
七〇	七五	四〇	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇
耗ヲ超ユルモノ	耗ヲ超ユルモノ	耗ヲ超ユルモノ	耗ヲ超ユルモノ	耗ヲ超ユルモノ	耗ヲ超ユルモノ	耗ヲ超ユルモノ	耗ヲ超ユルモノ
一條	一條	一條	一條	一條	一條	一條	一條
五・〇〇	四・〇〇	三・〇〇	二・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇	一・〇〇
備考		備考		備考		備考	
同 船舶試験所 大阪支所		同 船舶試験所 大阪支所		同 船舶試験所 大阪支所		同 船舶試験所 大阪支所	

備考

- 一 一條ノ長サ二〇〇メートルヲ超ユル索ニ對スル試験及検査手數料ハ本表ニ掲グルモノニ超過二〇〇メートル又ハ其ノ未滿毎ニ三割ヲ加算シタルモノトス
- 二 鋼索ニ所定ノ切斷荷重ノ一・五倍ヲ超ユル荷重ヲ加ヘテ切斷試験（抗張力ノ測定試験ヲ含ム）ヲ行フトキハ手數料ハ本表及前號ノ規定ニ依ルモノノ一・二倍トス
- 三 鋼索素線ノ捲解試験又ハ捻回試験ノ再試験手數料ハ本表ニ掲グル手數料ノ一割トス

第四號

検査試験品種別	検査試験種別	種類	牽引荷重一疋又ハ其ノ未滿毎ニ一箇ノ手數料	參照	取扱試験所名
滑車	牽引試験及検査	單輪 二輪 三輪 四輪 五輪 ダイフエレンシヤル	〇・一五 〇・一八 〇・二一 〇・二五 〇・二八 一・〇〇	備考 一及二	船舶試験所 大阪支所
鈎	牽引試験及検査	單鈎 二鈎	〇・一五 〇・二五	備考 一、二及三	船舶試験所 大阪支所
「ターンバックル」	牽引試験及検査	單目 二目	〇・一五 〇・二五	備考 一及二	船舶試験所 大阪支所

備考

- 一 手數料ハ一箇ニ付最低三圓トス
- 二 同一種類ノモノヲ連結シテ牽引試験ヲ行フトキハ之ヲ一箇ト看做シ手數料ヲ定ムルモノトス
- 三 鎖ニ附屬シタル鈎ヲ鎖ニ連結シタル儘牽引試験ヲ同時ニ行フトキハ之ヲ鎖環ト看做シ第二號表ニ依リ手數料ヲ定ムルモノトス

船用品検査試験規則

検査試験品種別	検査試験種別	適用規格	手数料算定單位	手数料	参照	取所扱名試
引張試験機 又ハ壓縮試験機	試験及検査	船用品試験規程	秤量 一吨以下ノモノ 一吨ヲ超エ 五吨以下ノモノ 一吨ヲ超エ 一〇〇〇円	一〇〇〇 二〇〇〇 四〇〇〇 六〇〇〇 八〇〇〇 一〇〇〇〇 一二〇〇〇 一四〇〇〇 一六〇〇〇 一八〇〇〇 二〇〇〇〇 二二〇〇〇 二四〇〇〇 二六〇〇〇 三〇〇〇〇	備考一及四	同船舶試験所 大阪支所

検査試験品種別	検査試験種別	適用規格	手数料算定單位	手数料	参照	取所扱名試
硬試験機	試験及検査	船用品試験規程	秤量 一吨以下ノモノ 一吨ヲ超エ 五吨以下ノモノ 一吨ヲ超エ 一〇〇〇円	一〇〇〇 二〇〇〇 四〇〇〇 六〇〇〇 八〇〇〇 一〇〇〇〇 一二〇〇〇 一四〇〇〇 一六〇〇〇 一八〇〇〇 二〇〇〇〇 二二〇〇〇 二四〇〇〇 二六〇〇〇 三〇〇〇〇	備考二及四	同船舶試験所 大阪支所
衝撃試験機	試験及検査	船用品試験規程	秤量 一吨以下ノモノ 一吨ヲ超エ 五吨以下ノモノ 一吨ヲ超エ 一〇〇〇円	一〇〇〇 二〇〇〇 四〇〇〇 六〇〇〇 八〇〇〇 一〇〇〇〇 一二〇〇〇 一四〇〇〇 一六〇〇〇 一八〇〇〇 二〇〇〇〇 二二〇〇〇 二四〇〇〇 二六〇〇〇 三〇〇〇〇	備考四	同船舶試験所 大阪支所
材料定試験器	試験及検査	船用品試験規程	秤量 一吨以下ノモノ 一吨ヲ超エ 五吨以下ノモノ 一吨ヲ超エ 一〇〇〇円	一〇〇〇 二〇〇〇 四〇〇〇 六〇〇〇 八〇〇〇 一〇〇〇〇 一二〇〇〇 一四〇〇〇 一六〇〇〇 一八〇〇〇 二〇〇〇〇 二二〇〇〇 二四〇〇〇 二六〇〇〇 三〇〇〇〇	備考三及四	同船舶試験所 大阪支所

第四條 著色透鏡ハ著色硝子ヲ以テ成ル可ク薄ク製造シ外面ハ球形ト爲シ内面ニハ中央ニ一箇ノ凸形ヲ設ケ其ノ周圍ニ九帶ノ折形ヲ設クベシ

著色透鏡ノ形狀ハ透鏡ノ中央截面ノ中心ニ於ケル燈火ヲ該面ノ各側五度ノ範圍ニ集束スルモノナルコトヲ要ス著色透鏡ノ中央截面ノ形狀ハ各截面ニ於テ差異ナキモノナルコトヲ要ス

著色透鏡ノ徑ノ公差ハ正負〇・五ミリメートルトス

第五條 圓筒形ノ燈窓硝子及著色挿入硝子ノ厚サ、高サ及横截面内半径ノ公差ハ各正負〇・五ミリメートルトシ無色棗形硝子及無色球形硝子ノ厚サノ公差ハ正負一ミリメートルトス

第六條 著色燈窓硝子、著色挿入硝子及著色透鏡ハ適當ナル色調ヲ有シ濃度ニ不同ナク且一〇%乃至一五%ノ全透率ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第七條 船燈各部ノ構造寸法ニシテ本令ニ規定ナキモノニ付テハ當該官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第八條 本令ノ規定ニ該當セザル船燈ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限り之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

油壺ニハ氣孔ヲ有スル注油栓ヲ裝置シ且油壺ノ内部ニハ燈油ノ動搖ヲ防グ裝置ヲ設クベシ

第十二條 火口ノ形狀ハ一字形ニシテ第一表ニ掲グル幅ノ平燈心ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

第十三條 油壺及口金ノ挿入裝置ハ口金ヲ裝置シタル油壺ヲ燈籠ニ挿入スルトキ火口ガ正規ノ位置外ニ止マル虞ナキモノナルコトヲ要ス

第十四條 石油燈ニハ燈筒ヲ使用スベシ

燈筒ハ無色透明ナル良質ノ硝子ヲ以テ成ル可ク薄ク且厚サニ不同ナク製造シ形狀及寸法ハ當該官吏ニ於テ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

第十五條 反射鏡ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザル限り大形ト爲シ其ノ表面ハ燈火ノ最輝點ヲ中心トスル球面ノ一部ニシテ十分磨キタル後銀色鍍ヲ施シタルモノナルコトヲ要ス但シ乙種兩色燈及操舵目標燈ノ反射鏡ノ表面ハ圓筒形ト爲スコトヲ得

第十六條 油船燈ニハ石油ヲ使用スベシ但シ丁種白燈及操

第二章 油 船 燈

第一節 通 則

第九條 燈籠ハ口金及燈筒ヲ裝置シタル油壺ヲ挿入シ得ルモノナルコトヲ要ス

煙筒ハ火口ノ直上ニ設クベシ

燈窓ニ堅ニ取附クル梓棒ハ火口ヲ延長線上ニ置クコトヲ得ズ

第十條 船燈ハ無風高氣温ノ場合ニ於テモ通氣十分ニシテ燈火ガ不同ナク十分ニ燃照スル構造ノモノナルコトヲ要ス

船燈ハ風又ハ船舶ノ動搖等ニ依リ油煙ヲ生ズルコトナク又消火セザル様通氣孔ノ大サ及配置ヲ適當ニシ且飛沫ノ浸入ニ依リ光度ニ影響ヲ及ボスコトナキ構造ノモノナルコトヲ要ス

第十一條 油壺ハ燈火ガ信號燈及安全燈ニ在リテハ五時間以上、乙種兩色燈、丁種白燈及操舵目標燈ニ在リテハ八時間以上、其ノ他ノ船燈ニ在リテハ一六時間以上繼續シテ完全ニ燃照シ得ル油量ヲ貯ヘ得ルモノナルコトヲ要ス

油壺ノ形狀ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

舵目標燈ニハ種油ヲ使用スルコトヲ得

第十七條 油船燈各部ノ寸法ハ第一表ニ依ル

第十八條 水先燈ノ構造及寸法ハ本節ノ規定ニ依ルノ外當該官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二節 檣 燈

第十九條 燈窓ニハ甲種檣燈ニ在リテハ無色透鏡ヲ、乙種檣燈ニ在リテハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第二十條 燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ縁ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト一・二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第二十一條 火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ後縁ノ中央ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第二十二條 口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後甲種檣燈ニ在リテハ一〇燭光以上、乙種檣燈ニ在リテハ七燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第二十三條 檣燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第二十四條 檣燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈蓋ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ梓棒ヲ取附クベシ

第三節 舷 燈

第二十五條 甲種舷燈ノ燈窓ニハ無色透鏡ヲ裝置シ其ノ内

面ニ接シ左舷燈ニ在リテハ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷燈ニ在リテハ綠色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

乙種舷燈ノ燈窓ニハ左舷燈ニ在リテハ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷燈ニ在リテハ綠色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第二十六條

燈窓硝子ノ後部留金ノ縁ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ燈籠ノ側面ト一・二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

燈窓硝子ノ前部留金ノ縁ヨリ燈籠ノ側面ニ至ル距離ハ該側面ヨリ火口ノ中心ニ至ル距離ヨリ一五ミリメートル以上小ナルコトヲ要ス

第二十七條

著色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子が正規ノ位置外ニ止マル虞ナク且左舷燈用ノ硝子ヲ右舷燈ニ、右舷燈用ノ硝子ヲ左舷燈ニ挿入シ得ザル構造ト爲スベシ

著色挿入硝子ニハ金屬製ノ枠ヲ取附クベシ

著色挿入硝子ノ金屬枠及挿入裝置ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

第二十八條

油壺ノ挿入裝置ハ左舷燈用ノ油壺ヲ右舷燈燈ニ、右舷燈用ノ油壺ヲ左舷燈ニ挿入シ得ザル構造ト爲スベシ

第三十六條

燈窓硝子ノ前面中央ニハ堅ニ隔障ヲ設クベシ隔障ハ燈籠ノ前面ニ銀附ト爲スベシ

甲種兩色燈ノ燈窓硝子ノ前部留金ノ幅ハ隔障中心ヨリ測リ左右各四ミリメートルヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十七條

火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ後縁ノ中央ヲ甲種兩色燈ニ在リテハ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ、乙種兩色燈ニ在リテハ著色透鏡ノ焦點ヲ過ギル垂直軸上ニ置クベシ

第三十八條

口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ甲種兩色燈ニ在リテハ一六時間繼續燃照後五燭光以上、乙種兩色燈ニ在リテハ八時間繼續燃照後三燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第三十九條

兩色燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第五節 白 燈

第四十條

燈窓ニハ甲種白燈ニ在リテハ無色透鏡又ハ無色圓筒形硝子ヲ、乙種白燈及丙種白燈ニ在リテハ無色球形硝子ヲ、丁種白燈ニ在リテハ無色球形硝子ヲ裝置スベシ

第四十一條

火口ハ其ノ中心ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第四十二條

口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續

第二十九條

火口ハ燈籠ノ側面ト一・二・五度ノ角度ヲ爲ス方向ニ置キ且火口ノ後縁ノ中央ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第三十條

口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後甲種舷燈ニ在リテハ一〇燭光以上、乙種舷燈ニ在リテハ五燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第三十一條

燈籠側部ノ掛具及隔板ニ取附クル突起金具ノ形狀及寸法ハ第一圖ニ依ル

第三十二條

舷燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第三十三條

甲種舷燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈蓋ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ枠ヲ取附クベシ

第三十四條

甲種兩色燈ノ燈窓ニハ左舷側ニ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷側ニ綠色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第三十五條

甲種兩色燈ノ各側ノ燈窓硝子ノ後部留金ノ縁ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト一・二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第四十三條

甲種白燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈蓋ト下部燈胴トノ間ニ、其ノ他ノ白燈ニハ上部燈胴ト下部燈胴トノ間ニ金屬製ノ枠ヲ取附クベシ

第四十四條

油壺ヲ燈底ヨリ挿入スル白燈ニ在リテハ油壺ノ逸脱ヲ防止スルニ適當ナル裝置ヲ設クベシ

第六節 紅 燈

第四十五條

燈窓ニハ無色透鏡ヲ裝置シ其ノ内面ニ接シ紅色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

第四十六條

紅色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子が正規ノ位置外ニ止マル虞ナキ構造ト爲スベシ

第四十七條

紅色挿入硝子ニハ金屬製ノ枠ヲ取附クベシ

第四十八條

紅色挿入硝子ハ二箇以上ノ硝子ヲ幅七ミリメートル以下ノ金屬枠ヲ以テ堅ニ接合シタル構造ト爲スコトヲ得

第四十九條

前項ノ硝子堅接合ノ金屬枠ハ火口ノ延長線ノ位置外ニ止マルコトヲ要ス

紅色挿入硝子ノ上縁及下縁ニ於ケル金屬棒ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

第四十七條 火口ハ其ノ中心ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第四十八條 口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後一〇燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第四十九條 紅燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈蓋ト下部燈胴トノ間ニ金屬製ノ梓棒ヲ取附クベシ

第五十條 油壺ヲ燈底ヨリ挿入スル紅燈ニ在リテハ油壺ノ逸脱ヲ防止スルニ適當ナル裝置ヲ設クベシ

第七節 三色 燈
第五十一條 燈窓ニハ無色透鏡ヲ裝置シ其ノ内面ニ接シ左舷側ニ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷側ニ綠色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

第五十二條 燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ縁ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト一・二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス
第五十三條 燈窓ノ前面ニハ燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ミ船燈

第五十八條 三色燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ
第五十九條 三色燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈蓋ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ梓棒ヲ取附クベシ

第八節 船 尾 燈

第六十條 燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第六十一條 燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ縁ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト六七・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第六十二條 火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ後縁ノ中央ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第六十三條 口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後四燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第六十四條 船尾燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ
第九節 操舵目標燈

第六十五條 燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第六十六條 燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ縁ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト九〇度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス
第六十七條 火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ後縁

ノ對稱面ト左右各二・五度ノ角度ヲ爲ス平面内ニ中心面ヲ有スル隔障ヲ設クベシ
隔障ハ燈籠前面ニ鉸附ト爲スベシ

第五十四條 著色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子ガ正規ノ位置外ニ止マル虞ナク且紅色硝子ト綠色硝子トヲ挿違スル虞ナキ構造ト爲スベシ

著色挿入硝子ニハ金屬製ノ梓棒ヲ取附クベシ
著色挿入硝子ノ前縁ニ於ケル金屬棒ノ幅ハ七ミリメートルヲ超ユルコトヲ得ズ

著色挿入硝子ノ上縁、下縁及後縁ニ於ケル金屬棒及挿入裝置ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

第五十五條 著色挿入硝子ノ前縁ニ於ケル金屬棒ノ幅ノ中心線ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス
第五十六條 火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ後縁ノ中央ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第五十七條 口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ一六時間繼續燃照後一〇燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

ノ中央ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ
第六十八條 操舵目標燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ

第十節 信號 燈

第六十九條 燈窓ニハ無色透鏡ヲ裝置スベシ

第七十條 燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ縁ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第七十一條 火口ハ燈籠ノ後面ニ平行ニ置キ且火口ノ中心ヲ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ置クベシ

第七十二條 口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ五時間繼續燃照後五燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第七十三條 信號燈ニハ反射鏡ヲ備フベシ
第七十四條 遮光板ハ敏速ニ開閉シ得ルモノニシテ滑動遮光板ニ在リテハ中央ヨリ兩側ニ開クモノナルコトヲ要ス

鍵盤ハ之ヲ押ヘ付クルニ必要ナル重量ガ四五〇グラム以上九〇〇グラム以下ニシテ其ノ作動距離ハ一〇ミリメートルヲ標準トス

第十一節 安全 燈
第七十五條 燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第七十六條 安全燈内部ニハ燈火ガ直接外氣ニ通ズル部分

ニ二重ノ金網ヲ設クベシ

前項ノ金網ハ徑〇・三二ミリメートル乃至〇・四〇ミリメートルノ針金ヲ使用シ一平方センチメートルニ付一四以上ノ網目ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第七十七條 安全燈ハ鍵又ハ特殊ノ方法ニ依ラザレバ開放シ得ザル構造トナシ且結合部ノ自然的弛緩ヲ防止シ得ル適當ナル装置ヲ備フルコトヲ要ス

第七十八條 安全燈ニハ之ヲ開放セズシテ點火シ得ル装置ヲ設クベシ

第七十九條 安全燈ハ之ヲ高サ一・五メートルノ箇所ヨリ木床上ニ連續三回墜落セシメ異狀ヲ呈セザルモノナルコトヲ要ス

第八十條 安全燈ハ可燃性混氣中ニテ漏火セザルモノナルコトヲ要ス

第八十一條 口金ハ普通ノ燈心及油ヲ使用シ五時間繼續燃照後一・五燭光以上ノ燈光ヲ發シ得ルモノナルコトヲ要ス

第八十二條 安全燈ニハ燈窓外面ニ於テ上部燈胴下部燈胴トノ間ニ金屬製桿ヲ取附クベシ

電球承口取附臺ハ亞麻仁油ヲ以テ絶緣處理ヲ爲シタル樽材又ハ櫻材ナルコトヲ要ス

第八十六條 電球ハ籠形金屬織條ヲ使用セル真空式白熱電球ナルコトヲ要ス

第八十七條 電氣船燈各部ノ寸法ハ第二表ニ依ル

第八十八條 兩色燈、三種白燈、丁種白燈、水先燈及操舵目標燈ノ構造及寸法ハ本節ノ規定ニ依ルノ外當該官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二節 橋 燈

第八十九條 燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第九十條 燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ縁ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト一・二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第九十一條 電球ハ甲種橋燈ニ在リテハ四〇ワット、乙種橋燈ニ在リテハ二〇ワットノモノナルコトヲ要ス

第九十二條 橋燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈胴上部ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ桿ヲ取附クベシ

第三節 舷 燈

第九十三條 甲種舷燈ノ燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置シ其ノ内面ニ接シ左舷舷燈ニ在リテハ紅色圓筒形硝子ヲ、

前項ノ桿ハ相隣レル桿ノ外側ヲ連ネタル直線ガ燈窓硝子ニ接觸セザル構造ト爲スコトヲ要ス

第三章 電氣船燈

第一節 通 則

第八十三條 燈籠ハ燈蓋部ニ於テ閉閉シ得ル構造ト爲スベシ
燈籠ハ電線ヲ挿入セル部分ヨリ飛沫ガ浸入セザル構造ト爲スベシ

第八十四條 電線ハ電氣工作物規程ニ依ル第四種絶緣電線ニシテ導體ノ直徑一ミリメートル以上ノ單線又ハ公稱切斷面積〇・九平方ミリメートル以上ノ撚線ナルコトヲ要ス
電線相互間及電線ト燈籠トノ間ノ絶緣抵抗ハ船毎ニ二メ

ガオーム以上ナルコトヲ要ス
第八十五條 電球承口ハ内徑二三ミリメートルノ挿込承口ト爲シ上向ニ取附ケ且電球ガ一定ノ位置ヨリ移動セザル構造ト爲スベシ
電球承口ノ垂直軸ハ白燈、紅燈及安全燈ニ在リテハ燈窓硝子ノ垂直軸上ニ、其ノ他ノ船燈ニ在リテハ燈窓硝子ノ垂直軸ノ後方九ミリメートルノ位置ニ在ルコトヲ要ス

右舷舷燈ニ在リテハ綠色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ
乙種舷燈ノ燈窓ニハ左舷舷燈ニ在リテハ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷舷燈ニ在リテハ綠色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第九十四條 燈窓硝子ノ後部留金ノ縁ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ燈籠ノ側面ト一・二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス
燈窓硝子ノ前部留金ノ縁ヨリ燈籠ノ側面ニ至ル距離ハ該側面ヨリ電球承口ノ中心ニ至ル距離ヨリ一五ミリメートル以上小ナルコトヲ要ス

第九十五條 著色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子ガ正規ノ位置外ニ止マル虞ナク且左舷舷燈用ノ硝子ヲ右舷舷燈ニ、右舷舷燈用ノ硝子ヲ左舷舷燈ニ挿入シ得ザル構造ト爲スベシ
著色挿入硝子ニハ金屬製ノ桿ヲ取附クベシ
著色挿入硝子ノ金屬桿及挿入裝置ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

第九十六條 電球ハ甲種舷燈ニ在リテハ四〇ワット、乙種舷燈ニ在リテハ二〇ワットノモノナルコトヲ要ス

第九十七條 燈籠側部ノ掛具及隔板ニ取附クル突起金具ノ形狀及寸法ハ第一圖ニ依ル

隔板ノ形状及寸法ハ第五圖乃至第七圖ニ依ル
第九十八條 甲種舷燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈胴上部ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ梓棒ヲ取附クベシ

第四節 白 燈

第九十九條 燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第一百條 電球ハ甲種白燈ニ在リテハ四〇ワット、乙種白燈ニ在リテハ二〇ワットノモノナルコトヲ要ス

第一百一條 白燈ニハ燈窓外面ニ於テ上部燈胴ト下部燈胴トノ間ニ金屬製ノ梓棒ヲ取附クベシ

第五節 紅 燈

第一百二條 燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置シ其ノ内面ニ接シ紅色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

第一百三條 紅色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子ガ正規ノ位置外ニ止マル虞ナキ構造ト爲スベシ

紅色挿入硝子ニハ金屬製ノ梓ヲ取附クベシ

紅色挿入硝子ハ二箇以上ノ硝子ヲ幅七ミリメートル以下ノ金屬梓ヲ以テ堅ニ接合シタル構造ト爲スコトヲ得

紅色挿入硝子ノ上縁及下縁ニ於ケル金屬梓ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

第一百四條 電球ハ四〇ワットノモノナルコトヲ要ス

船燈種類	光達距離	射 光 角 度	型 種	燈	
				種 類	横載内 面角度
甲種檣燈	5海里以上	225°	第一種 第二種	無 色 透 鏡 無 色 透 鏡	230° 230°
乙種檣燈	3海里以上	225°	—	無色圓筒形硝子	230°
甲種舷燈	2海里以上	112.5°	第一種 第二種	無 色 透 鏡 無 色 透 鏡	125° 125°
乙種舷燈	1海里以上	112.5°	—	著色圓筒形硝子	125°
甲種兩色燈	1海里以上	左右舷 112.5°	—	著色圓筒形硝子	115°
乙種兩色燈	1海里以上	—	—	著 色 透 鏡	—
甲種白燈	3海里以上	360°	第一種 第二種	無 色 透 鏡 無 色 透 鏡	360° 360°
乙種白燈	2海里以上	360°	—	無色棗形硝子	360°
丙種白燈	1海里以上	360°	—	無色棗形硝子	360°
丁種白燈	—	360°	—	無色球形硝子	360°
紅 燈	2海里以上	360°	—	無 色 透 鏡	360°
三色 燈	2海里以上	左右舷90° 中央 45°	第一種 第二種	無 色 透 鏡 無 色 透 鏡	230° 230°
船尾燈	2海里以上	135°	—	無色圓筒形硝子	140°
操舵目標燈	—	180°	—	無色圓筒形硝子	185°
信號燈	—	45°	—	無 色 透 鏡	50°
安全燈	—	360°	—	無色圓筒形硝子	360°

第一百五條 紅燈ニハ燈窓外面ニ於テ上部燈胴ト下部燈胴トノ間ニ金屬製ノ梓棒ヲ取附クベシ

第六節 三 色 燈

第一百六條 燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置シ其ノ内面ニ接シ左舷側ニ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷側ニ綠色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

第一百七條 燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ縁ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト一・二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第一百八條 燈窓ノ前面ニハ燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ミ船燈ノ對稱面ト左右各二・五度ノ角度ヲ爲ス平面内ニ中心面ヲ有スル隔障ヲ設クベシ

隔障ハ燈籠前面ニ銜附ト爲スベシ

第一百九條 著色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子ガ正規ノ位置外ニ止マル虞ナク且紅色硝子ト綠色硝子トヲ挿入スル虞ナキ構造ト爲スベシ

著色挿入硝子ニハ金屬製ノ梓ヲ取附クベシ

著色挿入硝子ノ前縁ニ於ケル金屬梓ノ幅ハ七ミリメートルヲ超ユルコトヲ得ズ

著色挿入硝子ノ上縁、下縁及後縁ニ於ケル金屬梓及挿入裝置ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザル

第一表
油船燈寸法表

光達距離	射光角度	型種	燈 窓 硝 子							著色挿入硝子ノ厚サ (耗)	燈 胴				寸 法				火 口 寸 法			
			種 類	横載内面角度	透鏡又ハ硝子ノ横載内面半徑 (耗)	無色硝子ノ外徑 (耗)	形又ハ球形ノ外徑 (耗)	高サ (留金部ヲ含ム) (耗)	厚サ (透鏡ヲ除ク) (耗)		端面ノ幅 (耗)	側面ノ幅 (耗)	上部燈胴ノ徑 (耗)	下部燈胴ノ徑 (耗)	高サ (耗)	板ノ厚サ (耗)	捲込針金ノ徑 (耗)	扉板ノ厚サ (耗)	石 油 用		種 油 用	
					内 幅 (燈心ノ幅) (耗)	板ノ厚サ (耗)	内 幅 (燈心ノ幅) (耗)	板ノ厚サ (耗)														
5海里以上	225°	第一種 第二種	無色透鏡 無色透鏡	230° 230°	115 95	—	180 165	—	—	300 230	300 230	—	—	340 330	0.60 0.60	3.20 3.20	0.90 0.60	32 32	0.45 0.45	—	—	
3海里以上	225°	—	無色圓筒形硝子	230°	95	—	130	6	—	230	230	—	—	280	0.45	2.60	0.45	25	0.45	—	—	
2海里以上	112.5°	第一種 第二種	無色透鏡 無色透鏡	125° 125°	125 105	—	180 165	—	3 3	260 210	260 210	—	—	340 330	0.60 0.60	3.20 3.20	0.90 0.60	32 32	0.45 0.45	—	—	
1海里以上	112.5°	—	著色圓筒形硝子	125°	100	—	130	5	—	200	200	—	—	280	0.45	2.60	0.45	25	0.45	—	—	
1海里以上	左右舷 112.5°	—	著色圓筒形硝子	115°	100	—	130	5	—	220	220	—	—	280	0.45	2.60	0.45	25	0.45	—	—	
1海里以上	—	—	著色透鏡	—	—	—	122	—	—	160	160	—	—	190	0.40	2.00	0.40	15	0.35	—	—	
3海里以上	360°	第一種 第二種	無色透鏡 無色圓筒形硝子	360° 360°	95 95	—	165 165	— 6	—	—	—	260 260	260 260	320 320	0.60 0.60	3.20 3.20	—	25 32	0.45 0.45	—	—	
2海里以上	360°	—	無色棗形硝子	360°	—	220	260	4	—	—	—	120	140	440	0.45	2.60	—	25	0.45	—	—	
1海里以上	360°	—	無色棗形硝子	360°	—	220	260	4	—	—	—	120	140	440	0.45	2.60	—	15	0.45	—	—	
—	360°	—	無色球形硝子	360°	—	200	160	4	—	—	—	80	110	260	0.40	2.00	—	15	0.35	25	0.40	
2海里以上	360°	—	無色透鏡	360°	95	—	165	—	3	—	—	260	260	320	0.60	3.20	—	32	0.45	—	—	
2海里以上	左右舷90° 中央 45°	第一種 第二種	無色透鏡 無色透鏡	230° 230°	115 95	—	180 165	—	3 3	300 230	300 230	—	—	340 330	0.60 0.60	3.20 3.20	0.90 0.60	32 32	0.45 0.45	—	—	
2海里以上	135°	—	無色圓筒形硝子	140°	85	—	130	5	—	220	220	—	—	280	0.45	2.60	—	25	0.45	—	—	
—	180°	—	無色圓筒形硝子	185°	65	—	100	3	—	160	160	—	—	190	0.40	2.00	—	15	0.35	25	0.40	
—	45°	—	無色透鏡	50°	95	—	165	—	—	230	230	—	—	280	0.45	2.60	—	15	0.35	—	—	
—	360°	—	無色圓筒形硝子	360°	25	—	69	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	徑 6	0.45	—	—	

第四百條 電球ハ四〇ワットノモノナルコトヲ要ス

紅色挿入硝子ニハ金屬製ノ枠ヲ取附クベシ
 紅色挿入硝子ハ二箇以上ノ硝子ヲ幅七ミリメートル以下
 ノ金屬枠ヲ以テ堅ニ接合シタル構造ト爲スコトヲ得
 紅色挿入硝子ノ上縁及下縁ニ於ケル金屬枠ハ燈火ノ各點
 ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要
 ス

ニ止マル處ナク且紅色硝子ト綠色硝子トヲ插違スル處ナ
 キ構造ト爲スベシ
 著色挿入硝子ニハ金屬製ノ枠ヲ取附クベシ
 著色挿入硝子ノ前縁ニ於ケル金屬枠ノ幅ハ七ミリメー
 ルヲ超ユルコトヲ得ズ
 著色挿入硝子ノ上縁、下縁及後縁ニ於ケル金屬枠及挿入
 装置ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザル